

男女共同参画社会づくりに向けての 市民意識調査結果報告書

平成28年3月

豊 前 市

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の性格	1
4. 回答者の属性	2
5. 調査結果利用上の注意	6

II 調査結果

第1章 男女共同参画社会づくりについて

1. 「男女共同参画社会」という言葉の認知	7
2. 男女がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと	9

第2章 男女の地位・役割について

1. 性別役割分担意識	11
2. 男女の地位の平等感	14
3. 女性が職業を持つことについて	29

第3章 家庭生活について

1. 家庭内の役割分担	33
2. 結婚についての考え方	44
3. 子どものしつけや教育についての考え方	51

第4章 地域活動について

1. 現在参加している地域活動	57
2. 地域活動での役割分担	59
(1) 現状	59
(2) 今後	62
3. 地域活動について	65
(1) 地域の役職に女性が推薦された場合の対処	65
(2) 断る（断ることをすすめる）理由	67

第5章 暴力・セクハラについて

1. 暴力について	69
(1) 暴力の認識	69
(2) 暴力の経験	72
2. 相談の有無	78
3. 相談しなかった理由	80
4. セクハラの経験	82
5. セクハラを受けた内容	84

第6章 ワーク・ライフ・バランスについて

1. 「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)という言葉の認知	87
2. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	89
3. 調和のとれた生活をするための条件整備	91

第7章 「ハートピアぶぜん」について

1. 「ハートピアぶぜん」の認知	95
2. 「ハートピアぶぜん」の利用目的	97
3. 「ハートピアぶぜん」に期待すること	98

第8章 今後の男女共同参画に関する施策について

1. 「男女共同参画社会」を実現するために行政が力を入れること	101
---------------------------------	-----

第9章 調査結果のまとめと今後の課題

第1章 男女共同参画社会づくりについて	105
第2章 男女の地位・役割について	105
第3章 家庭生活について	106
第4章 地域活動について	107
第5章 暴力・セクハラについて	107
第6章 ワーク・ライフ・バランスについて	109
第7章 「ハートピアぶぜん」について	109
第8章 今後の男女共同参画に関する施策について	109

Ⅲ 参考資料

◎使用した調査票	111
----------	-----

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、豊前市における男女共同参画意識についての現状を把握し、今後の施策に反映させることを目的として実施した。

2. 調査項目

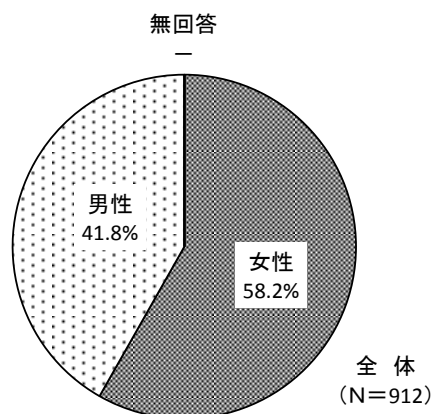
- (1) 男女共同参画社会づくりについて
- (2) 男女の地位・役割について
- (3) 家庭生活について
- (4) 地域活動について
- (5) 暴力・セクハラについて
- (6) ワーク・ライフ・バランスについて
- (7) 「ハートピアぶぜん」について
- (8) 今後の男女共同参画に関する施策について

3. 調査の性格

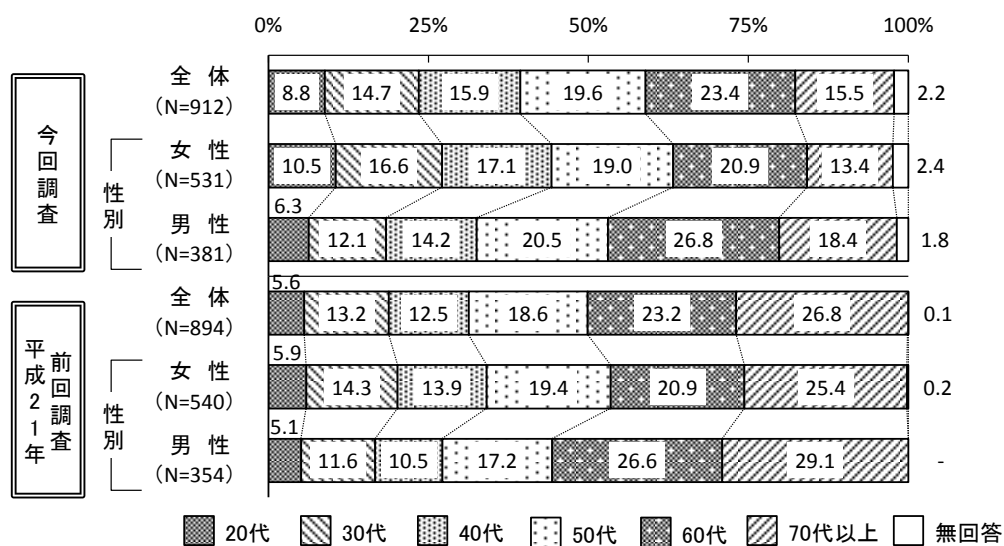
- (1) 調査地域 豊前市全域
- (2) 調査対象者 市内に居住する20歳以上の男女。
- (3) 調査対象者数 2,000サンプル
(有効回答数 912サンプル 有効回収率 45.6%)
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 平成27年10月23日(金)～11月9日(月)
- (7) 分析の監修と
まとめ 武藤 桐子(NPO法人福岡ジェンダー研究所研究員)

4. 回答者の属性

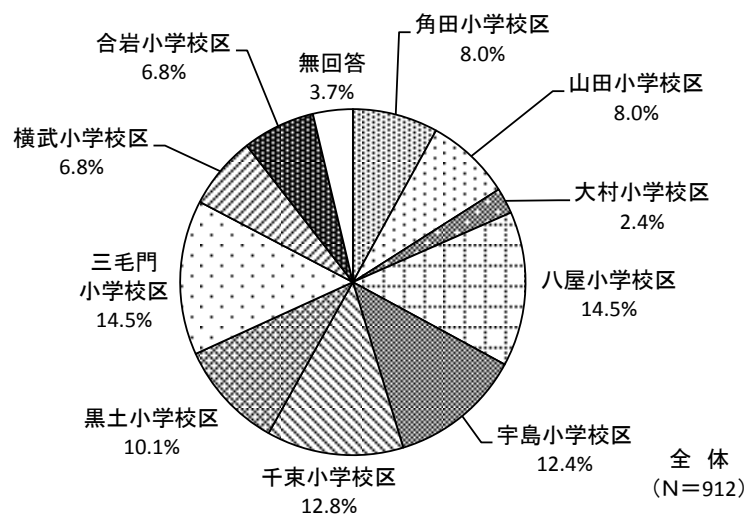
◆性 別



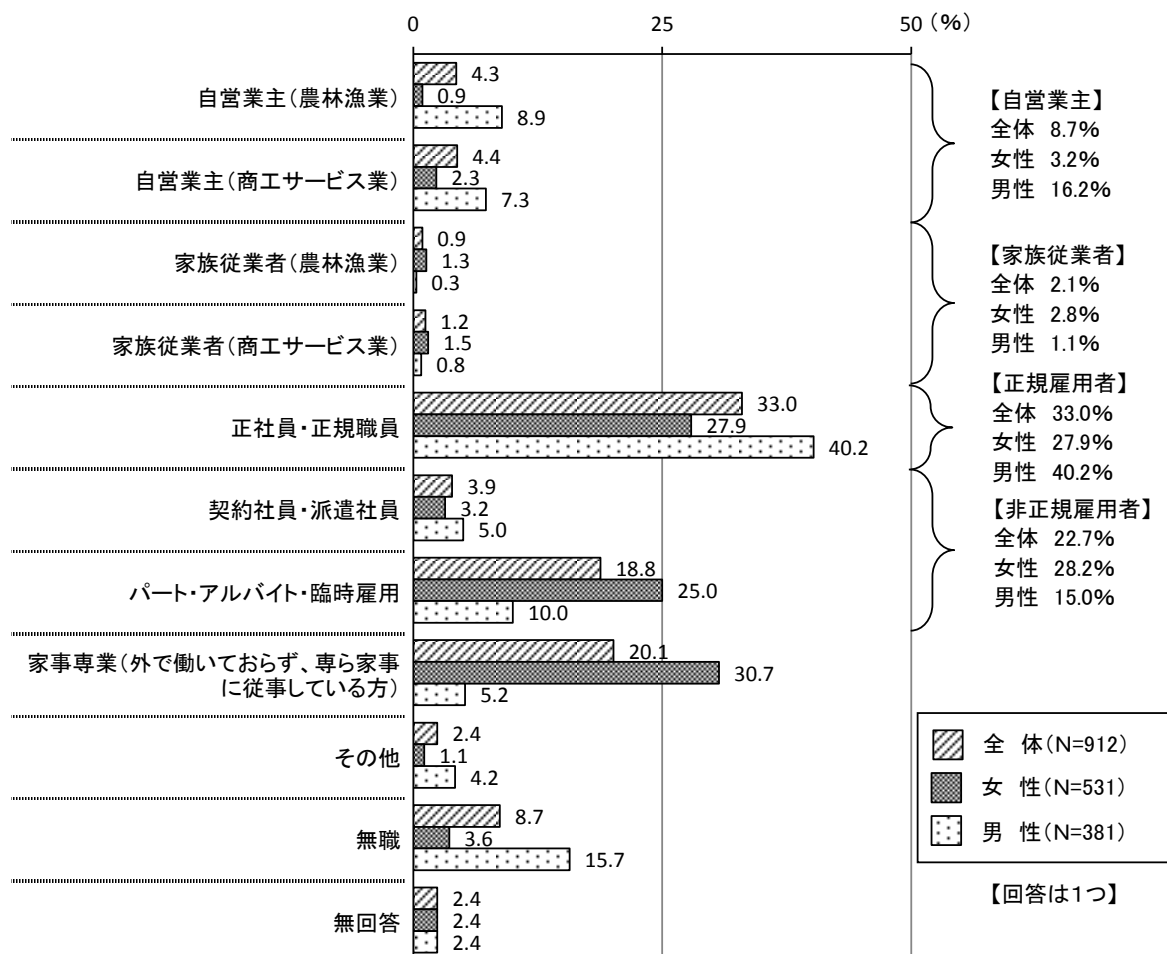
◆年 齢



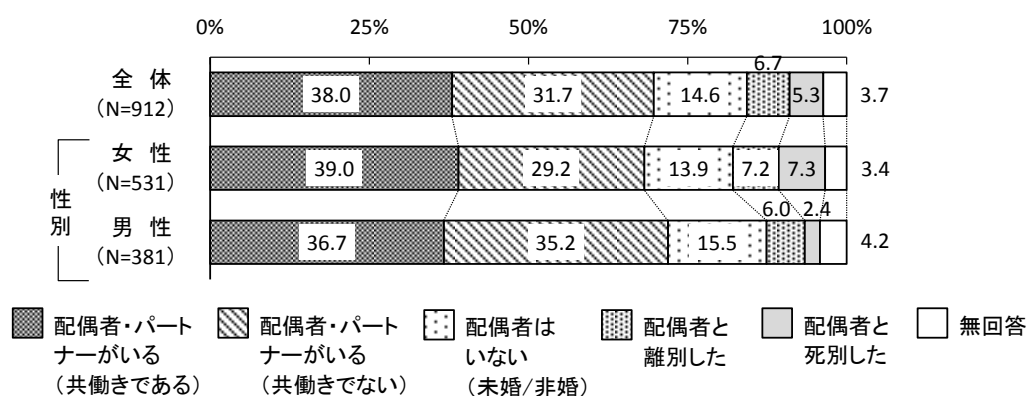
◆居住地



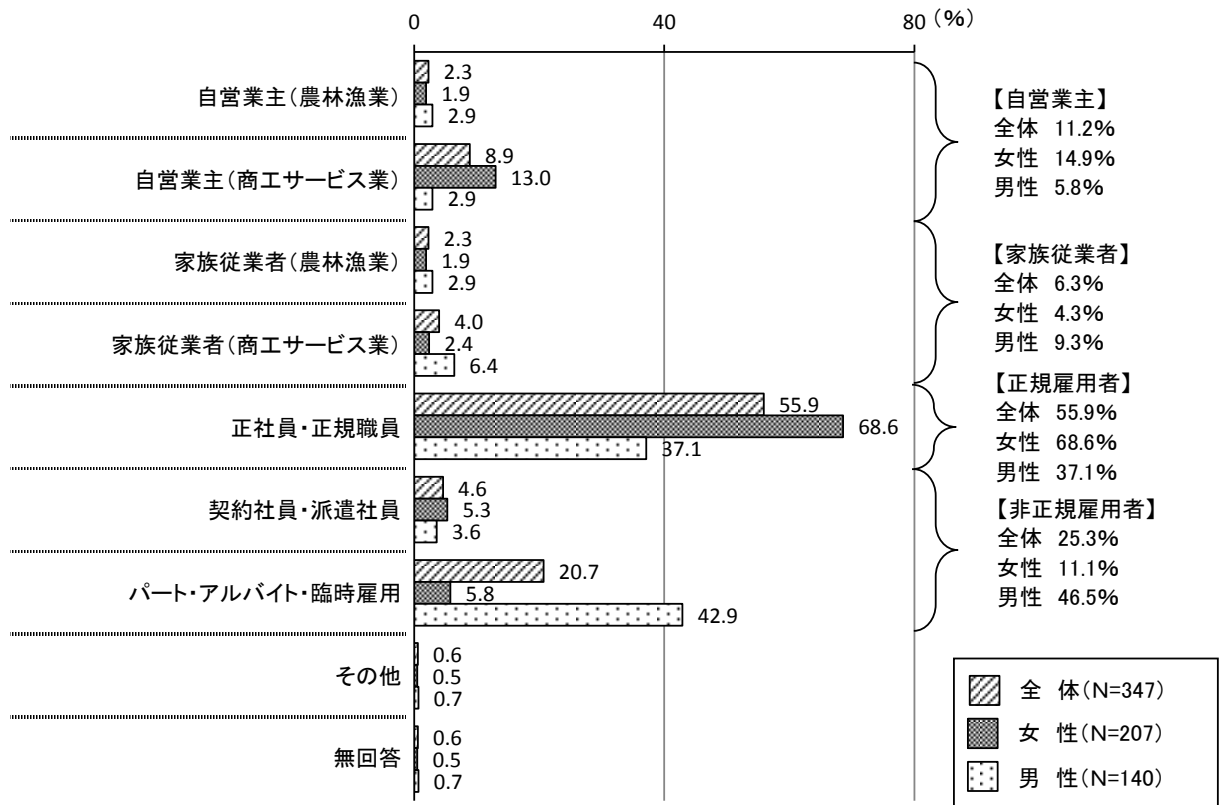
◆対象者の職業



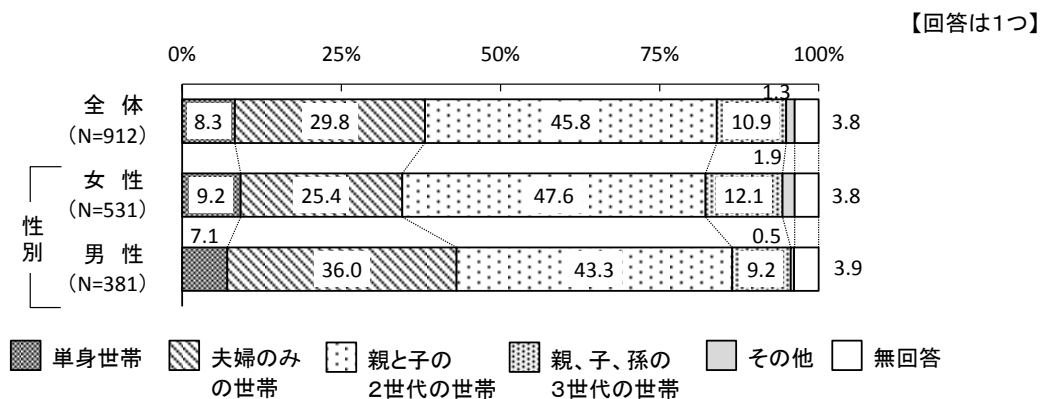
◆配偶関係



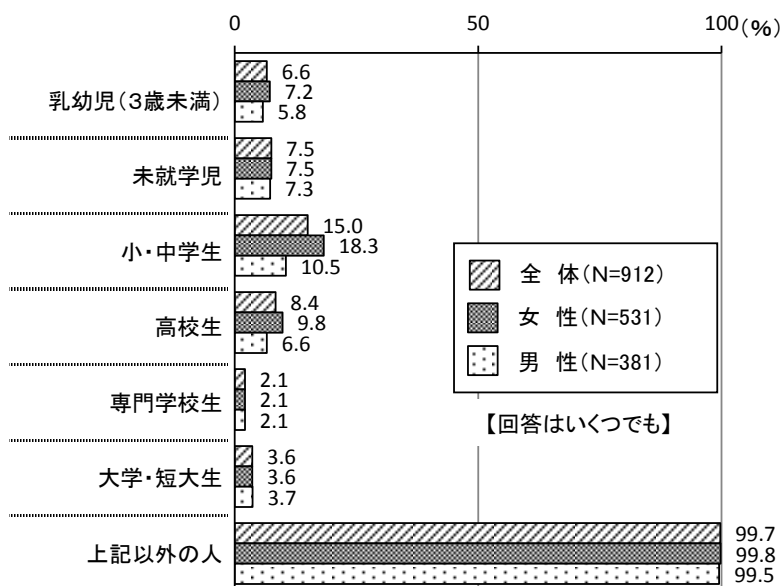
◆配偶者・パートナーの職業（共働きの人のみ）



◆家族構成



◆同居家族



◆標本の実現値、期待値

		実現値(回答数)		期待値	住民基本台帳 平成27年9月30日	
		実数	比率		実数	比率
性別	女性	531	58.2	489	11,878	53.6
	男性	381	41.8	423	10,271	46.4
	計	912	100.0	912	22,149	100.0
年代別	20代	80	9.0	88	2,189	9.9
	30代	134	15.0	110	2,719	12.3
	40代	145	16.3	128	3,176	14.3
	50代	179	20.1	124	3,085	13.9
	60代	213	23.9	180	4,464	20.2
	70代以上	141	15.8	262	6,516	29.4
	計	892	100.0	892	22,149	100.0

本調査の対象者は無作為抽出されているため、調査結果は調査対象集団（母集団）の縮図になるはずである。しかし、一部には回答を得られなかったものもあり、場合によっては縮図にならないこともあり得る。そこで得られた回答者が調査対象集団（母集団）の縮図とみなすことができるかどうか、住民基本台帳から性別と年代別の期待値を算出し比べてみた。

性別は住民基本台帳から得た人数は女性 11,878 人、男性 10,271 人で、割合は女性が 53.6%、男性が 46.4% となり、この調査で期待された人数は女性が 489 人、男性が 423 人である。本調査の回答数は女性 531 人（58.2%）、男性 381 人（41.7%）で、やや女性の回答者が多く、男性が少ない状況である。

年代別では、30代から60代は期待値よりもこの調査の回答者は多く、特に50代は124人（13.9%）の期待値であるが、回答者は179人（20.1%）となっている。反対に70代以上は262人（29.4%）の期待値であるが回答者は141人（15.8%）と少なくなっている。

以上の結果から、本調査における標本の特性は性別、年代別で調査対象母集団と差がみられ、特に50代と70代以上で差がみられるが、結果についてもあらかじめこの点に留意をする必要がある。

5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数以下第2位を四捨五入しているので、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「－」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) S Qは、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。

豊前市「男女共同参画に関する市民意識調査」平成21年9月実施

豊前市「男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査」平成13年実施

福岡県「男女共同参画社会に向けての意識調査」平成26年12月実施

内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」平成26年8月実施

内閣府「男女共同参画に関する世論調査」平成24年10月実施

内閣府「男女間における暴力に関する調査」平成23年11月実施

Ⅱ 調査結果

第1章 男女共同参画社会づくりについて

1. 「男女共同参画社会」という言葉の認知
2. 男女がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

Ⅱ 調査結果

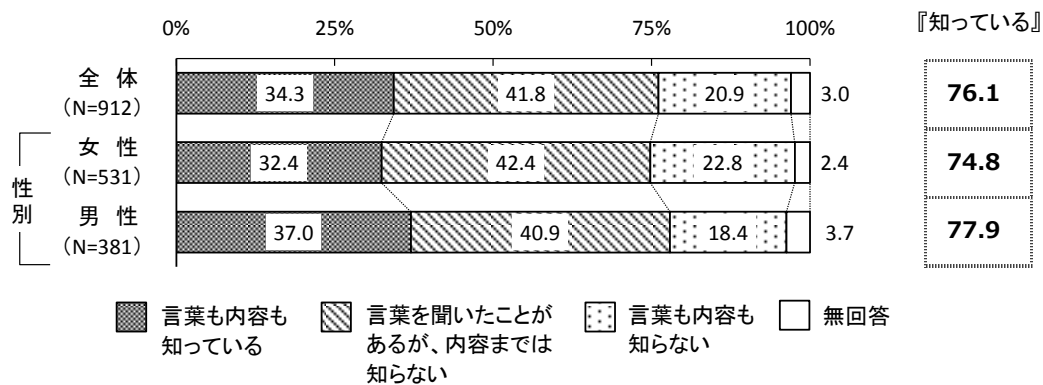
第1章 男女共同参画社会づくりについて

1. 「男女共同参画社会」という言葉の認知

- 「言葉も内容も知っている」は、男性の方が女性よりも約5ポイント高い。男女とも20代での認知が最も高く、反対に最も低いのは30代となっている。

問1 「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

図表1-1 「男女共同参画社会」という言葉の認知〔全体、性別〕

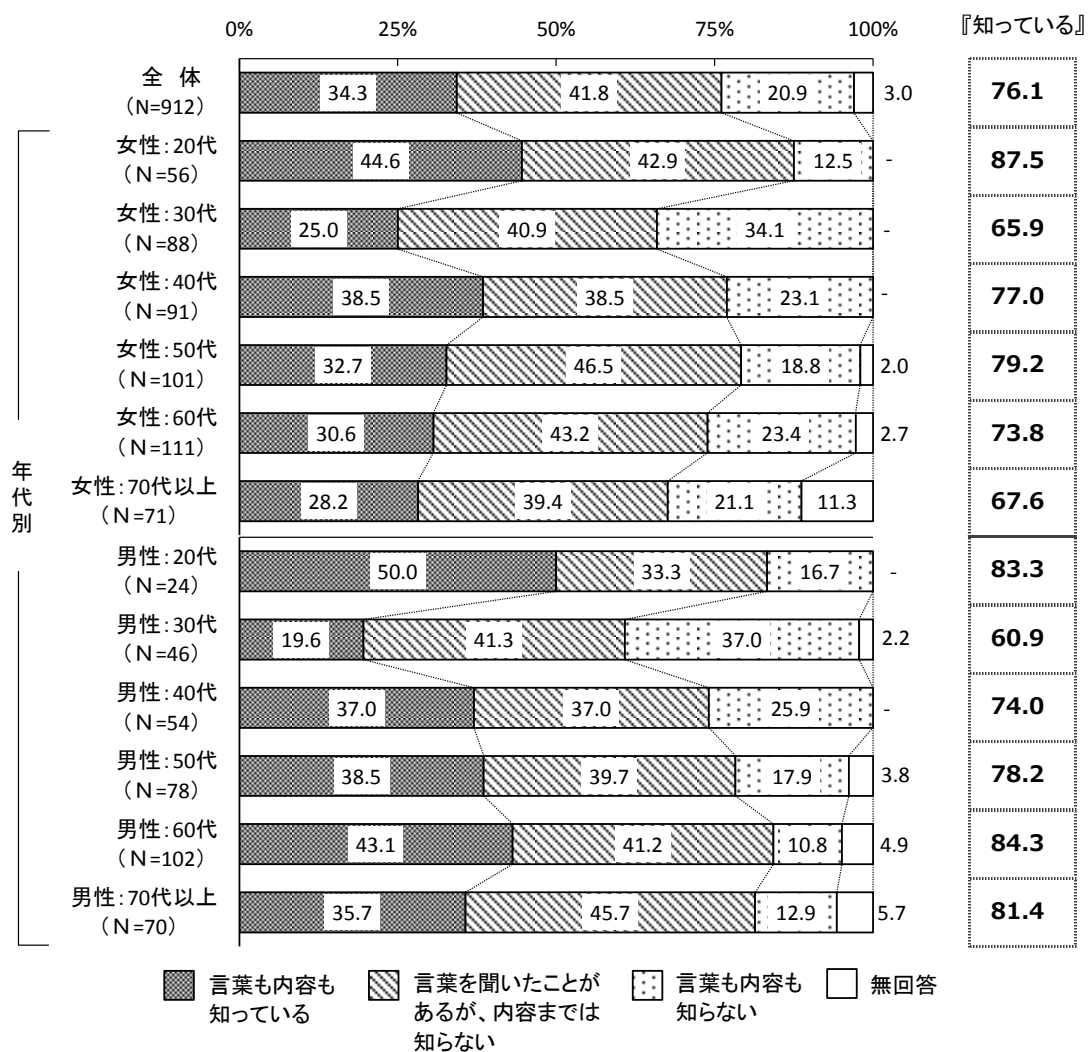


「男女共同参画社会」という言葉を知っているかどうかたずねたところ、「言葉も内容も知っている」は34.3%、「言葉を聞いたことがあるが、内容までは知らない」が41.8%で言葉の認知については76.1%の人が『知っている』と回答している。「言葉も内容も知らない」は20.9%と約2割である。

性別でみると、「言葉も内容も知っている」は男性が37.0%で女性の32.4%を4.6ポイント上回り、「言葉を聞いたことがあるが、内容までは知らない」は女性が42.4%で男性の40.9%をやや上回っており、言葉の認知は男性が77.9%、女性が74.8%である。「言葉も内容も知らない」は女性が22.8%で男性の18.4%を4.4ポイント上回っている。

年代別でみると、言葉の認知が8割を超えるのは女性の20代、男性の20代と60代、70代以上であるが、「言葉も内容も知っている」をみると男女とも20代（女性44.6%、男性50.0%）の割合が最も高くなっている。反対に、認知度が最も低いのは男女とも30代（女性25.0%、男性19.6%）で、「言葉も内容も知らない」の割合が女性で34.1%、男性で37.0%と最も高くなっている。女性は40代、50代で再び認知度は上がるが60代になると再び低くなる。男性は40代、50代よりも60代や70代以上の方が認知度は高くなっている。

図表1-2 「男女共同参画社会」という言葉の認知〔全体、年代別〕

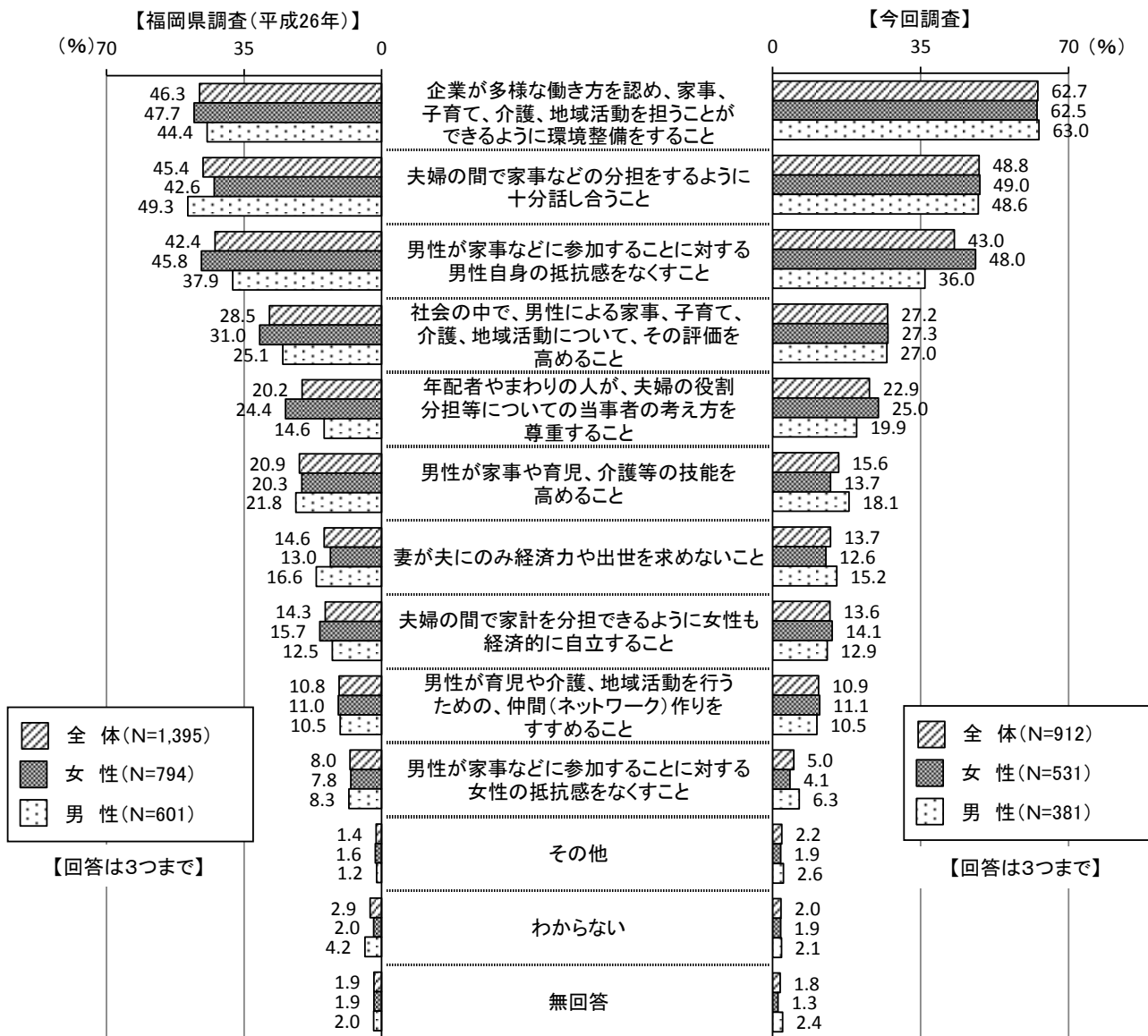


2. 男女がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

●男女ともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは「企業が多様な働き方を認め、環境整備をする」が6割台で第1位。

問2 男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表1-3 男女がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと
[全体、性別] (福岡県調査比較)



男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは「企業が多様な働き方を認め、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように環境整備をすること」が62.7%で最も高く、次いで「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が48.8%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が43.0%で上位3位となっている。

性別でみると、上位2位までの項目の割合は男女ともほとんど変わらないが、第3位の「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性が48.0%に対し、男性は36.0%と12ポイント女性の方が高い。また、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」（女性25.0%、男性19.9%）も女性の方が5.1ポイント高くなっている。男性は「男性が家事や育児、介護等の技能を高めること」（女性13.7%、男性18.1%）が4.4ポイント高くなっているが、その他の項目では大差はあまりみられない。

平成26年12月に実施された福岡県の「男女共同参画社会に向けての意識調査」（以下、福岡県調査という）と比較すると、上位3位の順位は同じであるが、第1位の「企業が多様な働き方を認め、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように環境整備をすること」の割合が今回調査の方が男女とも6割台で福岡県調査よりも2割近く高くなっている。また、第2位の「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」は女性の割合が今回の方が6.4ポイント高く、第6位の「男性が家事や育児、介護等の技能を高めること」は6.6ポイント低くなっている。

年代別でみると、「企業が多様な働き方を認め、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように環境整備をすること」は女性の30代と50代で7割近くと高率で、また男性の40代では75.9%と最も高くなっている。「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」は女性では年齢が低い層で、反対に男性は年齢が高い層での割合が高い傾向にある。「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性では年齢が高くなるほど割合が高くなっている。また、「男性が家事や育児、介護等の技能を高めること」は男性の20代と60代で2割半ば、「妻が夫にのみ経済力や出世を求めないこと」は男性の20代、30代で約2割と他の年代に比べて割合が高くなっている。

図表1-4 男女がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと
[全体、年代別]

																	(%)		
		標 本 数	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	専ら分担等についての人々が、夫婦の役割を尊重すること	年配者やまわりの当事者の考え方を分担すること	女性も経済的に自立すること	夫婦の間で家計を分担できるように	男性が家事や育児、介護等の技能を高めること	妻が夫にのみ経済力や出世を求めないこと	男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	男性が子育てや介護、地域活動を行うことができるように環境整備を担うこと	企業が多様な働き方を認め、家事、子育て、介護、地域活動を担うこと	評価を高めること	社会の中で、男性による家事、その育	その他	わからない	無回答
全 体		912 100.0	392 43.0	46 5.0	445 48.8	209 22.9	124 13.6	142 15.6	125 13.7	99 10.9	572 62.7	248 27.2	20 2.2	18 2.0	16 1.8				
年 代 別	女性:20代	56	39.3	3.6	53.6	21.4	16.1	17.9	12.5	21.4	64.3	25.0	1.8	1.8	-				
	女性:30代	88	43.2	5.7	51.1	25.0	10.2	10.2	12.5	8.0	68.2	29.5	2.3	4.5	1.1				
	女性:40代	91	45.1	1.1	44.0	28.6	13.2	16.5	12.1	7.7	62.6	34.1	2.2	2.2	-				
	女性:50代	101	45.5	3.0	52.5	23.8	14.9	14.9	12.9	11.9	67.3	24.8	1.0	-	2.0				
	女性:60代	111	54.1	6.3	46.8	23.4	15.3	13.5	13.5	13.5	56.8	27.9	0.9	-	1.8				
	女性:70代以上	71	57.7	5.6	46.5	25.4	16.9	9.9	11.3	8.5	54.9	19.7	4.2	4.2	2.8				
	男性:20代	24	33.3	4.2	41.7	20.8	16.7	25.0	20.8	12.5	62.5	20.8	4.2	4.2	-				
	男性:30代	46	37.0	8.7	43.5	13.0	13.0	17.4	23.9	10.9	56.5	28.3	8.7	2.2	-				
	男性:40代	54	33.3	3.7	53.7	11.1	11.1	13.0	9.3	9.3	75.9	37.0	3.7	-	1.9				
	男性:50代	78	33.3	5.1	41.0	20.5	14.1	10.3	11.5	9.0	65.4	28.2	1.3	3.8	2.6				
男性:60代	102	40.2	5.9	52.9	24.5	12.7	26.5	11.8	10.8	60.8	29.4	2.0	-	2.0					
男性:70代以上	70	37.1	10.0	54.3	25.7	12.9	15.7	18.6	11.4	58.6	17.1	-	2.9	4.3					
無回答		20	40.0	-	45.0	25.0	5.0	20.0	25.0	5.0	65.0	25.0	-	5.0	5.0				

第2章 男女の地位・役割について

1. 性別役割分担意識
2. 男女の地位の平等感
3. 女性が職業を持つことについて

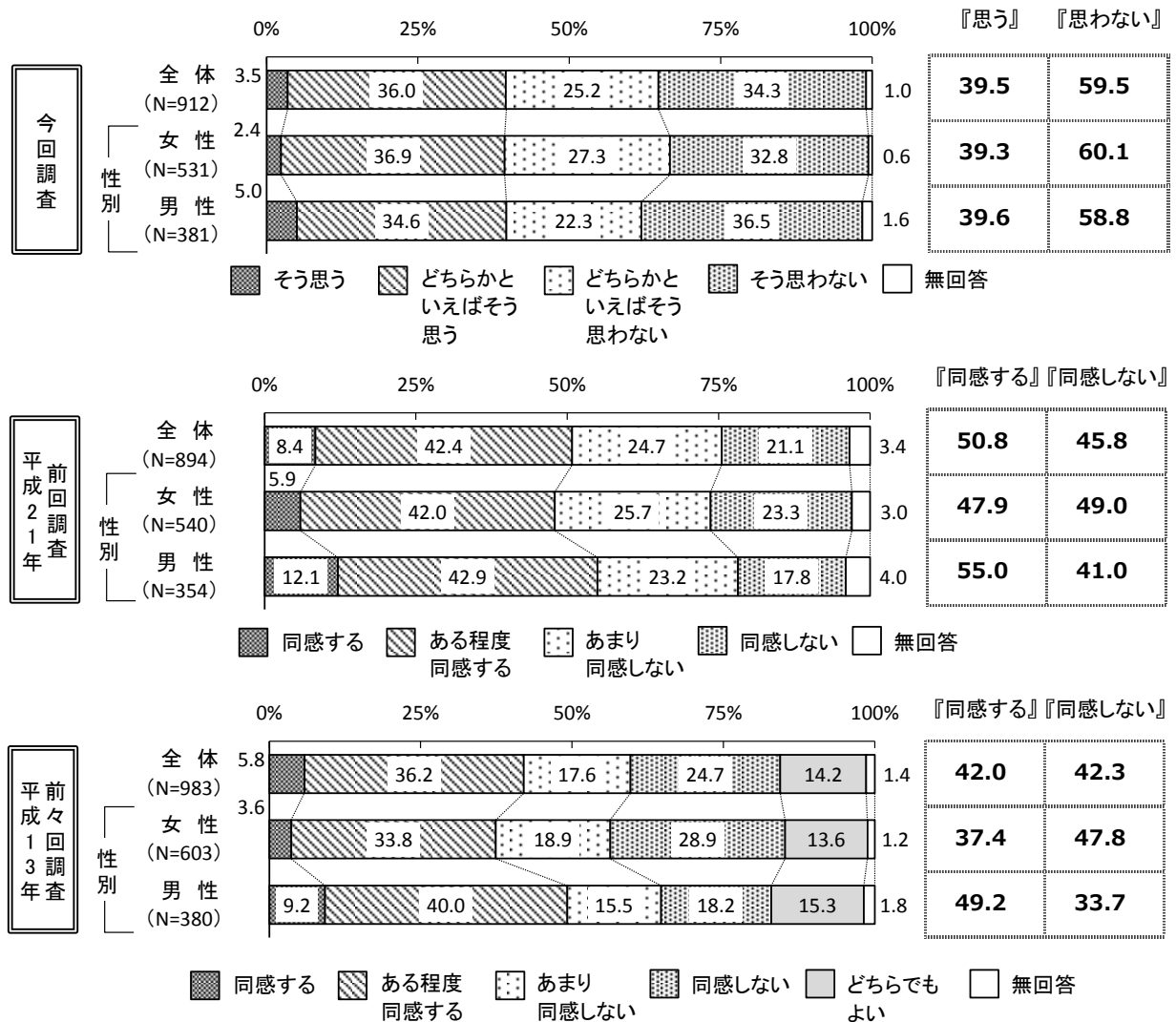
第2章 男女の地位・役割について

1. 性別役割分担意識

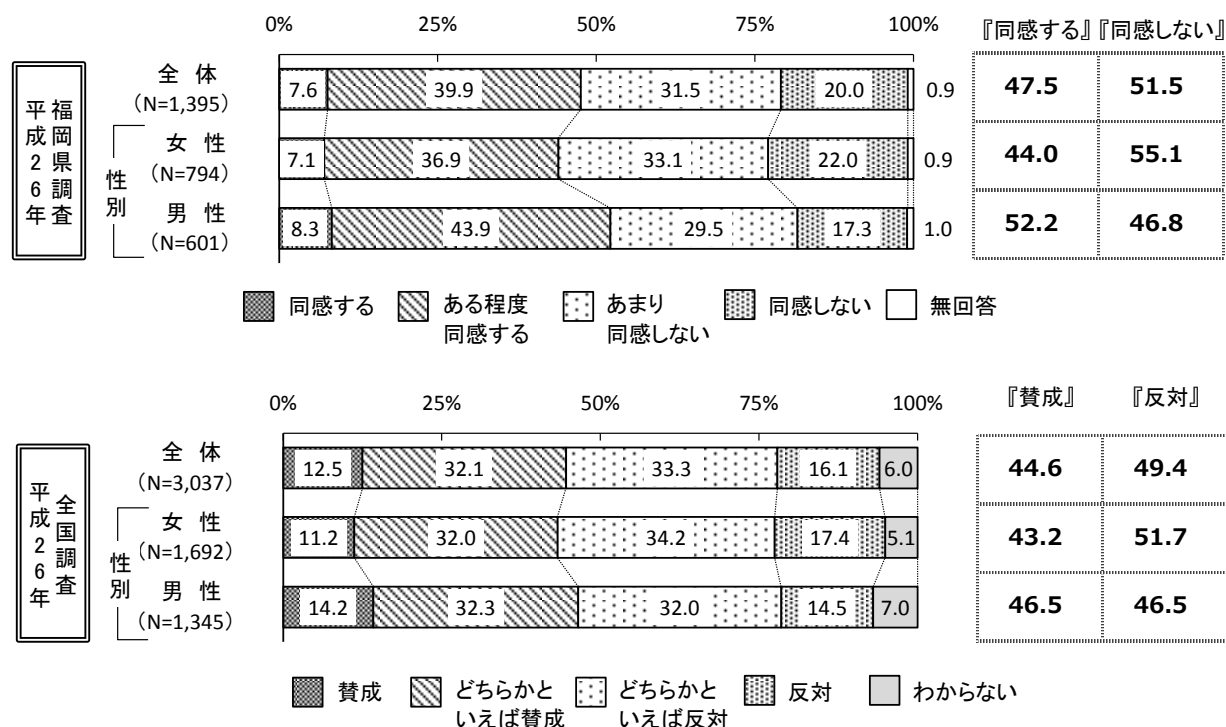
- 性別役割分担意識を容認しない人は男女とも約6割。前回調査に比べ約2割増えている。
- 特に男性で容認しない人が増加しており、男性の意識の変化がうかがえる。
- 容認しない人は女性では年齢が高い層、男性では年齢が低い層に多い傾向がある。

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。(〇は1つ)

図表2-1(1) 性別役割分担意識[全体、性別](前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



図表 2-1 (2) 性別役割分担意識 [全体、性別] (前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



「男は仕事、女は家庭」という考え方について「そう思う」が3.5%、「どちらかといえばそう思う」が36.0%でこれらを合わせた『思う』は39.5%、約4割となっている。「そう思わない」は34.3%、「どちらかといえばそう思わない」は25.2%でこれらを合わせた『思わない』は59.5%と約6割で、性別役割分担を容認しない人の方が2割ほど多くなっている。

性別でみると、『思う』割合は男女とも大差はないが、性別役割分担を強く容認する「そう思う」は男性が5.0%と割合は低い女性(2.4%)よりもやや高い。『思わない』は女性が60.1%で男性(58.8%)よりもやや高いものの、女性は容認しないことにやや消極的な「どちらかといえばそう思わない」の割合が27.3%で男性(22.3%)よりも5ポイント高く、男性は強く容認しない「そう思わない」が36.5%で女性(32.8%)を3.7ポイント上回っている。

経年比較でみると、平成21年9月に実施された豊前市「男女共同参画に関する市民意識調査」(以下、前回調査という)と平成13年に実施された豊前市「男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査」(以下、前々回調査という)とは項目が違うが、性別役割分担を容認しない人は男女とも増加傾向にあり、女性で約1割、男性で約2割増と変化がみられる。容認する人は男女とも前回調査で一旦増加したが、今回調査では女性で約1割、男性で1割半ば減り、特に男性での変化が大きい。

福岡県調査と比較すると、今回調査の方が性別役割分担を容認しない人が女性で5ポイント、男性で12ポイント高くなっており、項目の違いはあるものの特に強く容認しない人の割合が男女とも福岡県調査よりも約2割多い。

また、平成26年8月に実施された内閣府の「女性の活躍推進に関する世論調査」(以下、全国調査という)と比較すると、やはり項目の違いはあるものの性別役割分担を容認しない人が男女とも約1割今回調査の方が多く、強く容認しない人の割合は約2倍となっている。

年代別でみると、『思わない』の割合は女性では年齢が高い層で、男性は年齢が低い層で高くなる傾向にある。女性の20代では『思わない』が51.8%と『思う』(48.2%)と大差がみられないのに対し、男性の20代では『思わない』が70.8%と最も高く、『思う』が29.2%と大差があり、同年代でも性別による違いが大きい。

既未婚別でみると、男女とも未婚者で『思わない』の割合が6割台と既婚者に比べ高くなっている。また、離・死別では女性は『思わない』が66.3%と最も高いが、男性では56.3%と最も低くなっている。

図表2-2 性別役割分担意識[全体、年代別、既未婚別]

(%)

		標 本 数	そ う 思 う	え ど ち そ ら う か 思 う い	な え ど ち そ ら う か 思 わ い	そ う 思 わ な い	無 回 答	『 思 う 』	『 思 わ な い 』
全 体		912 100.0	32 3.5	328 36.0	230 25.2	313 34.3	9 1.0	360 39.5	543 59.5
年 齢 別	女性:20代	56	3.6	44.6	25.0	26.8	—	48.2	51.8
	女性:30代	88	5.7	37.5	21.6	35.2	—	43.2	56.8
	女性:40代	91	1.1	36.3	23.1	39.6	—	37.4	62.7
	女性:50代	101	2.0	38.6	27.7	28.7	3.0	40.6	56.4
	女性:60代	111	0.9	31.5	33.3	34.2	—	32.4	67.5
	女性:70代以上	71	2.8	35.2	32.4	29.6	—	38.0	62.0
	男性:20代	24	—	29.2	25.0	45.8	—	29.2	70.8
	男性:30代	46	6.5	34.8	26.1	32.6	—	41.3	58.7
	男性:40代	54	1.9	29.6	22.2	46.3	—	31.5	68.5
	男性:50代	78	3.8	29.5	21.8	42.3	2.6	33.3	64.1
	男性:60代	102	5.9	39.2	23.5	30.4	1.0	45.1	53.9
	男性:70代以上	70	7.1	42.9	15.7	30.0	4.3	50.0	45.7
無回答		20	5.0	30.0	30.0	35.0	—	35.0	65.0
既 未 婚 別	女性:既婚	362	2.2	38.4	25.7	32.9	0.8	40.6	58.6
	女性:未婚	74	2.7	35.1	27.0	35.1	—	37.8	62.1
	女性:離・死別	77	2.6	31.2	32.5	33.8	—	33.8	66.3
	男性:既婚	274	4.7	36.5	22.3	34.7	1.8	41.2	57.0
	男性:未婚	59	5.1	27.1	23.7	44.1	—	32.2	67.8
	男性:離・死別	32	9.4	31.3	21.9	34.4	3.1	40.7	56.3
	無回答	34	2.9	38.2	29.4	29.4	—	41.1	58.8

2. 男女の地位の平等感

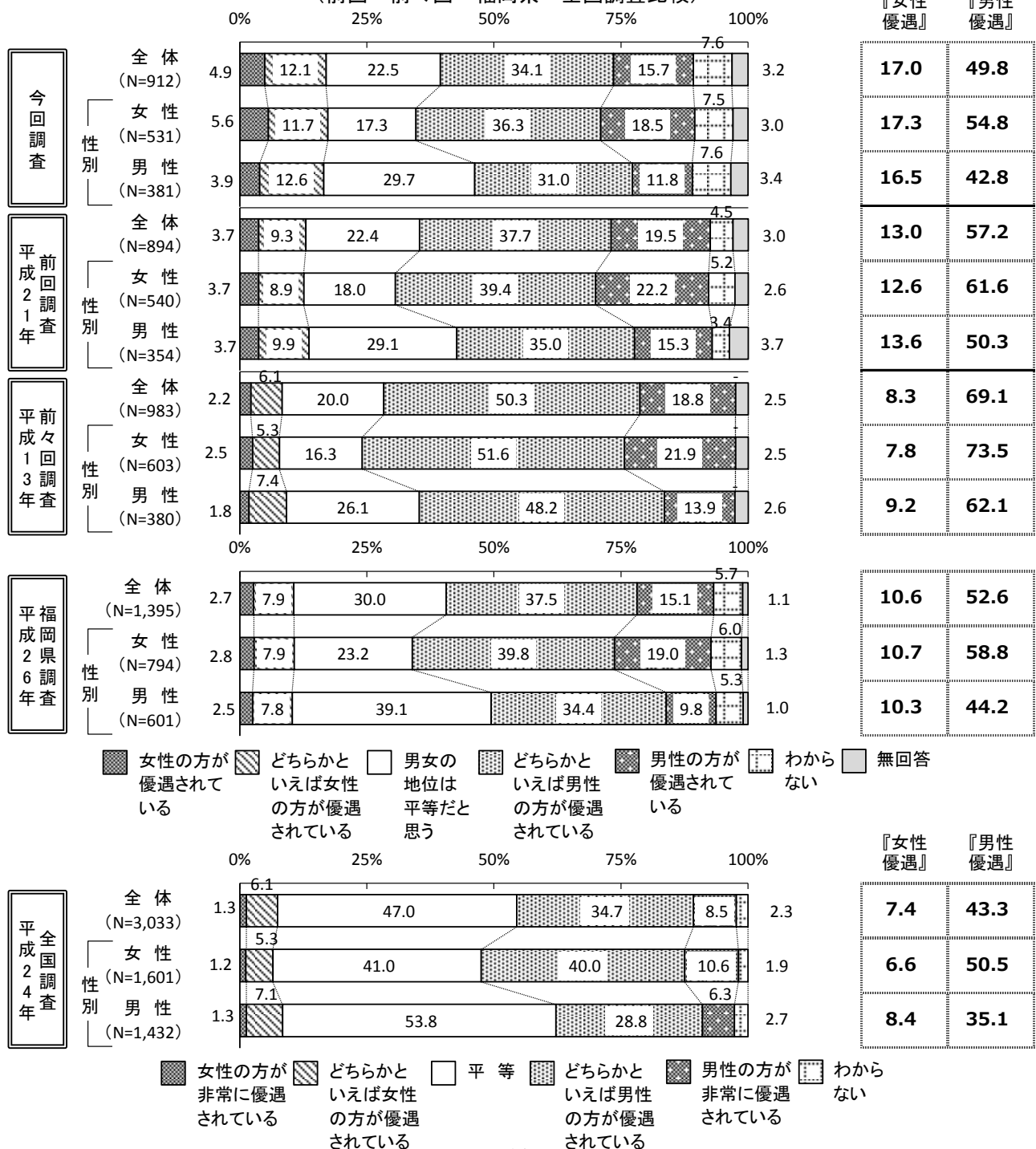
- すべての分野を通して、女性は男性比べて『男性優遇』の割合が、男性は女性に比べて「男女の地位は平等」の割合が高くなっており、性別による認識の差がみられる。
- 男女とも全国調査と比べ、いずれの分野でも平等であるとの認識が低い。

問4 あなたは、次にあげる①～⑧までの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

①家庭生活で

図表2-3 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、性別]

(前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



「家庭生活」における平等感は、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 34.1%と最も高く、これに「男性の方が優遇されている」の 15.7%を合わせた『男性優遇』は 49.8%と約5割となっている。「男女の地位は平等だと思う」は 22.5%、「女性の方が優遇されている」(4.9%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(12.1%)を合わせた『女性優遇』は 17.0%と「家庭生活」では男性の方が優遇されていると感じる人が多い。

性別でみると、男女とも『女性優遇』の割合は変わらないが、『男性優遇』は女性が 54.8%、男性が 42.8%と女性の方が 12 ポイント高く、「男女の地位は平等だと思う」は男性が 29.7%、女性が 17.3%と男性の方が 12.4 ポイント高くなっている。家庭生活においては女性は男性が優遇されていると感じるが、男性は女性が感じるほど自身が優遇されているとは感じてはいないようである。

経年比較でみると、『男性優遇』の割合は男女とも前々回調査から 19 ポイント前後減って減少傾向にあり、反対に『女性優遇』は約 7～9.5 ポイント増え増加傾向にある。「男女の地位は平等だと思う」は男性においてわずかであるが増加傾向となっている。

福岡県調査と比較すると、今回調査の方が「男女の地位は平等だと思う」の割合が女性で 5.9 ポイント、男性で 9.4 ポイント低く、『女性優遇』の割合が男女とも約 6 ポイント高くなっている。

平成 24 年 10 月に実施された内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」(以下、全国調査という)と比較すると、項目の違いがあるものの「男女の地位は平等だと思う」の割合は男女とも今回調査の方が 20 ポイント以上低いのが目立っている。

年代別でみると、男女とも『男性優遇』は年齢が高い層で、『女性優遇』は年齢が低い層で割合が高い傾向にある。「男女の地位は平等だと思う」は男性の30代と40代で3割を超えて高くなっている。

既未婚別でみると、男女とも未婚者に比べ既婚者の方が『男性優遇』の割合は高く、特に女性で58.0%と男性の既婚者（46.4%）よりも11.6ポイント高い。

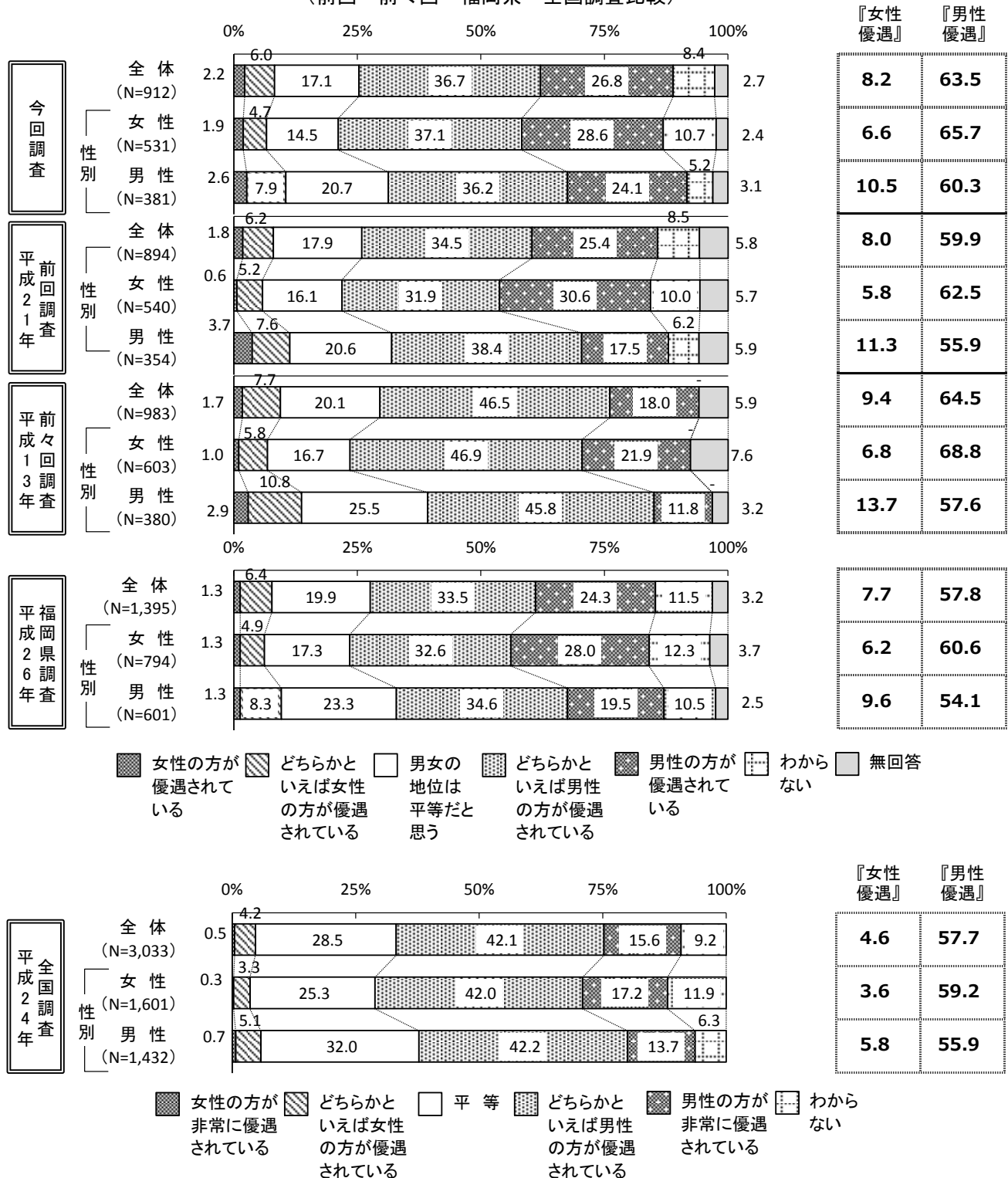
図表2-4 家庭生活での男女の地位の平等感〔全体、性別〕

(%)											
		標本数	女性の方が優遇さ	女性の方が優遇さ	どちらの地位は平等	男性の方が優遇さ	男性の方が優遇さ	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全 体		912 100.0	45 4.9	110 12.1	205 22.5	311 34.1	143 15.7	69 7.6	29 3.2	155 17.0	454 49.8
年代別	女性:20代	56	7.1	23.2	19.6	33.9	8.9	7.1	-	30.3	42.8
	女性:30代	88	4.5	15.9	21.6	29.5	14.8	11.4	2.3	20.4	44.3
	女性:40代	91	5.5	5.5	14.3	34.1	25.3	13.2	2.2	11.0	59.4
	女性:50代	101	4.0	7.9	14.9	36.6	24.8	8.9	3.0	11.9	61.4
	女性:60代	111	2.7	9.9	17.1	43.2	20.7	3.6	2.7	12.6	63.9
	女性:70代以上	71	12.7	11.3	15.5	39.4	11.3	1.4	8.5	24.0	50.7
	男性:20代	24	4.2	20.8	29.2	20.8	16.7	8.3	-	25.0	37.5
	男性:30代	46	10.9	15.2	34.8	17.4	8.7	10.9	2.2	26.1	26.1
	男性:40代	54	3.7	14.8	33.3	25.9	7.4	14.8	-	18.5	33.3
	男性:50代	78	2.6	10.3	25.6	34.6	16.7	7.7	2.6	12.9	51.3
	男性:60代	102	1.0	12.7	29.4	35.3	14.7	3.9	2.9	13.7	50.0
	男性:70代以上	70	5.7	7.1	27.1	37.1	7.1	5.7	10.0	12.8	44.2
無回答	20	5.0	25.0	35.0	30.0	5.0	-	-	30.0	35.0	
既未婚別	女性:既婚	362	5.8	10.2	18.5	38.1	19.9	4.7	2.8	16.0	58.0
	女性:未婚	74	6.8	17.6	9.5	28.4	14.9	20.3	2.7	24.4	43.3
	女性:離・死別	77	5.2	9.1	18.2	36.4	15.6	10.4	5.2	14.3	52.0
	男性:既婚	274	3.6	12.8	28.8	33.6	12.8	4.0	4.4	16.4	46.4
	男性:未婚	59	6.8	15.3	22.0	20.3	11.9	23.7	-	22.1	32.2
	男性:離・死別	32	3.1	12.5	34.4	31.3	6.3	9.4	3.1	15.6	37.6
	無回答	34	-	14.7	41.2	29.4	11.8	2.9	-	14.7	41.2

②職場で

図表2-5 職場での男女の地位の平等感〔全体、性別〕

(前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



「職場」での男女の地位は『男性優遇』が 63.5%、「男女の地位は平等だと思う」が 17.1%、『女性優遇』が 8.2%と「家庭生活」よりもさらに男性の方が優遇されていると感じられている。

性別でみると、女性は『男性優遇』が 65.7%で男性 (60.3%) よりも 5.4 ポイント高く、男性は「男女の地位は平等だと思う」が 20.7%で女性 (14.5%) よりも 6.2 ポイント高くなっている。

経年比較でみると、前回調査では女性の『男性優遇』の割合が6.3ポイント、男性も1.7ポイントとわずかであるが減少していたが、今回調査では女性で3.2ポイント、男性で4.4ポイント増加に転じている。「男女の地位は平等だと思う」はわずかながらも減少傾向にある。

福岡県調査と比較すると、男女とも今回調査の方が『男性優遇』の割合が約5～6ポイント高い。

全国調査と比較すると、今回調査の方が「男女の地位は平等だと思う」の割合が男女とも約10ポイント低く、『男性優遇』の割合が女性で6.5ポイント、男性で4.4ポイント高くなっている。

「職場」での男女の地位は、前回調査や福岡県調査、全国調査よりも男性が優遇されているという認識が強いようである。

職業別でみると、女性の正社員・正規職員の『男性優遇』は67.6%でそのうち「男性の方が優遇されている」が34.5%で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(33.1%)の割合を上回っている。他方、男性の正社員・正規職員の『男性優遇』は58.2%で女性よりも9.4ポイント低くなっている。しかし、自営業主となると男女とも『男性優遇』が6割を超えており、特に男性は69.3%と女性よりも、男性の正社員・正規職員よりも高い。また、自営業の家族従業者では男女とも「わからない」の割合が2割台と高くなっている。

図表2-6 職場での男女の地位の平等感[全体、職業別]

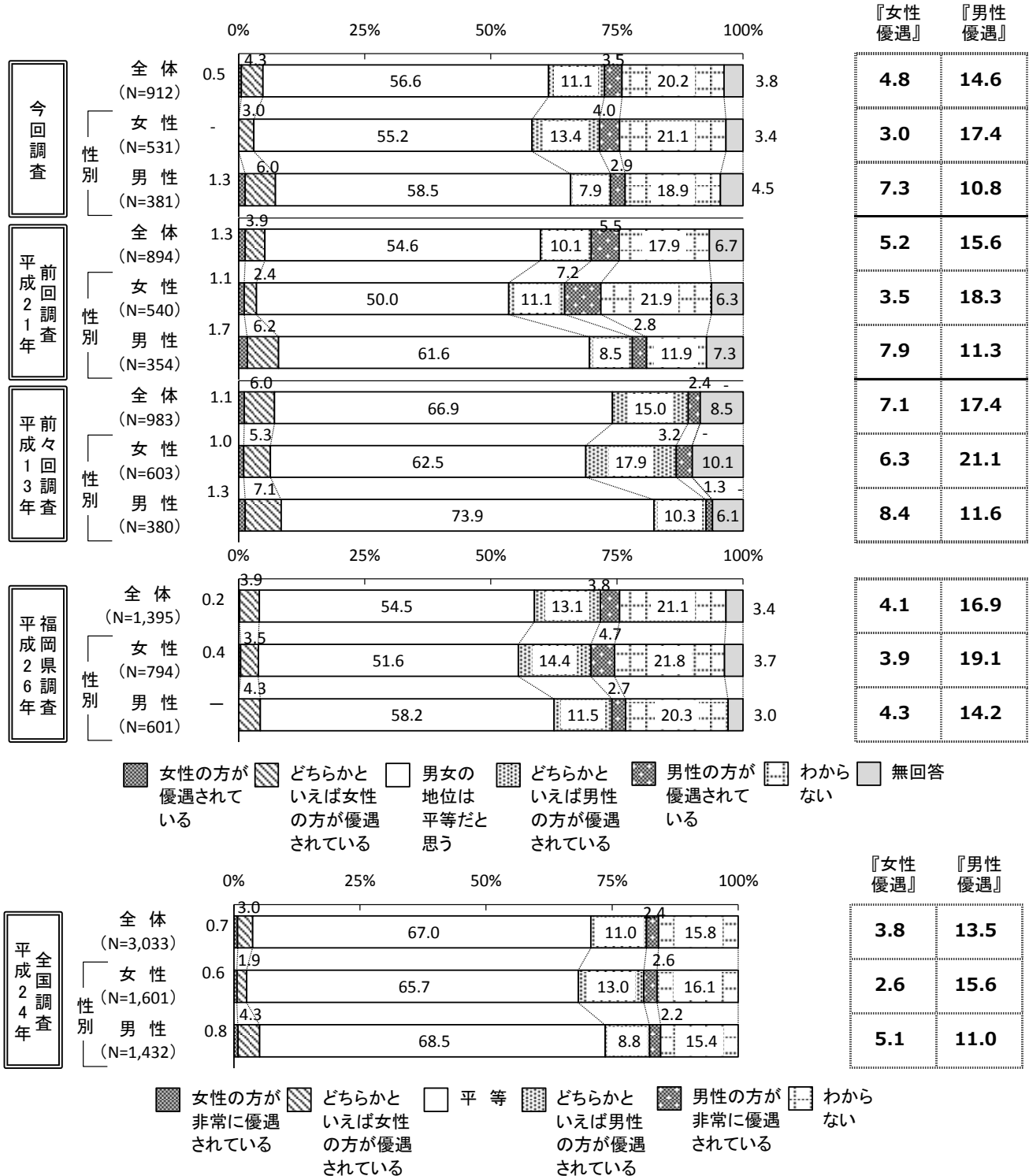
(%)

		標本数	女性の方が優遇さ	女性どちらの方が優い遇えさば	男女の地位は平等	男性どちらの方が優い遇えさば	男性の方が優遇さ	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全 体		912 100.0	20 2.2	55 6.0	156 17.1	335 36.7	244 26.8	77 8.4	25 2.7	75 8.2	579 63.5
職 業 別	女性：自営業主 （農林漁業・商工サービス業）	17	5.9	5.9	5.9	23.5	41.2	11.8	5.9	11.8	64.7
	女性：家族従業者 （農林漁業・商工サービス業）	15	-	6.7	13.3	20.0	33.3	20.0	6.7	6.7	53.3
	女性：正社員・正規職員	148	2.0	3.4	22.3	33.1	34.5	4.7	-	5.4	67.6
	女性：非正規雇用	150	2.0	7.3	15.3	40.0	24.7	9.3	1.3	9.3	64.7
	女性：家事専業・無職	182	1.6	3.8	8.8	39.6	26.9	15.4	3.8	5.4	66.5
	女性：その他	6	-	-	-	50.0	16.7	16.7	16.7	-	66.7
	男性：自営業主 （農林漁業・商工サービス業）	62	3.2	9.7	14.5	41.9	27.4	3.2	-	12.9	69.3
	男性：家族従業者 （農林漁業・商工サービス業）	4	-	-	-	50.0	25.0	25.0	-	-	75.0
	男性：正社員・正規職員	153	5.2	11.8	21.6	34.0	24.2	2.0	1.3	17.0	58.2
	男性：非正規雇用	57	-	5.3	26.3	40.4	17.5	8.8	1.8	5.3	57.9
	男性：家事専業・無職	80	-	2.5	16.3	33.8	30.0	7.5	10.0	2.5	63.8
	男性：その他	16	-	6.3	31.3	43.8	6.3	12.5	-	6.3	50.1
	無回答	22	-	-	27.3	31.8	18.2	13.6	9.1	-	50.0

③学校教育の場で

図表2-7 学校教育の場での男女の地位の平等感〔全体、性別〕

(前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



「学校教育の場」では「男女の地位は平等だと思う」が56.6%と最も高く、『男性優遇』は14.6%、『女性優遇』は4.8%と全分野の中でも平等感が最も高い分野となっている。しかし、「わからない」も20.2%と最も高く、実態がわかりにくい分野ともなっている。

性別でみると、平等感が最も高い分野といえども「男女の地位は平等だと思う」は女性が 55.2% で男性（58.5%）よりも低く、『男性優遇』は女性が 17.4% で男性（10.8%）よりも高いなど女性の方に不平等感がある。

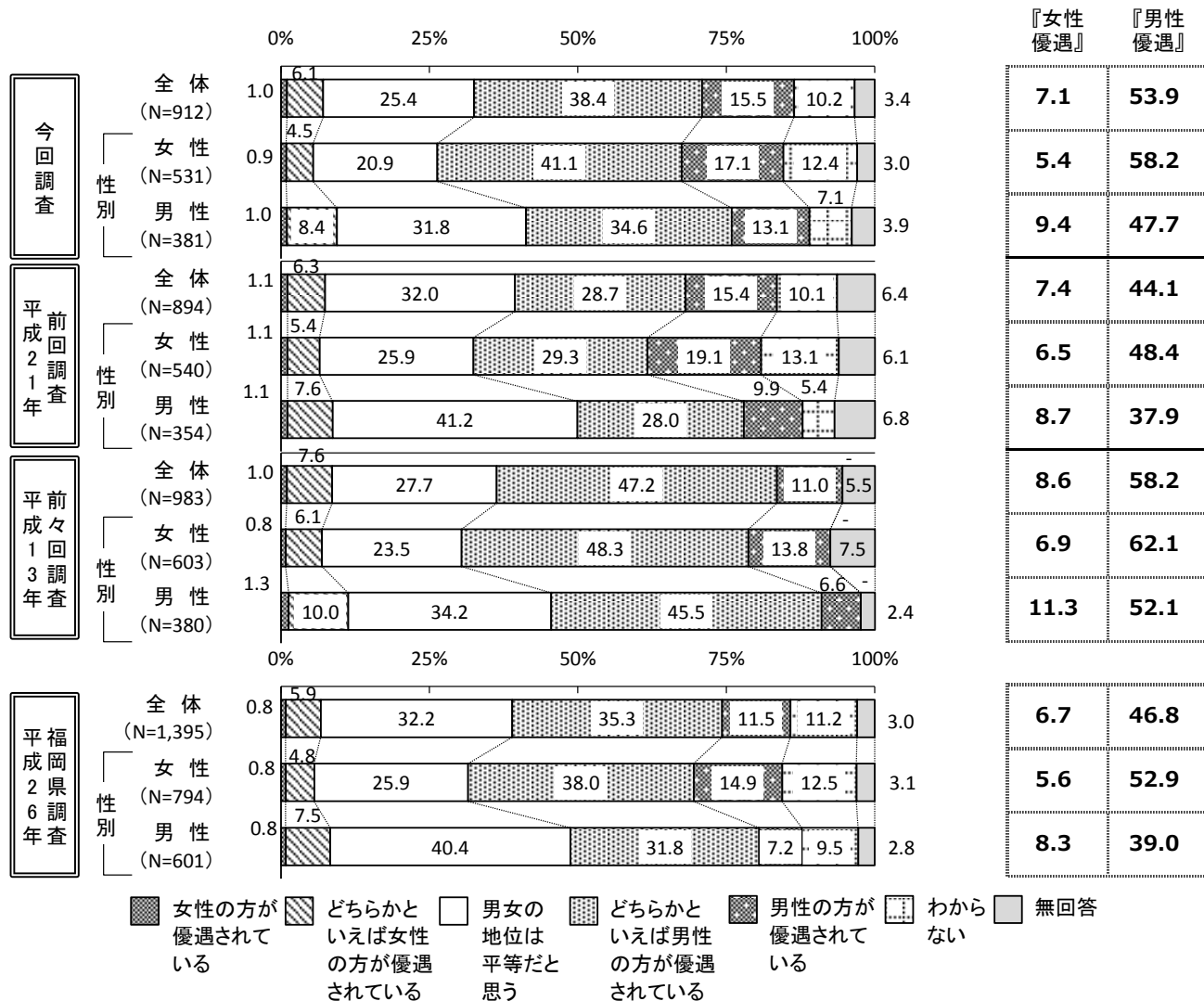
経年比較でみると、女性で「男女の地位は平等だと思う」が前回調査では 12.5 ポイントの減少から今回調査では 5.2 ポイントの増加に転じている。一方、男性では「男女の地位は平等だと思う」は減少傾向となっている。

福岡県調査と比較すると、女性で今回調査の方がやや男女の地位は平等だと感じているようである。

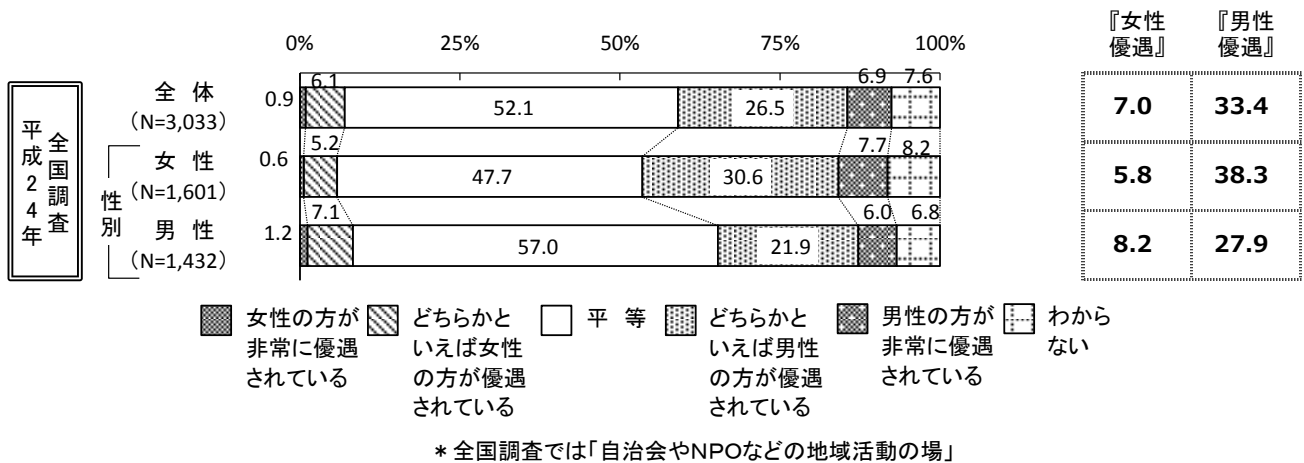
全国調査と比較すると、「男女の地位は平等だと思う」は今回調査より約 10 ポイント高く、男女とも 6 割半ばを超えている。全分野の中では平等感是最も高いというものの、全国と比べると平等感は低い結果となっている。

④地域活動・社会活動の場で

図表 2-8 (1) 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



図表 2－8（2） 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感〔全体、性別〕
（前回・前々回・福岡県・全国調査比較）



「地域活動・社会活動の場」では『男性優遇』が 53.9%、「男女の地位は平等だと思う」が 25.4%、『女性優遇』が 7.1%とやはり男性優遇と感じられている分野となっている。

性別でみると、女性の『男性優遇』は 58.2%で男性（47.7%）を 10.5 ポイント、男性の「男女の地位は平等だと思う」は 31.8%で女性（20.9%）を 10.9 ポイント上回っており、男女で認識の差がみられる。

経年比較でみると、『男性優遇』は前回調査では男女とも約 14 ポイントも減少していたが、今回調査では、男女とも約 10 ポイント増加し、「男女の地位は平等だと思う」は女性で 5 ポイント、男性は 9.4 ポイント減少しており、前回よりも男性が優遇されていると感じられている。

福岡県調査と比較すると、今回調査の方が男女とも『男性優遇』は約 5～9 ポイント高く、その分「男女の地位は平等だと思う」は低くなっており、県に比べ地域活動や社会活動での男性優遇感は強いようである。

また、全国調査と比較しても今回調査の方が男女とも『男性優遇』は約 20 ポイント高く、「男女の地位は平等だと思う」は約 25 ポイント低くなっており、男性は優遇されているという認識が強くなっている。

年代別でみると、女性では 20 代を除くすべての年代、男性は 40 代から 60 代といった地域活動や社会活動を実際に行う年代で『男性優遇』の割合が 5 割を超えている。

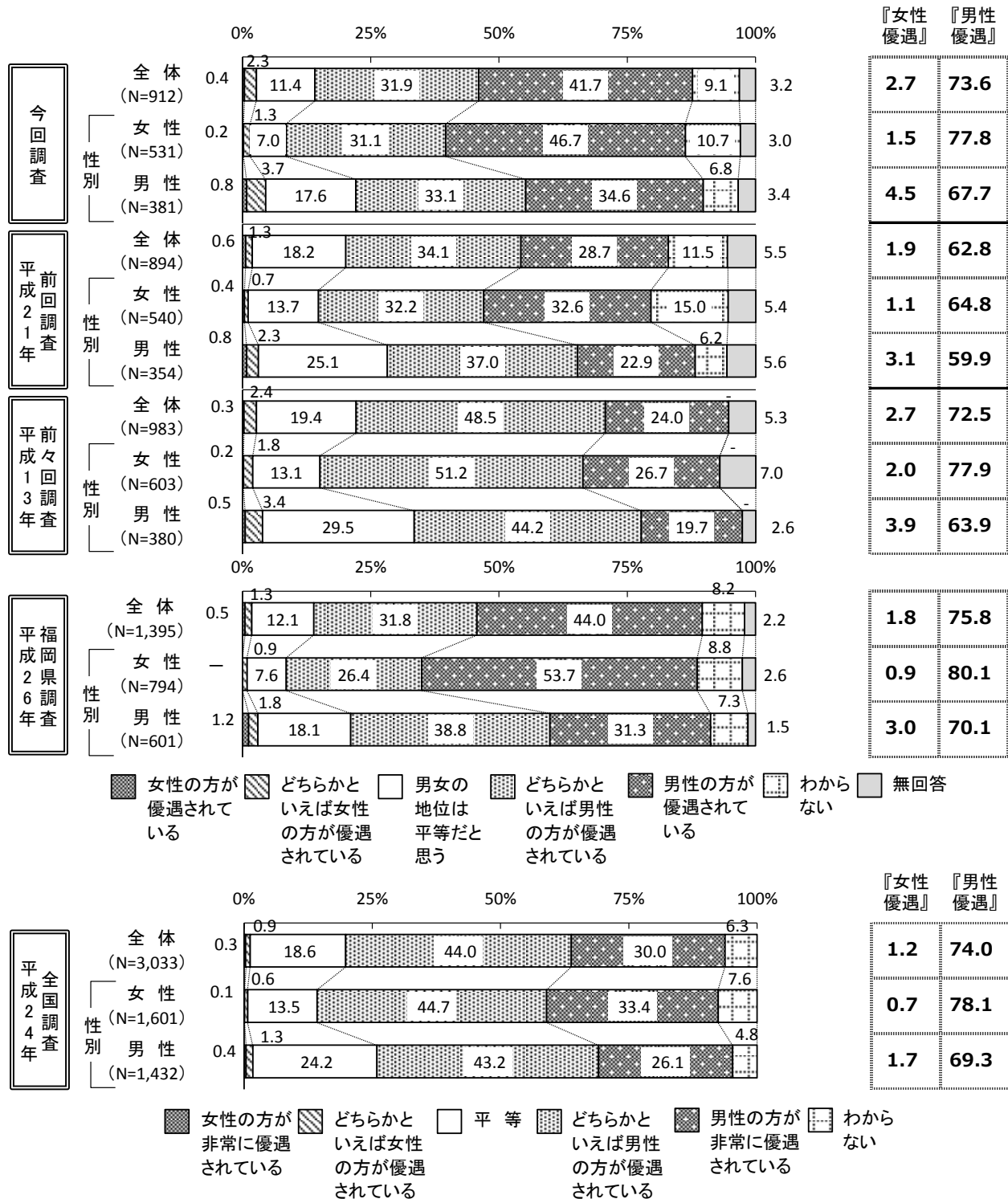
図表 2－9 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、年代別]

											(%)
		標 本 数	女性の方が優遇さ れている	どちらかという 女性の方が優遇さ れている	男女の地位は平等 だと思う	どちらかという 男性の方が優遇さ れている	男性の方が優遇さ れている	わからない	無 回 答	『女性優遇』	『男性優遇』
全 体		912 100.0	9 1.0	56 6.1	232 25.4	350 38.4	141 15.5	93 10.2	31 3.4	65 7.1	491 53.9
年 代 別	女性:20代	56	1.8	5.4	33.9	26.8	10.7	21.4	－	7.2	37.5
	女性:30代	88	1.1	2.3	20.5	39.8	21.6	13.6	1.1	3.4	61.4
	女性:40代	91	－	6.6	23.1	35.2	22.0	12.1	1.1	6.6	57.2
	女性:50代	101	2.0	4.0	19.8	45.5	18.8	6.9	3.0	6.0	64.3
	女性:60代	111	0.9	5.4	16.2	46.8	15.3	14.4	0.9	6.3	62.1
	女性:70代以上	71	－	4.2	19.7	43.7	9.9	8.5	14.1	4.2	53.6
	男性:20代	24	－	16.7	37.5	25.0	4.2	16.7	－	16.7	29.2
	男性:30代	46	4.3	13.0	32.6	21.7	19.6	6.5	2.2	17.3	41.3
	男性:40代	54	－	1.9	38.9	40.7	9.3	9.3	－	1.9	50.0
	男性:50代	78	1.3	10.3	25.6	34.6	17.9	6.4	3.8	11.6	52.5
	男性:60代	102	1.0	11.8	27.5	39.2	13.7	3.9	2.9	12.8	52.9
男性:70代以上	70	－	1.4	35.7	35.7	10.0	7.1	10.0	1.4	45.7	
無回答		20	－	－	20.0	45.0	15.0	15.0	5.0	－	60.0

⑤政治の場で

図表2-10 政治の場での男女の地位の平等感〔全体、性別〕

(前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



「政治の場」では『男性優遇』が73.6%と全分野中2番目に高く、そのうち「男性の方が優遇されている」の割合は41.7%と全分野中最も高くなっており、政治の場における男性優遇が強く認識されている。

性別でみると、女性の『男性優遇』は77.8%で男性の67.7%を10.1ポイント上回り、そのうち「男性の方が優遇されている」の割合は46.7%と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(31.1%)を上回っている。「男女の地位は平等だと思う」は男性が17.6%に対し、女性は7.0%と1割にも満たず、全分野の中で最も低くなっている。

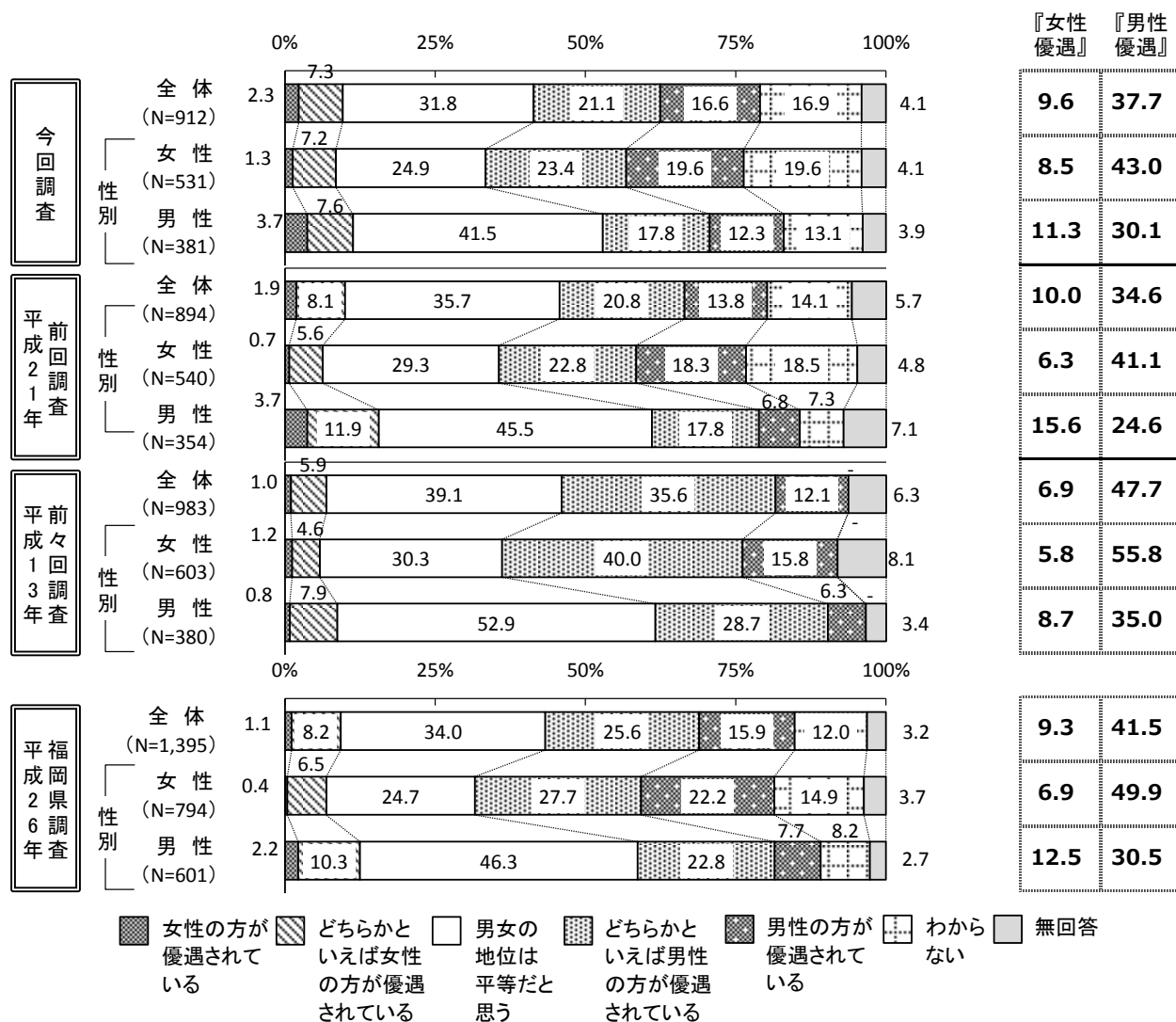
経年比較でみると、「男性の方が優遇されている」の割合は男女とも増加傾向にあり、今回調査では前回調査よりも10ポイント以上増え、男性が優遇されているという認識は強くなっている。

福岡県調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっているが、女性の「男性の方が優遇されている」の割合が県の調査の方が7ポイント高くなっている。

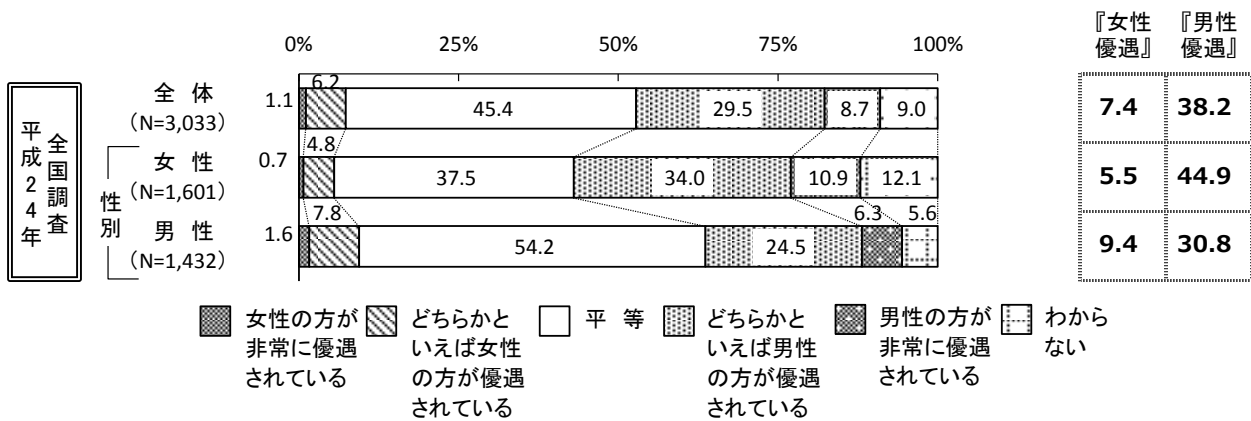
全国調査と比較すると、『男性優遇』の割合は男女ともあまり変わらないが、「男女の地位は平等だと思う」の割合が6ポイントほど全国調査の方が高くなっている。

⑥法律や制度の上で

図表2-11(1) 法律や制度の上での男女の地位の平等感[全体、性別]
(前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



図表2-11(2) 法律や制度の上での男女の地位の平等感〔全体、性別〕
(前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



「法律や制度の上で」は「男女の地位は平等だと思う」は31.8%と「学校教育の場」に次いで2番に高くなっているが、『男性優遇』は37.7%と平等よりも割合は高い。

性別でみると、女性は『男性優遇』が43.0%と最も高いが、男性は「男女の地位は平等だと思う」が41.5%で最も高く、性別による違いが大きく出ている分野といえる。

経年比較でみると、「男女の地位は平等だと思う」は男女とも減少傾向にあり、今回調査では男性の『男性優遇』は前回よりも5.5ポイント増えている。

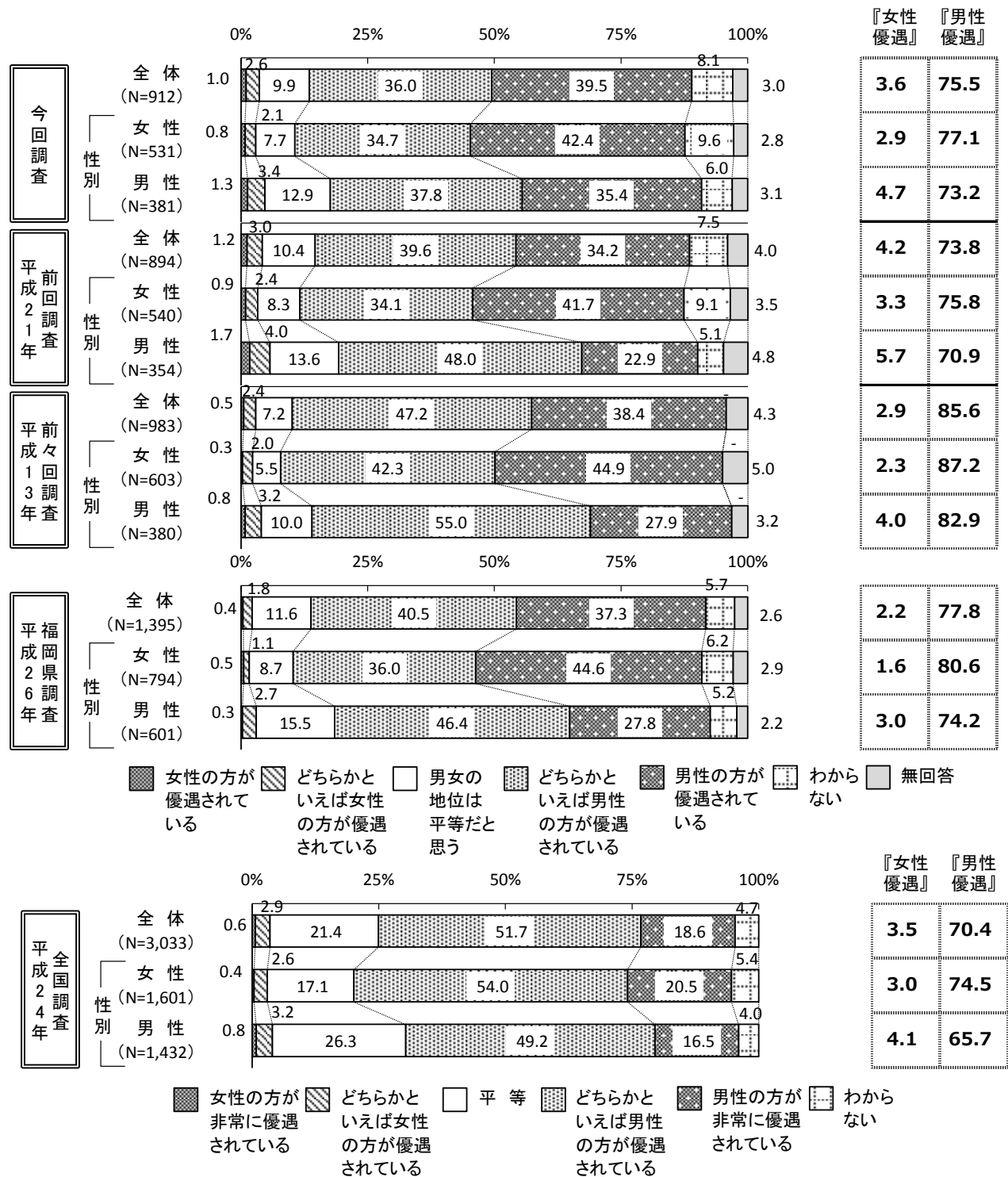
福岡県調査と比較すると、女性で『男性優遇』が県の調査の方が6.9ポイント高く、男性は「男女の地位は平等だと思う」が4.8ポイント高いなど、性別による違いが今回調査よりも大きく出ている。

全国調査と比較すると、『男性優遇』の割合は男女ともあまり変わらないが、「男女の地位は平等だと思う」の割合は男女とも約13ポイント全国調査の方が高い。性別による違いは同様にあるが、平等感は今回調査の方が低い。

⑦社会通念・慣習・しきたりなどで

図表 2-12 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、性別]

(前回・前々回・福岡県・全国調査比較)



「社会通念・慣習・しきたりなど」では『男性優遇』が 75.5%と全分野の中で最も高く、「男女の地位は平等だと思う」は 9.9%と最も低くなっている。

性別でみると、女性の『男性優遇』は 77.1%、男性は 73.2%と共に7割を超えており、男女とも社会通念・慣習、しきたりなどでは男性が優遇されているとの認識が強い。

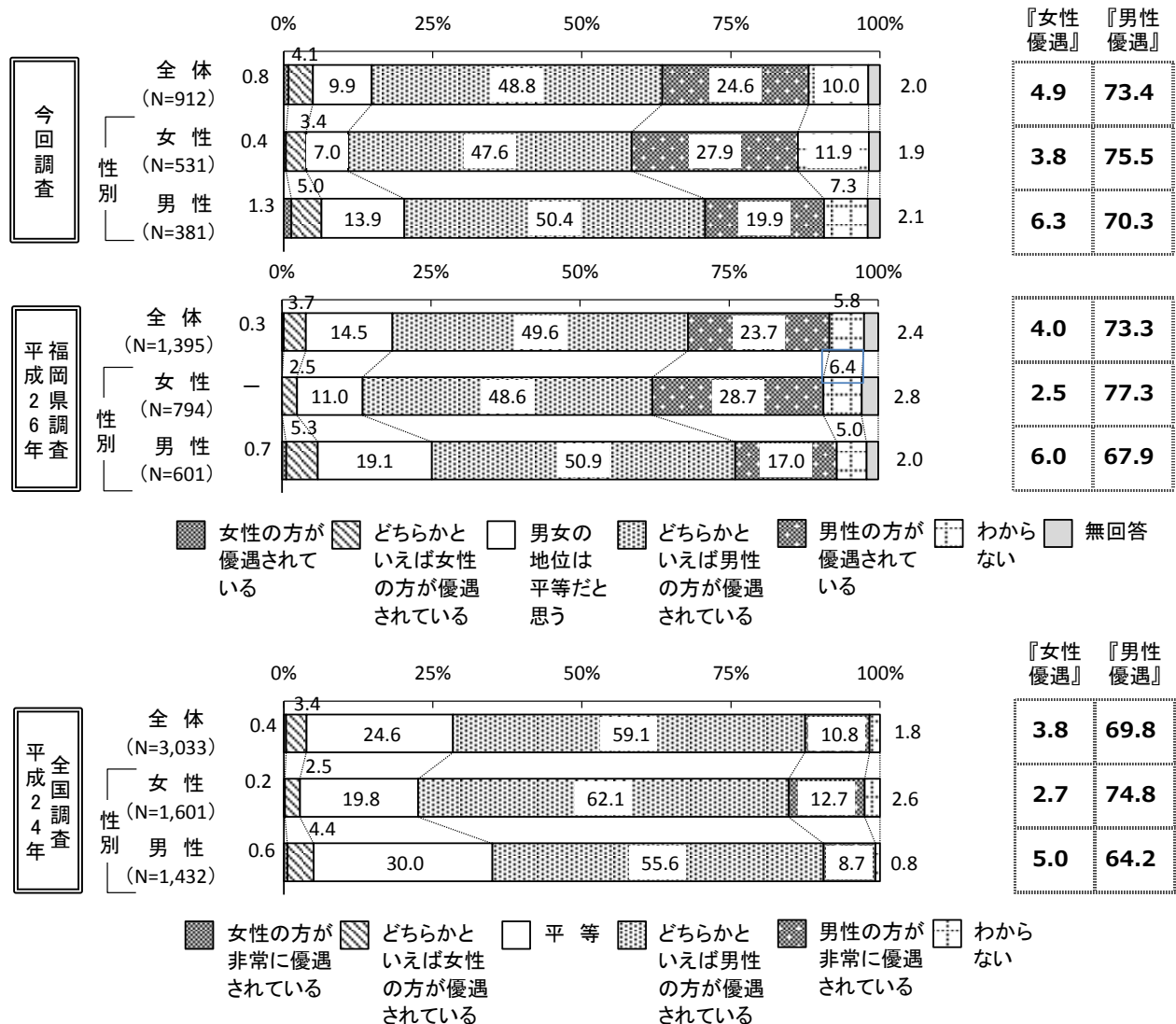
経年比較でみると、前回調査では『男性優遇』の割合は男女とも約 12 ポイント減少していたが、今回調査ではやや増加し、「男女の地位は平等だと思ふ」はやや減少するなど、前回よりもやや不平等感は強くなっているようだ。

福岡県調査と比較すると、女性の『男性優遇』は県の調査の方がやや高い。

全国調査と比較すると、男性の『男性優遇』は今回調査の方が 7.5 ポイント高く、「男女の地位は平等だと思ふ」は男女とも今回調査の方が 10 ポイント前後低いなど、全国と比べると今回調査の方が不平等感は強くなっている。

⑧社会全体でみると

図表 2-13 社会全体でみた男女の地位の平等感 [全体、性別]
(福岡県・全国調査比較)



最後に「社会全体」でみた場合『男性優遇』は 73.4%と 7 割を超えており、男性が優遇されている社会ととらえられていることがわかる。

性別でみると、女性の『男性優遇』は 75.5%と男性の 70.3%を 5.2 ポイント上回り、女性の「男女の地位は平等だと思ふ」は 7.0%と 1 割に満たず、男女とも男性優遇の認識は強いが、特に女性において強く出ている。

福岡県調査と比較すると、今回調査と同様の傾向がみられる。

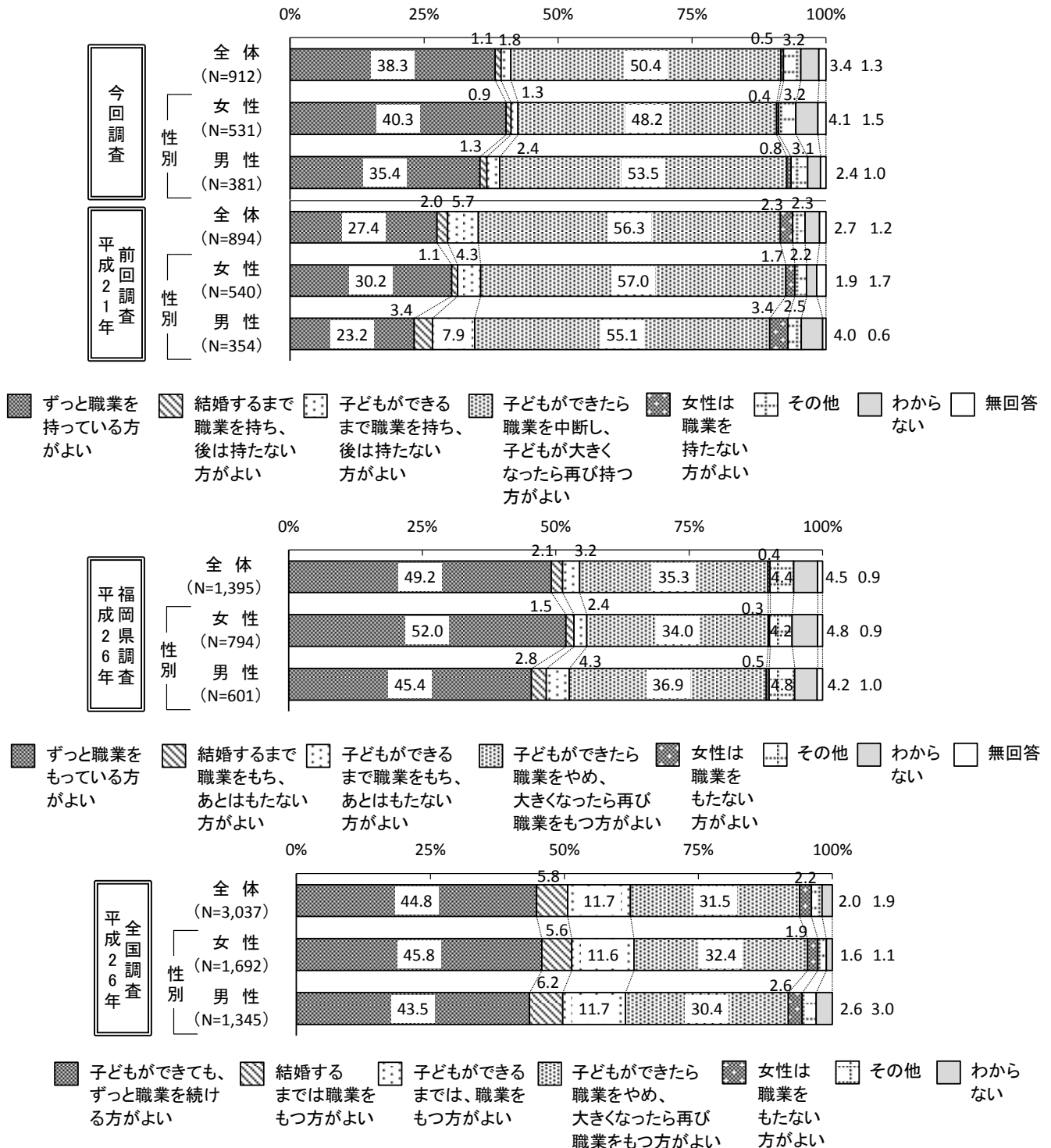
全国調査と比較すると、「男女の地位は平等だと思う」は今回調査の方が女性で 12.8 ポイント、男性で 16.1 ポイント低くなっており、男性が優遇されているとの認識は強い。特に男性では『男性優遇』の割合が今回調査の方が 6.1 ポイント高く、男性自身の認識は今回の方が強くなっている。

3. 女性が職業を持つことについて

●女性が職業を持つことについては肯定的にとらえているが、その持ち方は、子育て期に就労を中断する働き方を希望する人が約5割と、福岡県や全国調査より多い。

問5 女性が職業を持つことについて、どのような形が望ましいと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(○は1つ)

図表2-14 女性が職業を持つことについて〔全体、性別〕



女性が職業を持つことについて「子どもができたなら職業を中断し、子どもが大きくなったら再び持つ方がよい」が 50.4%と最も高く、次いで「ずっと職業を持っている方がよい」が 38.3%となっている。一方、「結婚するまで職業を持ち、後は持たない方がよい」(1.1%)や「子どもができるまで職業を持ち、後は持たない方がよい」(1.8%)、「女性は職業を持たない方がよい」(0.5%)などは専業主婦を志向する項目であるが 3.4%と回答は少なく女性が職業を持つことについては肯定的にとらえられている。

性別でみると、女性は「ずっと職業を持っている方がよい」が 40.3%で男性(35.4%)を 4.9 ポイント上回っている。男性は「子どもができたなら職業を中断し、子どもが大きくなったら再び持つ方がよい」(女性 48.2%、男性 53.5%)や専業主婦志向の割合が女性よりも高くなっている。

前回調査と比較すると、男女とも「ずっと職業を持っている方がよい」の割合が前回調査より 10 ポイント以上高くなっている。

福岡県調査と比較すると、男女とも「ずっと職業を持っている方がよい」の割合は今回調査の方が約 10 ポイント低く、子育て期に就労を中断する働き方の割合が 15 ポイントほど高くなっている。専業主婦志向の割合は今回調査の方がやや低く、女性が仕事を持つことは肯定的にとらえているが、その持ち方について違いがみられる。

全国調査と比較すると、男女とも専業主婦志向の割合は今回調査の方が 16 ポイントほど低く、職業を持つことは全国より肯定的にとらえている。しかし、望ましい形態は「ずっと職業を持っている方がよい」は今回調査の方が約 5～8 ポイント低く、子育て期に就労を中断する働き方の割合は今回調査の方が約 15～23 ポイント高いなど、就労継続よりも中断再就職の方が望ましいと考える人が男女とも多い。

既未婚別でみると、女性では「ずっと職業を持っている方がよい」は未婚者(36.5%)よりも既婚者(42.5%)の方が 6 ポイント高く、男性は既婚者(34.3%)よりも未婚者(44.1%)の方が 9.8 ポイント高くなっている。「子どもができたなら職業を中断し、子どもが大きくなったら再び持つ方がよい」は女性の未婚者(54.1%)と男性の既婚者(56.6%)で 5 割を超えて高くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人ほど「ずっと職業を持っている方がよい」の割合が高くなっている。反対に容認する人は「子どもができたなら職業を中断し、子どもが大きくなったら再び持つ方がよい」や専業主婦志向の割合が高くなる傾向にある。

配偶関係別でみると、「ずっと職業を持っている方がよい」は男女とも共働き(女性 50.7%、男性 38.6%)の方が共働きでない(女性 31.6%、男性 29.9%)より高い。また、女性の共働きは男性の共働きよりも 12.1 ポイント高くなっている。現在共働きでない人でも専業主婦志向の割合は 5%程度に過ぎず、「子どもができたなら職業を中断し、子どもが大きくなったら再び持つ方がよい」の割合が女性で 53.5%、男性で 61.2%と高くなっている。

図表2-15 女性が職業を持つことについて〔全体、既未婚別、性別役割分担意識別、配偶関係別〕

(%)

		標本数	がずっと職業を持っている方	結婚するまで職業を持ち、後は持たない方がよい	子どもが後で持たない方がよい	子どもが再び持つ方がよい	子どもができたなら職業を中斷し、子どもが大きくなったら再び持つ方がよい	よい女性には職業を持たない方がよい	その他	わからない	無回答
全 体		912 100.0	349 38.3	10 1.1	16 1.8	460 50.4	5 0.5	29 3.2	31 3.4	12 1.3	
既未婚別	女性:既婚	362	42.5	1.4	0.8	46.7	0.3	3.6	3.0	1.7	
	女性:未婚	74	36.5	-	-	54.1	-	1.4	8.1	-	
	女性:離・死別	77	32.5	-	3.9	49.4	1.3	3.9	6.5	2.6	
	男性:既婚	274	34.3	1.1	2.9	56.6	0.4	1.8	1.8	1.1	
	男性:未婚	59	44.1	-	-	44.1	1.7	5.1	3.4	1.7	
	男性:離・死別	32	28.1	3.1	3.1	50.0	3.1	12.5	-	-	
	無回答	34	41.2	2.9	2.9	47.1	-	-	5.9	-	
性別役割分担意識別	女性:そう思う	13	23.1	7.7	7.7	53.8	-	-	7.7	-	
	女性:どちらかといえばそう思う	196	23.5	2.0	2.0	63.8	0.5	3.1	3.6	1.5	
	女性:どちらかといえばそう思わない	145	35.9	-	0.7	50.3	-	4.8	5.5	2.8	
	女性:そう思わない	174	63.2	-	0.6	29.3	0.6	2.3	3.4	0.6	
	男性:そう思う	19	5.3	5.3	15.8	57.9	5.3	10.5	-	-	
	男性:どちらかといえばそう思う	132	22.0	1.5	4.5	67.4	0.8	-	2.3	1.5	
	男性:どちらかといえばそう思わない	85	41.2	-	-	50.6	-	5.9	2.4	-	
	男性:そう思わない	139	48.9	1.4	-	41.0	0.7	3.6	2.9	1.4	
	無回答	9	55.6	-	-	44.4	-	-	-	-	
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	207	50.7	-	-	41.5	-	4.3	2.9	0.5	
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	155	31.6	3.2	1.9	53.5	0.6	2.6	3.2	3.2	
	女性:配偶者はいない(未婚／非婚)	74	36.5	-	-	54.1	-	1.4	8.1	-	
	女性:配偶者と離別した	38	42.1	-	7.9	34.2	-	7.9	5.3	2.6	
	女性:配偶者と死別した	39	23.1	-	-	64.1	2.6	-	7.7	2.6	
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	140	38.6	0.7	2.9	52.1	-	2.9	1.4	1.4	
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	134	29.9	1.5	3.0	61.2	0.7	0.7	2.2	0.7	
	男性:配偶者はいない(未婚／非婚)	59	44.1	-	-	44.1	1.7	5.1	3.4	1.7	
	男性:配偶者と離別した	23	30.4	4.3	4.3	43.5	-	17.4	-	-	
	男性:配偶者と死別した	9	22.2	-	-	66.7	11.1	-	-	-	
	無回答	34	41.2	2.9	2.9	47.1	-	-	5.9	-	

第3章 家庭生活について

1. 家庭内の役割分担
2. 結婚についての考え方
3. 子どものしつけや教育についての考え方

第3章 家庭生活について

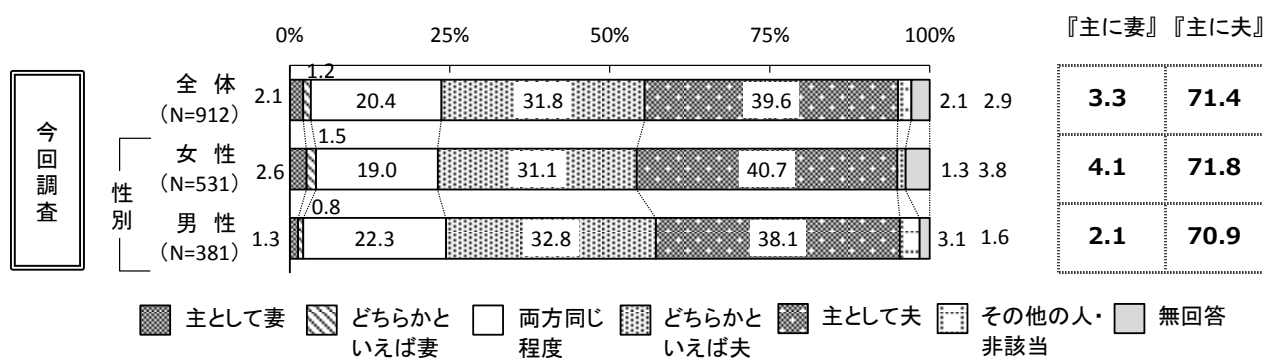
1. 家庭内の役割分担

- 生活費を稼ぐのは『主に夫』、日常の家事や家計の管理は『主に妻』の担当となっている。
- 子どもの教育方針は「両方同じ程度」に分担。
- 女性は、育児や親の介護、貯蓄は『主に妻』、高額な商品の購入は『主に夫』が分担していると認識しているが、男性はいずれも「両方同じ程度」に分担していると認識。
- 地域活動は男女それぞれ自分が分担していると認識。

問6 あなたの家庭では、次にあげる①～⑨のような事柄を、主に誰が担当していますか。
現在配偶者・パートナーがいらっしゃる方は現在の状況について、現在独身の方は配偶者・パートナーがいらしたらどうしたいと思うか、あてはまるものを選んでください。

①生活費を稼ぐ

図表3-1 生活費を稼ぐ〔全体、性別〕



「生活費を稼ぐ」を主に行うのは、「主として夫」が39.6%、「どちらかといえば夫」が31.8%でこれらを合わせた『主に夫』が71.4%と、約7割が生活費を稼ぐのは夫の担当となっている。「両方同じ程度」（20.4%）は約2割である。

性別でみても『主に夫』の割合は男女とも約7割と同程度である。

既未婚別でみると、男女とも既婚では『主に夫』が7割を超えているのに対し、未婚では6割台で1割ほど低く、「両方同じ程度」の割合が既婚よりも約5～8ポイント高くなっている。

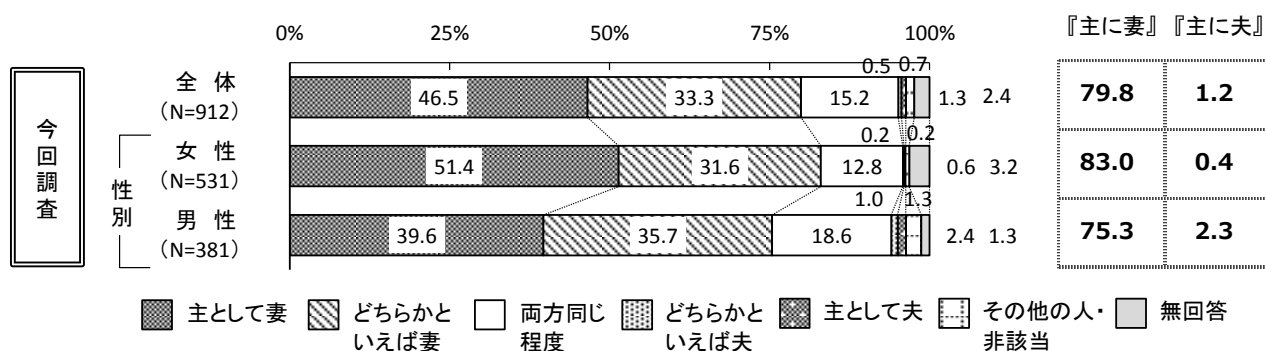
性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人では『主に夫』の割合が容認する人よりも低く、「両方同じ程度」が3割台と高くなっている。

図表3-2 生活費を稼ぐ〔全体、既未婚別、性別役割分担別〕

		標本数	主として妻	えどちらかとい	両方同じ程度	えどちらかとい	主として夫	非該他の人・	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全 体		912 100.0	19 2.1	11 1.2	186 20.4	290 31.8	361 39.6	19 2.1	26 2.9	30 3.3	651 71.4
既未婚別	女性:既婚	362	2.5	1.7	18.8	29.0	46.1	0.3	1.7	4.2	75.1
	女性:未婚	74	-	2.7	27.0	35.1	28.4	2.7	4.1	2.7	63.5
	女性:離・死別	77	6.5	-	15.6	33.8	26.0	3.9	14.3	6.5	59.8
	男性:既婚	274	1.8	1.1	22.3	31.4	41.2	0.4	1.8	2.9	72.6
	男性:未婚	59	-	-	27.1	40.7	22.0	10.2	-	-	62.7
	男性:離・死別	32	-	-	15.6	34.4	40.6	6.3	3.1	-	75.0
	無回答	34	-	-	11.8	35.3	41.2	11.8	-	-	76.5
性別役割 分担 意識別	女性:そう思う	13	-	-	23.1	7.7	61.5	-	7.7	-	69.2
	女性:どちらかといえばそう思う	196	1.0	1.5	9.7	30.6	54.1	1.5	1.5	2.5	84.7
	女性:どちらかといえばそう思わない	145	3.4	2.1	13.1	34.5	38.6	2.1	6.2	5.5	73.1
	女性:そう思わない	174	4.0	1.1	34.5	29.9	25.9	0.6	4.0	5.1	55.8
	男性:そう思う	19	-	-	5.3	15.8	78.9	-	-	-	94.7
	男性:どちらかといえばそう思う	132	-	0.8	13.6	34.8	47.7	1.5	1.5	0.8	82.5
	男性:どちらかといえばそう思わない	85	3.5	1.2	23.5	35.3	28.2	5.9	2.4	4.7	63.5
	男性:そう思わない	139	1.4	0.7	31.7	32.4	28.8	3.6	1.4	2.1	61.2
	無回答	9	-	-	22.2	33.3	44.4	-	-	-	77.7

②炊事・掃除・洗濯などの家事

図表3-3 炊事・掃除・洗濯などの家事〔全体、性別〕



「炊事・掃除・洗濯などの家事」を行うのは「主として妻」が46.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻」が33.3%でこれらを合わせた『主に妻』が79.8%と、約8割が日常の家事は妻の担当となっている。「両方同じ程度」は15.2%で「生活費を稼ぐ」(20.4%)よりも低い。

性別でみると、女性は「主として妻」が51.4%と男性(39.6%)よりも11.8ポイント高く、『主に妻』の割合も8割を超えるなど、女性自身で妻の役割という認識が高い。

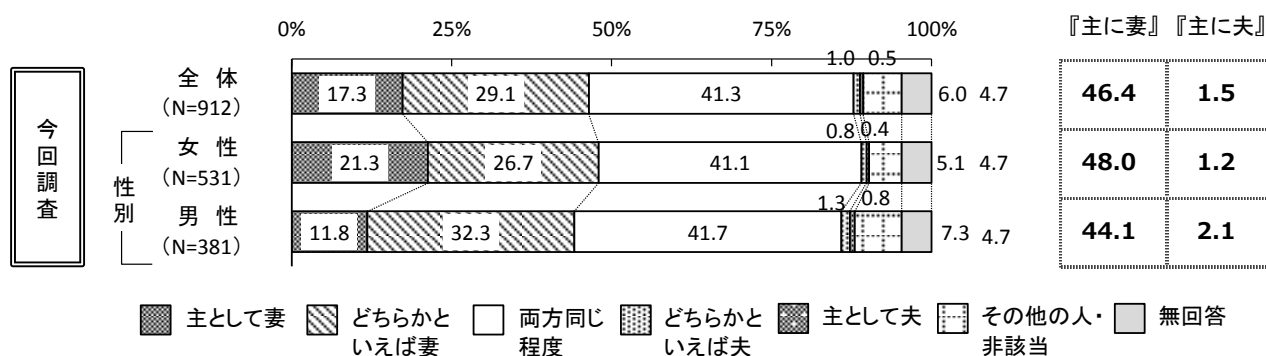
既未婚別でみると、男女とも既婚の場合は『主に妻』の割合が8割を超えており、特に女性では88.9%と9割近くとなっている。未婚の場合『主に妻』は女性が64.9%であるのに対し、男性は54.3%と10.6ポイントも低く、その内訳も「どちらかといえば妻」が47.5%である。また「両方同じ程度」は未婚の男性は37.3%と女性(27.0%)よりも10.3ポイント、既婚の男性(13.5%)よりも23.8ポイントも高くなっている。未婚の男性は日常の家事は分担して行うものと考えている人が多いようである。

図表3-4 炊事・掃除・洗濯などの家事〔全体、既未婚別〕

										(%)	
		標本数	主として妻	どちらかといえば妻	両方同じ程度	どちらかといえば夫	主として夫	その他の人・非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全 体		912	424	304	139	5	6	12	22	728	11
		100.0	46.5	33.3	15.2	0.5	0.7	1.3	2.4	79.8	1.2
既未婚別	女性:既婚	362	61.3	27.6	9.4	0.3	0.3	-	1.1	88.9	0.6
	女性:未婚	74	20.3	44.6	27.0	-	-	2.7	5.4	64.9	-
	女性:離・死別	77	33.8	39.0	14.3	-	-	1.3	11.7	72.8	-
	男性:既婚	274	48.5	33.2	13.5	1.5	1.5	0.4	1.5	81.7	3.0
	男性:未婚	59	6.8	47.5	37.3	-	-	8.5	-	54.3	-
	男性:離・死別	32	15.6	43.8	31.3	-	3.1	3.1	3.1	59.4	3.1
	無回答	34	55.9	23.5	14.7	-	-	5.9	-	79.4	-

③育児・子どものしつけ

図表3-5 育児・子どものしつけ〔全体、性別〕



「育児・子どものしつけ」を行うのは『主に妻』が46.4%、「両方同じ程度」が41.3%となっている。

性別でみると、『主に妻』は男女とも4割台であるが、そのうち女性の「主として妻」は21.3%と男性（11.8%）よりも9.5ポイント高く、女性自身の妻の役割という認識がやや高いようである。

図表３－６ 育児・子どものしつけ〔全体、既未婚別、同居家族別〕

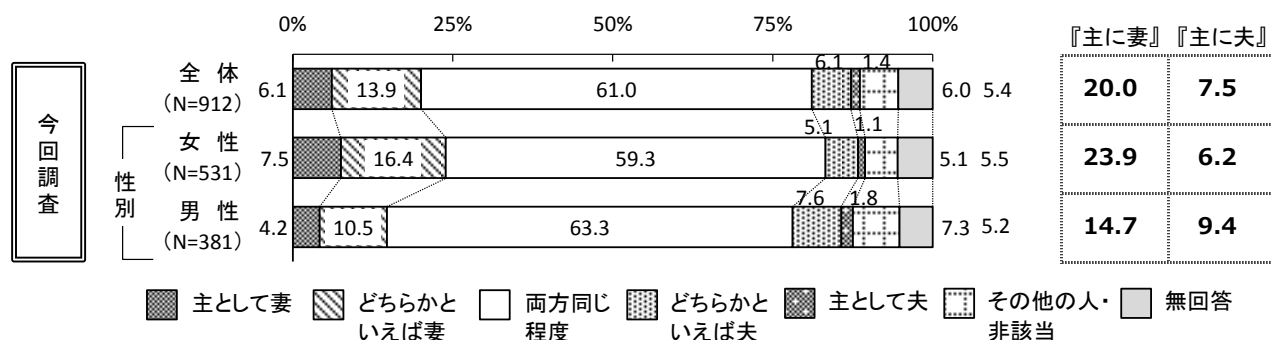
			標 本 数	主 と し て 妻	い ど え ち ら か と 妻	度 両 方 同 じ 程 度	い ど え ち ら か と 夫	主 と し て 夫	人 そ の 他 の 非 該 当	無 回 答	『主 に 妻』	『主 に 夫』
全 体			912 100.0	158 17.3	265 29.1	377 41.3	9 1.0	5 0.5	55 6.0	43 4.7	423 46.4	14 1.5
既 未 婚 別	女性:既婚		362	24.3	32.0	33.7	0.6	0.3	6.1	3.0	56.3	0.9
	女性:未婚		74	10.8	13.5	63.5	1.4	-	4.1	6.8	24.3	1.4
	女性:離・死別		77	14.3	16.9	55.8	-	-	1.3	11.7	31.2	-
	男性:既婚		274	13.5	35.8	36.1	1.5	1.1	6.6	5.5	49.3	2.6
	男性:未婚		59	6.8	23.7	59.3	1.7	-	6.8	1.7	30.5	1.7
	男性:離・死別		32	6.3	28.1	53.1	-	-	6.3	6.3	34.4	-
	無回答		34	23.5	14.7	41.2	2.9	2.9	14.7	-	38.2	5.8
同 居 家 族 別	女性:乳幼児		38	28.9	31.6	39.5	-	-	-	-	60.5	-
	女性:未就学児		40	32.5	37.5	30.0	-	-	-	-	70.0	-
	女性:小・中学生		97	26.8	27.8	43.3	-	-	1.0	1.0	54.6	-
	女性:高校生		52	36.5	23.1	38.5	-	1.9	-	-	59.6	1.9
	女性:専門学校生		11	7.5	10.0	5.0	-	2.5	-	2.5	17.5	2.5
	女性:大学・短大生		19	26.3	26.3	42.1	-	-	-	5.3	52.6	-
	女性:上記以外の人		530	21.3	26.8	40.9	0.8	0.4	5.1	4.7	48.1	1.2
	男性:乳幼児		22	4.5	54.5	40.9	-	-	-	-	59.0	-
	男性:未就学児		28	3.6	39.3	53.6	-	3.6	-	-	42.9	3.6
	男性:小・中学生		40	5.0	40.0	52.5	-	2.5	-	-	45.0	2.5
	男性:高校生		25	8.0	32.0	56.0	-	4.0	-	-	40.0	4.0
	男性:専門学校生		8	12.5	50.0	37.5	-	-	-	-	62.5	-
	男性:大学・短大生		14	7.1	42.9	50.0	-	-	-	-	50.0	-
	男性:上記以外の人		379	11.9	31.9	42.0	1.3	0.8	7.4	4.7	43.8	2.1

既未婚別でみると、既婚の女性は『主に妻』が56.3%で男性(49.3%)よりも7ポイント高く、「両方同じ程度」は33.7%で男性(36.1%)よりもやや低くなっている。既婚の場合女性では育児や子どものしつけは自分がしているという認識が男性よりもやや高いようである。未婚の場合女性では『主に妻』は24.3%と男性(30.5%)よりも6.2ポイント低く、「両方同じ程度」が63.5%で男性(59.3%)よりも4.2ポイント高いなど、分担して行いたいと考える人が多い。

同居家族別でみると、乳幼児や未就学児と同居している女性では『主に妻』の割合が約6割から7割を占めている。一方、男性では『主に妻』は約4割から6割と女性よりも低く、「両方同じ程度」が約4割から5割と女性よりも高くなっており、手のかかる子どもがいる家庭では女性は自分がしている、男性は自分も分担しているという認識が強いようである。

④子どもの教育方針・進路目標の決定

図表３－７ 子どもの教育方針・進路目標の決定〔全体、性別〕



「子どもの教育方針・進路目標の決定」は「両方同じ程度」が61.0%と9分野の中で最も高くなっている。『主に妻』は20.0%、『主に夫』は7.5%である。

性別でみると、女性は『主に妻』が23.9%で男性の14.7%を9.2ポイント上回っている。

既未婚別でみると、既婚の場合女性では「両方同じ程度」は53.9%と男性（61.7%）よりも7.8ポイント低く、『主に妻』が30.1%で男性（16.4%）よりも13.7ポイント高くなっている。既婚女性では子どもの教育方針や進路目標の決定は夫と同じ程度に分担している人が半数を超えているが、自分が行っていると認識を持つ人も多い。未婚では男女とも「両方同じ程度」が7割を超えている。

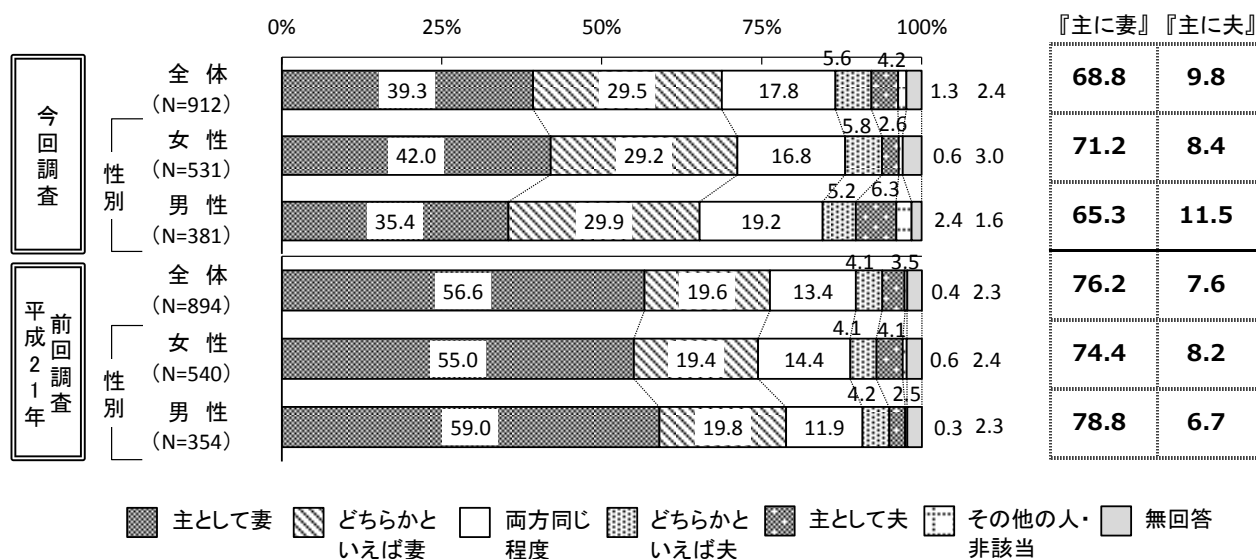
同居家族別でみると、小・中学生や高校生が同居家族にいる女性では「両方同じ程度」と『主に妻』の割合が4割半ばで同程度か、高校生では『主に妻』の割合の方が10ポイント近く高くなっている。一方、男性では「両方同じ程度」が7割半ばから8割と高率で、男女の認識の違いが大きい。

図表3－8 子どもの教育方針・進路目標の決定〔全体、既未婚別、同居家族別〕

		標 本 数	主 と し て 妻	い ど え ち ら ば ら 妻 か と	度 両 方 同 じ 程 度	い ど え ち ら ば ら 夫 か と	主 と し て 夫	人 そ の 非 他 の 当	無 回 答	『 主 に 妻 』	『 主 に 夫 』
全 体		912 100.0	56 6.1	127 13.9	556 61.0	56 6.1	13 1.4	55 6.0	49 5.4	183 20.0	69 7.5
既 未 婚 別	女性:既婚	362	8.6	21.5	53.9	5.5	1.4	5.5	3.6	30.1	6.9
	女性:未婚	74	1.4	6.8	75.7	2.7	－	6.8	6.8	8.2	2.7
	女性:離・死別	77	7.8	2.6	67.5	6.5	－	1.3	14.3	10.4	6.5
	男性:既婚	274	4.4	12.0	61.7	8.0	1.8	6.2	5.8	16.4	9.8
	男性:未婚	59	3.4	5.1	72.9	3.4	3.4	8.5	3.4	8.5	6.8
	男性:離・死別	32	3.1	12.5	62.5	9.4	－	6.3	6.3	15.6	9.4
	無回答	34	8.8	5.9	61.8	5.9	2.9	14.7	－	14.7	8.8
同 居 家 族 別	女性:乳幼児	38	13.2	21.1	57.9	7.9	－	－	－	34.3	7.9
	女性:未就学児	40	17.5	17.5	62.5	2.5	－	－	－	35.0	2.5
	女性:小・中学生	97	18.6	26.8	48.5	4.1	－	1.0	1.0	45.4	4.1
	女性:高校生	52	21.2	30.8	42.3	3.8	1.9	－	－	52.0	5.7
	女性:専門学校生	11	－	5.0	15.0	－	2.5	2.5	2.5	5.0	2.5
	女性:大学・短大生	19	10.5	31.6	52.6	－	－	－	5.3	42.1	－
	女性:上記以外の人	530	7.5	16.4	59.2	5.1	1.1	5.1	5.5	23.9	6.2
	男性:乳幼児	22	4.5	13.6	77.3	4.5	－	－	－	18.1	4.5
	男性:未就学児	28	3.6	3.6	85.7	3.6	3.6	－	－	7.2	7.2
	男性:小・中学生	40	5.0	5.0	75.0	10.0	－	－	5.0	10.0	10.0
	男性:高校生	25	4.0	12.0	80.0	4.0	－	－	－	16.0	4.0
	男性:専門学校生	8	－	25.0	75.0	－	－	－	－	25.0	－
	男性:大学・短大生	14	－	14.3	85.7	－	－	－	－	14.3	－
	男性:上記以外の人	379	4.2	10.6	63.1	7.7	1.8	7.4	5.3	14.8	9.5

⑤家計支出の管理

図表 3-9 家計支出の管理〔全体、性別〕（前回調査比較）



「家計支出の管理」は『主に妻』が68.8%、「両方同じ程度」が17.8%と日々の家計の管理は妻の担当となっている場合が多い。

性別でみると、「主として妻」の割合は女性が42.0%と男性（35.4%）を6.6ポイント上回っており、女性の自分が行っているという認識が強くなっている。

前回調査と比較すると、「主として妻」の割合は前回よりは女性で13ポイント、男性で23.6ポイント低くなっており、男性の『主に妻』の割合は13.5ポイント低くなっている。

既未婚別でみると、既婚の場合女性で『主に妻』が76.8%、男性は69.0%で「両方同じ程度」は1割半ばと低く、女性が家計の管理をしている場合が多い。

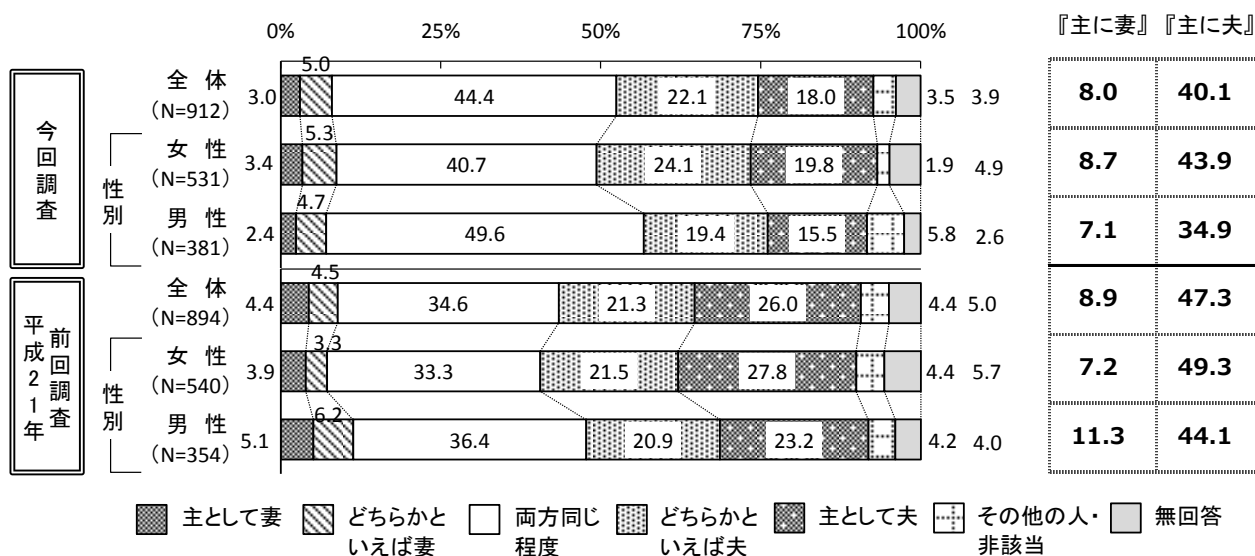
性別役割分担意識別でみると、女性では性別役割分担を容認する人ほど『主に妻』の割合が高くなっている。男性もその傾向はみられるが『主に夫』の割合も増えている。

図表 3-10 家計支出の管理〔全体、既未婚別、性別役割分担別〕

		標本数	主として妻	どちらかといえば妻	両方同じ程度	どちらかといえば夫	主として夫	その他の人・非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		912	358	269	162	51	38	12	22	627	89
		100.0	39.3	29.5	17.8	5.6	4.2	1.3	2.4	68.8	9.8
既未婚別	女性:既婚	362	49.7	27.1	14.4	4.4	3.3	-	1.1	76.8	7.7
	女性:未婚	74	18.9	41.9	25.7	6.8	-	2.7	4.1	60.8	6.8
	女性:離・死別	77	27.3	31.2	18.2	9.1	1.3	1.3	11.7	58.5	10.4
	男性:既婚	274	43.1	25.9	16.1	6.6	6.6	-	1.8	69.0	13.2
	男性:未婚	59	13.6	39.0	33.9	1.7	1.7	10.2	-	52.6	3.4
	男性:離・死別	32	15.6	46.9	21.9	3.1	6.3	3.1	3.1	62.5	9.4
	無回答	34	35.3	20.6	17.6	8.8	11.8	5.9	-	55.9	20.6
性別役割分担意識別	女性:そう思う	13	53.8	23.1	7.7	-	7.7	-	7.7	76.9	7.7
	女性:どちらかといえばそう思う	196	45.9	29.6	13.8	5.6	3.1	0.5	1.5	75.5	8.7
	女性:どちらかといえばそう思わない	145	37.9	33.8	17.2	5.5	1.4	0.7	3.4	71.7	6.9
	女性:そう思わない	174	40.2	24.7	20.7	6.9	2.9	0.6	4.0	64.9	9.8
	男性:そう思う	19	31.6	26.3	15.8	10.5	15.8	-	-	57.9	26.3
	男性:どちらかといえばそう思う	132	39.4	29.5	15.9	8.3	6.1	-	0.8	68.9	14.4
	男性:どちらかといえばそう思わない	85	29.4	30.6	22.4	5.9	3.5	5.9	2.4	60.0	9.4
	男性:そう思わない	139	35.3	30.2	20.9	1.4	7.2	2.9	2.2	65.5	8.6
	無回答	9	44.4	44.4	11.1	-	-	-	-	88.8	-

⑥土地・家屋・その他高額商品の購入

図表3-11 土地・家屋・その他高額商品の購入〔全体、性別〕（前回調査比較）



「土地・家屋・その他高額商品の購入」については「両方同じ程度」が44.4%、『主に夫』が40.1%となっている。日々の家計の管理は妻の担当が多かったが、高額な商品の購入では同じ程度、もしくは夫の担当となっているようである。

性別でみると、女性は「両方同じ程度」（40.7%）と『主に夫』（43.9%）が同程度であるが、男性は「両方同じ程度」が49.6%と『主に夫』（34.9%）よりも14.7ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、男女とも「両方同じ程度」が女性で7.4ポイント、男性で13.2ポイント増えている。

既未婚別でみると、女性では既未婚による違いはあまりみられないが、男性では未婚で「両方同じ程度」が64.4%と既婚の47.4%を17ポイント上回り、『主に妻』は20.4%と最も低くなっている。

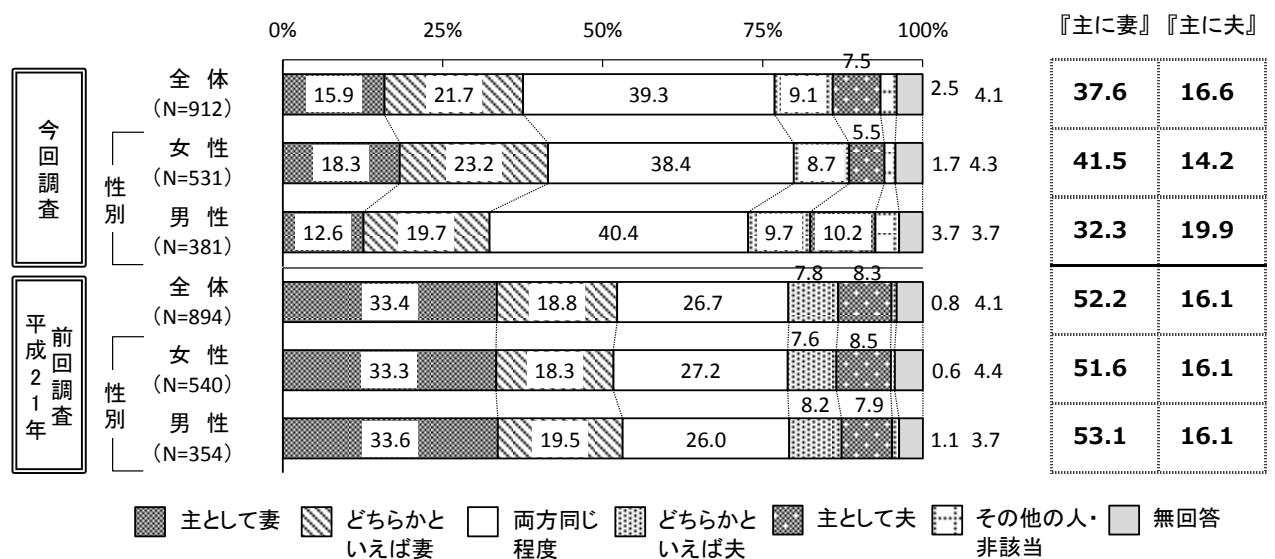
性別役割分担意識別でみると、女性では性別役割分担を容認する人ほど『主に妻』の割合が高くなっている。また男性も女性ほど顕著ではないが同様の傾向はみられる。

図表3-12 土地・家屋・その他高額商品の購入〔全体、既未婚別、性別役割分担別〕

		標本数	主として妻	いど えち ばら 妻か と	度両 方同 じ程 度	いど えち ばら 夫か と	主として夫	人そ ・の 非他 該の 当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全 体		912 100.0	27 3.0	46 5.0	405 44.4	202 22.1	164 18.0	32 3.5	36 3.9	73 8.0	366 40.1
既未婚別	女性:既婚	362	3.6	6.6	40.1	22.9	22.4	1.4	3.0	10.2	45.3
	女性:未婚	74	-	2.7	40.5	35.1	13.5	4.1	4.1	2.7	48.6
	女性:離・死別	77	6.5	2.6	42.9	20.8	9.1	2.6	15.6	9.1	29.9
	男性:既婚	274	3.3	5.1	47.4	20.4	17.5	3.3	2.9	8.4	37.9
	男性:未婚	59	-	3.4	64.4	15.3	5.1	11.9	-	3.4	20.4
	男性:離・死別	32	-	6.3	50.0	18.8	12.5	6.3	6.3	6.3	31.3
	無回答	34	-	-	38.2	17.6	32.4	11.8	-	-	50.0
性別 役割 分担 意識 別	女性:そう思う	13	-	15.4	15.4	7.7	53.8	-	7.7	15.4	61.5
	女性:どちらかといえばそう思う	196	2.0	4.6	36.2	29.1	21.9	2.0	4.1	6.6	51.0
	女性:どちらかといえばそう思わない	145	3.4	5.5	40.7	27.6	17.2	1.4	4.1	8.9	44.8
	女性:そう思わない	174	5.2	5.2	47.1	17.2	16.7	2.3	6.3	10.4	33.9
	男性:そう思う	19	-	5.3	31.6	21.1	26.3	5.3	10.5	5.3	47.4
	男性:どちらかといえばそう思う	132	3.0	4.5	43.2	25.0	19.7	3.8	0.8	7.5	44.7
	男性:どちらかといえばそう思わない	85	2.4	3.5	57.6	14.1	11.8	5.9	4.7	5.9	25.9
	男性:そう思わない	139	1.4	5.0	54.0	17.3	12.9	7.2	2.2	6.4	30.2
	無回答	9	11.1	11.1	44.4	11.1	11.1	11.1	-	22.2	22.2

⑦貯蓄・投資などの生活設計

図表3-13 貯蓄・投資などの生活設計〔全体、性別〕（前回調査比較）



「貯蓄・投資などの生活設計」は「両方同じ程度」が39.3%、『主に妻』が37.6%と同程度となっている。『主に夫』は16.6%である。

性別でみると、女性は『主に妻』が 41.5%、男性は「両方同じ程度」が 40.4%と最も高く、性別による違いがみられる。

前回調査と比較すると、男女とも「両方同じ程度」の割合が 10 ポイント以上増えている。前回調査は男女とも『主に妻』の認識が強かったが、今回調査では女性は自分、男性は同じ程度に分担していると認識している。

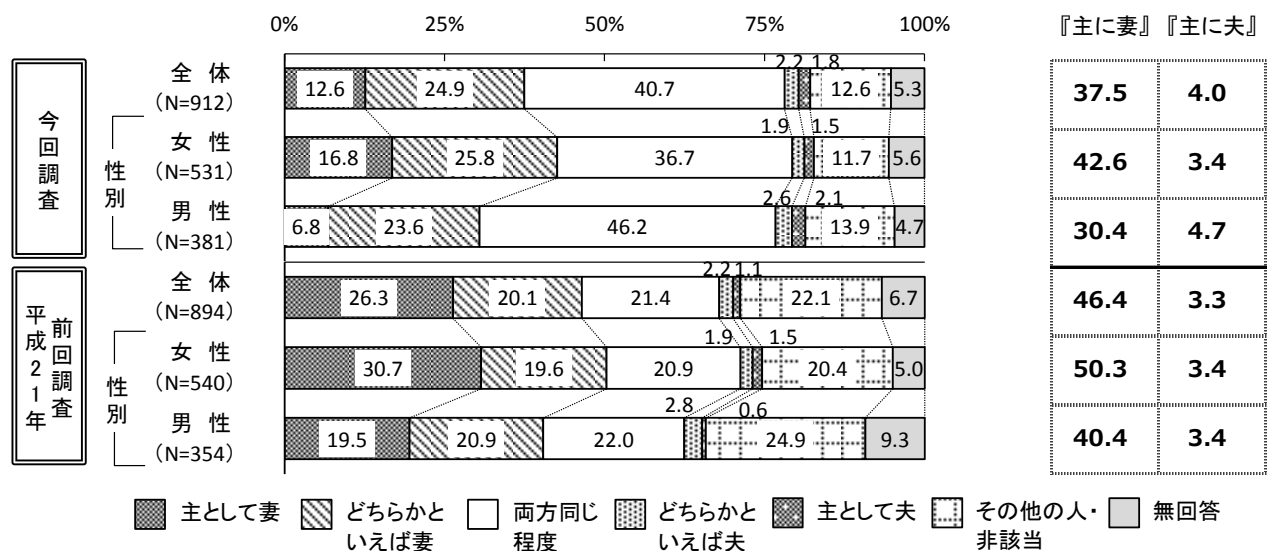
既未婚別でみると、既婚の場合女性では『主に妻』が 47.0%と高いが、男性では『主に妻』と「両方同じ程度」が 3 割半ばで同程度、『主に夫』も 22.2%ある。未婚では男女とも「両方同じ程度」が 5 割を超えて高い。

図表 3-14 貯蓄・投資などの生活設計 [全体、既未婚別]

		標本数	主として妻	どちらかといえば妻	両方同じ程度	どちらかといえば夫	主として夫	その他の人・非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全 体		912	145	198	358	83	68	23	37	34.3	15.1
		100.0	15.9	21.7	39.3	9.1	7.5	2.5	4.1	37.6	16.6
既 未 婚 別	女性:既婚	362	22.1	24.9	34.3	8.8	6.6	1.1	2.2	47.0	15.4
	女性:未婚	74	4.1	24.3	52.7	10.8	1.4	4.1	2.7	28.4	12.2
	女性:離・死別	77	14.3	14.3	40.3	7.8	3.9	2.6	16.9	28.6	11.7
	男性:既婚	274	15.0	22.3	35.0	11.3	10.9	1.8	3.6	37.3	22.2
	男性:未婚	59	5.1	15.3	55.9	6.8	3.4	10.2	3.4	20.4	10.2
	男性:離・死別	32	6.3	12.5	50.0	6.3	15.6	3.1	6.3	18.8	21.9
	無回答	34	14.7	14.7	55.9	-	8.8	5.9	-	29.4	8.8

⑧親の介護

図表 3-15 親の介護 [全体、性別] (前回調査比較)



「親の介護」は「両方同じ程度」が 40.7%、『主に妻』が 37.5%と同程度となっている。

性別でみると、貯蓄・投資などの生活設計と同様に女性は『主に妻』が 42.6%、男性は「両方同じ程度」が 46.2%で最も高く、性別による違いがみられる。

前回調査と比較すると、前回調査は男女とも『主に妻』が約4割から5割と高かったが、今回調査では『主に妻』が約8～10ポイント低くなり、「両方同じ程度」が女性で15.8ポイント、男性で24.2ポイント増えている。

既未婚別でみると、既婚の場合女性は『主に妻』が48.9%、男性は「両方同じ程度」が40.5%と高くなっており、女性は自分が行っているという認識が強い。未婚では男女とも「両方同じ程度」が6割台と最も高くなっている。

年代別でみると、男女とも年齢が低いほど「両方同じ程度」の割合が高く、60代を頂点に年齢が高くなるほど『主に妻』の割合が高くなっている。特に女性の50代と60代では『主に妻』が5割半ば、男性の60代でも45.1%と高率である。親の介護が必要な世代では女性が担う場合が多いようである。

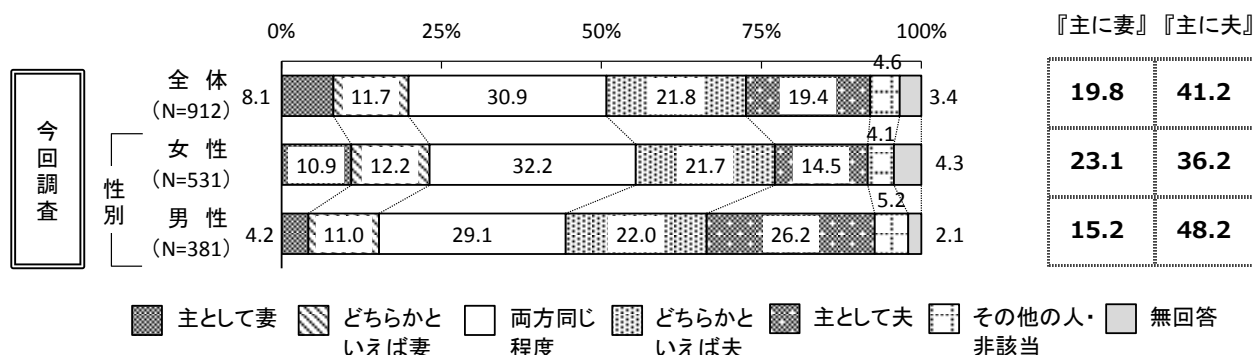
図表3-16 親の介護〔全体、既未婚別、年代別〕

(%)

		標 本 数	主 と し て 妻	い ど え ち ら ば ら 妻 か と	度 両 方 同 じ 程	い ど え ち ら ば ら 夫 か と	主 と し て 夫	人 そ の 非 他 の 当	無 回 答	『 主 に 妻 』	『 主 に 夫 』
全 体		912 100.0	145 15.9	198 21.7	358 39.3	83 9.1	68 7.5	23 2.5	37 4.1	343 37.6	151 16.6
既 未 婚 別	女性:既婚	362	20.7	28.2	29.8	1.9	1.9	13.5	3.9	48.9	3.8
	女性:未婚	74	5.4	16.2	63.5	2.7	-	8.1	4.1	21.6	2.7
	女性:離・死別	77	10.4	24.7	39.0	1.3	1.3	6.5	16.9	35.1	2.6
	男性:既婚	274	8.8	25.9	40.5	2.9	1.8	15.0	5.1	34.7	4.7
	男性:未婚	59	1.7	11.9	67.8	3.4	3.4	10.2	1.7	13.6	6.8
	男性:離・死別	32	-	28.1	56.3	-	3.1	6.3	6.3	28.1	3.1
	無回答	34	8.8	20.6	50.0	-	-	17.6	2.9	29.4	-
年 代 別	女性:20代	56	7.1	8.9	69.6	3.6	-	8.9	1.8	16.0	3.6
	女性:30代	88	10.2	12.5	46.6	1.1	1.1	26.1	2.3	22.7	2.2
	女性:40代	91	19.8	23.1	37.4	1.1	2.2	13.2	3.3	42.9	3.3
	女性:50代	101	21.8	33.7	29.7	1.0	3.0	5.9	5.0	55.5	4.0
	女性:60代	111	18.9	37.8	27.0	2.7	1.8	7.2	4.5	56.7	4.5
	女性:70代以上	71	16.9	28.2	23.9	2.8	-	8.5	19.7	45.1	2.8
	男性:20代	24	-	12.5	66.7	-	4.2	16.7	-	12.5	4.2
	男性:30代	46	2.2	10.9	63.0	2.2	2.2	19.6	-	13.1	4.4
	男性:40代	54	1.9	22.2	59.3	3.7	1.9	9.3	1.9	24.1	5.6
	男性:50代	78	3.8	23.1	52.6	2.6	3.8	10.3	3.8	26.9	6.4
	男性:60代	102	10.8	34.3	33.3	2.9	2.0	12.7	3.9	45.1	4.9
	男性:70代以上	70	14.3	20.0	31.4	2.9	-	17.1	14.3	34.3	2.9
	無回答	20	15.0	35.0	30.0	-	-	20.0	-	50.0	-

⑨町内会・自治会等への会合への参加

図表3-17 町内会・自治会等への会合への参加〔全体、性別〕



「町内会・自治会等への会合への参加」は『主に夫』が41.2%と最も高く、「両方同じ程度」は30.9%、『主に妻』は19.8%となっている。

性別でみると、女性は『主に夫』(36.2%)と「両方同じ程度」(32.3%)が同程度で、『主に妻』が23.1%となっている。男性は『主に夫』が48.2%と5割近くで最も高く、「両方同じ程度」は29.1%、『主に妻』は15.2%となっている。男女とも地域の活動は、それぞれ自分が行っているという認識が強いようである。

既未婚別でみると、既婚の場合女性の『主に夫』は37.6%であるが、男性では57.7%と20.1ポイントも高くなっている。『主に妻』は女性が27.4%であるのに対し、男性は14.5%と女性が12.9ポイント高くなっている。未婚では男女とも「両方同じ程度」が約4割半ばから5割半ばと最も高い。

年代別でみると、男女とも年齢が高い層では『主に夫』の割合が高くなる傾向にあり、特に男性の60代では63.8%と高率である。

図表3-18 町内会・自治会等への会合への参加〔全体、既未婚別、年代別〕

		標本数	主として妻	どちらかといえば妻	両方同じ程度	どちらかといえば夫	主として夫	その他の人・非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		912	74	107	282	199	177	42	31	181	376
		100.0	8.1	11.7	30.9	21.8	19.4	4.6	3.4	19.8	41.2
既未婚別	女性:既婚	362	13.3	14.1	28.7	19.9	17.7	4.1	2.2	27.4	37.6
	女性:未婚	74	2.7	10.8	44.6	25.7	6.8	5.4	4.1	13.5	32.5
	女性:離・死別	77	6.5	3.9	35.1	27.3	7.8	3.9	15.6	10.4	35.1
	男性:既婚	274	3.6	10.9	22.3	24.1	33.6	3.3	2.2	14.5	57.7
	男性:未婚	59	3.4	10.2	54.2	16.9	1.7	11.9	1.7	13.6	18.6
	男性:離・死別	32	6.3	15.6	40.6	18.8	12.5	3.1	3.1	21.9	31.3
	無回答	34	14.7	11.8	35.3	14.7	14.7	8.8	-	26.5	29.4
年代別	女性:20代	56	1.8	17.9	51.8	17.9	1.8	8.9	-	19.7	19.7
	女性:30代	88	13.6	10.2	34.1	18.2	12.5	9.1	2.3	23.8	30.7
	女性:40代	91	16.5	8.8	34.1	16.5	14.3	6.6	3.3	25.3	30.8
	女性:50代	101	9.9	19.8	25.7	28.7	11.9	1.0	3.0	29.7	40.6
	女性:60代	111	10.8	10.8	34.2	23.4	17.1	0.9	2.7	21.6	40.5
	女性:70代以上	71	9.9	7.0	22.5	22.5	21.1	-	16.9	16.9	43.6
	男性:20代	24	8.3	12.5	50.0	8.3	8.3	12.5	-	20.8	16.6
	男性:30代	46	4.3	13.0	50.0	13.0	8.7	10.9	-	17.3	21.7
	男性:40代	54	5.6	7.4	37.0	16.7	27.8	3.7	1.9	13.0	44.5
	男性:50代	78	5.1	10.3	26.9	21.8	28.2	3.8	3.8	15.4	50.0
	男性:60代	102	3.9	11.8	17.6	27.5	36.3	2.0	1.0	15.7	63.8
	男性:70代以上	70	1.4	11.4	21.4	28.6	27.1	5.7	4.3	12.8	55.7
	無回答	20	5.0	10.0	15.0	25.0	35.0	10.0	-	15.0	60.0

2. 結婚についての考え方

- 「結婚してもしなくてもどちらでもよい」「結婚という形式とらわれない」「離婚もやむを得ない」は『賛成』の割合が高い。
- 「結婚しても子どもをもたなくてもよい」は『賛成』『反対』が同程度。
- 「夫婦別姓の選択」「未婚で子どもを産み育てる」ことには『反対』の割合が高い。

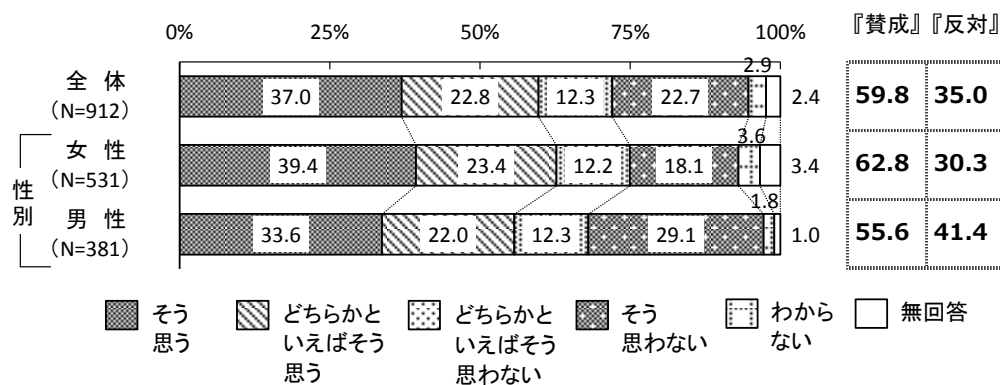
問7 あなたは、結婚についてどのような考え方をお持ちですか。次の①～⑥までのそれぞれの質問について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つ)

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

図表3-19 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

[全体、性別]



「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方について「そう思う」が37.0%で最も高く、これに「どちらかといえばそう思う」(22.8%)を合わせた『賛成』は59.8%と約6割である。「そう思わない」は22.7%で、これに「どちらかといえばそう思わない」(12.3%)を合わせた『反対』は35.0%となっている。

性別でみると、女性は『賛成』が62.8%と6割を超え、男性(55.6%)を7.2ポイント上回っている。男性は『反対』(41.4%)のうち強い反対の「そう思わない」が29.1%と女性よりも11ポイント高くなっている。

既未婚別でみると、男女とも未婚で『賛成』が約8割と高率である。既婚の場合男性では『賛成』(49.6%)と『反対』(48.1%)が同程度となっている。

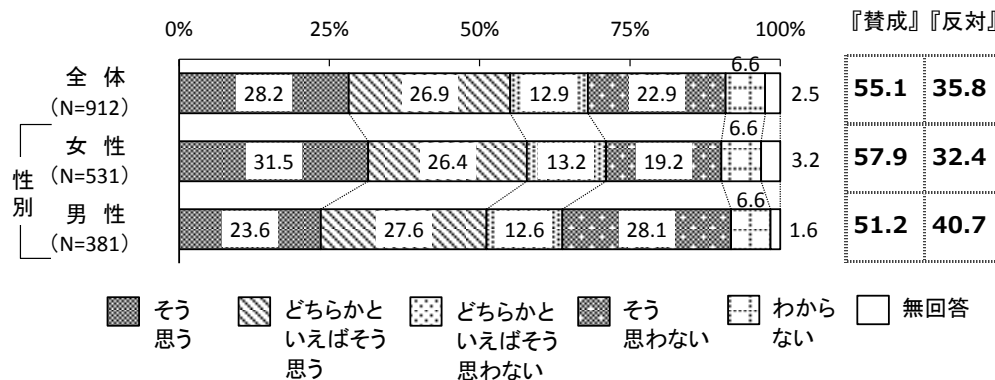
年代別でみると、男女とも年代が低くなるほど『賛成』の割合は高くなっており、20代では8割を超えている。

図表3-20 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい
[全体、既未婚別、年代別]

			標 本 数	そ う 思 う	え ど ち ら か そ う か と う い	な え ど ち ら か そ う か と わ い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答	『賛 成』	『反 対』
全 体			912 100.0	337 37.0	208 22.8	112 12.3	207 22.7	26 2.9	22 2.4	545 59.8	319 35.0
既 未 婚 別	女性:既婚		362	37.6	24.9	12.7	19.9	2.8	2.2	62.5	32.6
	女性:未婚		74	52.7	28.4	4.1	6.8	4.1	4.1	81.1	10.9
	女性:離・死別		77	35.1	14.3	15.6	20.8	6.5	7.8	49.4	36.4
	男性:既婚		274	28.1	21.5	13.1	35.0	1.5	0.7	49.6	48.1
	男性:未婚		59	55.9	23.7	10.2	5.1	3.4	1.7	79.6	15.3
	男性:離・死別		32	43.8	28.1	6.3	18.8	-	3.1	71.9	25.1
	無回答		34	32.4	11.8	20.6	26.5	5.9	2.9	44.2	47.1
年 代 別	女性:20代		56	50.0	32.1	5.4	8.9	3.6	-	82.1	14.3
	女性:30代		88	58.0	23.9	3.4	10.2	3.4	1.1	81.9	13.6
	女性:40代		91	52.7	22.0	12.1	6.6	5.5	1.1	74.7	18.7
	女性:50代		101	36.6	23.8	13.9	19.8	3.0	3.0	60.4	33.7
	女性:60代		111	27.9	27.9	16.2	24.3	1.8	1.8	55.8	40.5
	女性:70代以上		71	15.5	14.1	18.3	31.0	5.6	15.5	29.6	49.3
	男性:20代		24	70.8	12.5	8.3	8.3	-	-	83.3	16.6
	男性:30代		46	52.2	23.9	8.7	13.0	-	2.2	76.1	21.7
	男性:40代		54	44.4	22.2	11.1	20.4	1.9	-	66.6	31.5
	男性:50代		78	32.1	23.1	11.5	29.5	1.3	2.6	55.2	41.0
	男性:60代		102	22.5	23.5	19.6	29.4	3.9	1.0	46.0	49.0
	男性:70代以上		70	18.6	20.0	8.6	51.4	1.4	-	38.6	60.0
	無回答		20	25.0	10.0	15.0	50.0	-	-	35.0	65.0

②結婚という形式にとらわれず「パートナーと暮らす」という生き方があってもよい

図表3-21 結婚という形式にとらわれず「パートナーと暮らす」という生き方があってもよい
[全体、性別]



「結婚という形式にとらわれず「パートナーと暮らす」という生き方があってもよい」という考え方については、結婚してもしなくてもどちらでもよいという考え方と同様に『賛成』が55.1%で『反対』（35.8%）を19.3ポイント上回っている。

性別でみると、女性の『賛成』は57.9%で、男性（51.2%）を6.7ポイント上回っている。男性は『反対』（40.7%）のうち強い反対の「そう思わない」が28.1%と女性よりも8.9ポイント高くなっている。

既未婚別でみると、男女とも未婚の『賛成』が7割前後で高率である。既婚の場合男性では『賛成』が43.8%、『反対』が47.8%と『反対』の方が高くなっている。

年代別でみると、男女とも40代以下で『賛成』が高くなっている。男性の60代以上と女性の70代以上では『反対』の割合が『賛成』を上回っている。

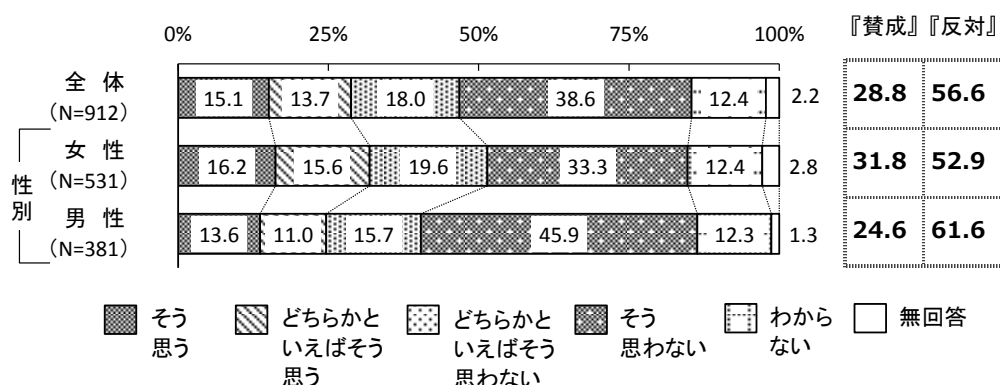
図表3-22 結婚という形式にとらわれず「パートナーと暮らす」という生き方があってもよい

[全体、既未婚別、年代別]

									(%)	
		標本数	そう思う	えどばち そうか 思とうい	なえど いばち そうか 思とわい	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答	『賛 成』	『反 対』
全 体		912	257	245	118	209	60	23	502	327
		100.0	28.2	26.9	12.9	22.9	6.6	2.5	55.1	35.8
既 未 婚 別	女性:既婚	362	30.4	27.3	14.1	21.3	5.0	1.9	57.7	35.4
	女性:未婚	74	39.2	29.7	5.4	10.8	10.8	4.1	68.9	16.2
	女性:離・死別	77	27.3	19.5	15.6	19.5	9.1	9.1	46.8	35.1
	男性:既婚	274	18.6	25.2	14.2	33.6	6.6	1.8	43.8	47.8
	男性:未婚	59	33.9	39.0	6.8	13.6	6.8	-	72.9	20.4
	男性:離・死別	32	43.8	28.1	6.3	12.5	6.3	3.1	71.9	18.8
	無回答	34	35.3	23.5	17.6	14.7	8.8	-	58.8	32.3
年 代 別	女性:20代	56	35.7	33.9	10.7	10.7	8.9	-	69.6	21.4
	女性:30代	88	46.6	28.4	5.7	10.2	6.8	2.3	75.0	15.9
	女性:40代	91	44.0	27.5	8.8	9.9	7.7	2.2	71.5	18.7
	女性:50代	101	29.7	28.7	17.8	17.8	5.0	1.0	58.4	35.6
	女性:60代	111	23.4	25.2	18.9	25.2	5.4	1.8	48.6	44.1
	女性:70代以上	71	12.7	14.1	14.1	36.6	8.5	14.1	26.8	50.7
	男性:20代	24	41.7	29.2	8.3	16.7	4.2	-	70.9	25.0
	男性:30代	46	28.3	39.1	8.7	19.6	4.3	-	67.4	28.3
	男性:40代	54	24.1	40.7	3.7	22.2	9.3	-	64.8	25.9
	男性:50代	78	37.2	21.8	12.8	15.4	9.0	3.8	59.0	28.2
	男性:60代	102	11.8	26.5	16.7	40.2	3.9	1.0	38.3	56.9
	男性:70代以上	70	14.3	17.1	17.1	40.0	8.6	2.9	31.4	57.1
	無回答	20	20.0	30.0	15.0	35.0	-	-	50.0	50.0

③夫婦は別々の姓を名乗ることを選択できる方がよい

図表3-23 夫婦は別々の姓を名乗ることを選択できる方がよい〔全体、性別〕



「夫婦は別々の姓を名乗ることを選択できる方がよい」については「そう思わない」が38.6%と最も高く『反対』は56.6%と5割を超え、6つの結婚に対する考え方の中で最も高くなっている。

性別でみると、男性の「そう思わない」は45.9%で、女性の33.3%を12.6ポイント上回り、『反対』は61.6%と6割を超えている。また「わからない」が男女とも12%ほどある。

既未婚別でみると、男女とも既婚で『反対』が5割半ばから6割半ばと高いが、未婚では『賛成』と『反対』の割合が4割前後で、『賛成』の割合がやや高くなっている。

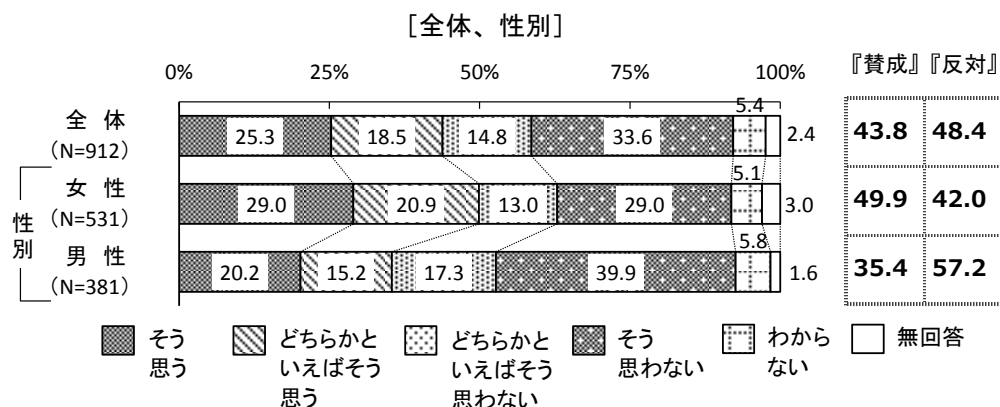
年代別でみると、男性の20代は『賛成』(41.7%)が『反対』(33.3%)を上回っているが、その他の年代では『反対』の割合の方が高くなっている。女性は20代と40代で『賛成』と『反対』が4割台となっているが、その他の年代では『反対』の割合の方が高くなっている。

図表3-24 夫婦は別々の姓を名乗ることを選択できる方がよい
〔全体、既未婚別、年代別〕

		標本数	そう思う	えど ばち ら そ う か 思 と う い	な え ど い ば ち ら そ う か 思 と わ い	そう 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答	『賛 成』	『反 対』
全 体		912	138	125	164	352	113	20	263	516
		100.0	15.1	13.7	18.0	38.6	12.4	2.2	28.8	56.6
既 未 婚 別	女性:既婚	362	14.9	16.0	20.2	35.4	12.2	1.4	30.9	55.6
	女性:未婚	74	21.6	17.6	18.9	18.9	17.6	5.4	39.2	37.8
	女性:離・死別	77	16.9	10.4	18.2	40.3	6.5	7.8	27.3	58.5
	男性:既婚	274	11.7	9.5	16.4	50.0	10.9	1.5	21.2	66.4
	男性:未婚	59	20.3	22.0	11.9	25.4	20.3	-	42.3	37.3
	男性:離・死別	32	21.9	9.4	15.6	37.5	12.5	3.1	31.3	53.1
	無回答	34	11.8	11.8	17.6	44.1	14.7	-	23.6	61.7
年 代 別	女性:20代	56	19.6	23.2	23.2	25.0	8.9	-	42.8	48.2
	女性:30代	88	20.5	15.9	19.3	27.3	15.9	1.1	36.4	46.6
	女性:40代	91	22.0	19.8	19.8	20.9	15.4	2.2	41.8	40.7
	女性:50代	101	17.8	15.8	18.8	32.7	13.9	1.0	33.6	51.5
	女性:60代	111	12.6	15.3	18.9	41.4	9.9	1.8	27.9	60.3
	女性:70代以上	71	5.6	5.6	21.1	46.5	8.5	12.7	11.2	67.6
	男性:20代	24	29.2	12.5	12.5	20.8	25.0	-	41.7	33.3
	男性:30代	46	8.7	15.2	10.9	43.5	21.7	-	23.9	54.4
	男性:40代	54	14.8	13.0	25.9	35.2	11.1	-	27.8	61.1
	男性:50代	78	20.5	14.1	15.4	37.2	9.0	3.8	34.6	52.6
	男性:60代	102	9.8	9.8	13.7	59.8	4.9	2.0	19.6	73.5
	男性:70代以上	70	7.1	5.7	15.7	54.3	17.1	-	12.8	70.0
	無回答	20	15.0	5.0	10.0	55.0	15.0	-	20.0	65.0

④結婚しても、子どもを持っても持たなくてもどちらでもよい

図表3-25 結婚しても、子どもを持っても持たなくてもどちらでもよい



「結婚しても、子どもを持っても持たなくてもどちらでもよい」については『賛成』が43.8%、『反対』が48.4%と、6つの考え方の中で最も『賛成』と『反対』の割合の差が小さかった。

性別でみると、女性は『賛成』(49.9%)、男性は『反対』(57.2%)の割合の方が高くなっている。

既未婚別でみると、既婚の女性と未婚の男女は『賛成』の割合が『反対』よりも高いが、既婚の男性は『反対』が62.8%と『賛成』(30.3%)の約2倍となっている。

年代別でみると、女性は50代以上から、男性は40代以上から『反対』の割合が『賛成』の割合を上回るようになる。

図表3-26 結婚しても、子どもを持っても持たなくてもどちらでもよい

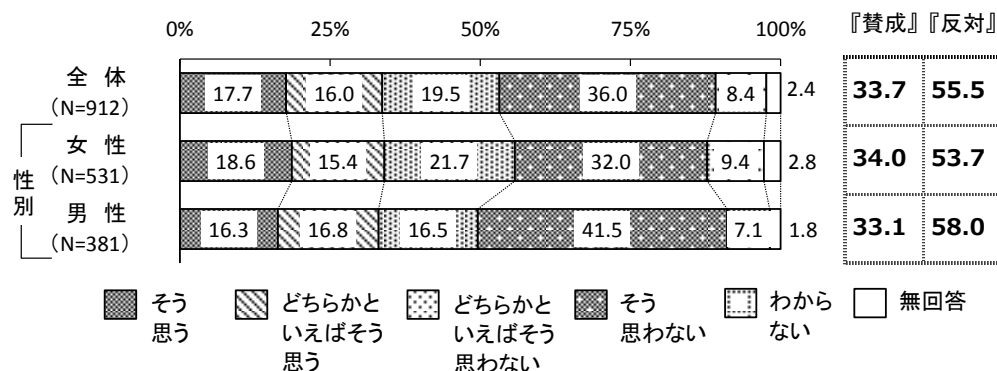
[全体、既未婚別、年代別]

		標本数	そう思う	えどち ばち そう か 思 と う い	なえど いばち そう か 思 と わ い	そう 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答	『賛成』	『反対』
全 体		912	231	169	135	306	49	22	400	441
		100.0	25.3	18.5	14.8	33.6	5.4	2.4	43.8	48.4
既 未 婚 別	女性:既婚	362	27.1	23.2	13.0	30.7	4.4	1.7	50.3	43.7
	女性:未婚	74	43.2	20.3	8.1	13.5	9.5	5.4	63.5	21.6
	女性:離・死別	77	20.8	11.7	16.9	39.0	3.9	7.8	32.5	55.9
	男性:既婚	274	17.5	12.8	17.2	45.6	5.1	1.8	30.3	62.8
	男性:未婚	59	28.8	25.4	18.6	16.9	10.2	-	54.2	35.5
	男性:離・死別	32	25.0	25.0	15.6	28.1	3.1	3.1	50.0	43.7
	無回答	34	35.3	8.8	17.6	32.4	5.9	-	44.1	50.0
年 代 別	女性:20代	56	41.1	25.0	10.7	17.9	5.4	-	66.1	28.6
	女性:30代	88	43.2	30.7	6.8	13.6	4.5	1.1	73.9	20.4
	女性:40代	91	42.9	22.0	13.2	12.1	7.7	2.2	64.9	25.3
	女性:50代	101	26.7	18.8	15.8	34.7	3.0	1.0	45.5	50.5
	女性:60代	111	18.9	18.0	18.0	38.7	3.6	2.7	36.9	56.7
	女性:70代以上	71	4.2	14.1	12.7	49.3	7.0	12.7	18.3	62.0
	男性:20代	24	41.7	20.8	8.3	20.8	8.3	-	62.5	29.1
	男性:30代	46	37.0	10.9	26.1	21.7	4.3	-	47.9	47.8
	男性:40代	54	22.2	18.5	22.2	29.6	7.4	-	40.7	51.8
	男性:50代	78	20.5	14.1	12.8	44.9	3.8	3.8	34.6	57.7
	男性:60代	102	9.8	20.6	20.6	43.1	3.9	2.0	30.4	63.7
	男性:70代以上	70	14.3	7.1	12.9	54.3	10.0	1.4	21.4	67.2
	無回答	20	25.0	10.0	-	60.0	5.0	-	35.0	60.0

⑤結婚しないで「子どもを産み育てる」という生き方があってもよい

図表3-27 結婚しないで「子どもを産み育てる」という生き方があってもよい

[全体、性別]



「結婚しないで「子どもを産み育てる」という生き方があってもよい」という考え方については『賛成』が33.7%、『反対』が55.5%と夫婦別々の姓を名乗る選択ができるに次いで2番目に『反対』の割合が高かった。

性別でみると、男女とも『反対』が5割を超えて高いが、男性の「そう思わない」は41.5%と女性の32.0%を9.5ポイント上回り、男性の方が強い反対が多い。

既婚別でみると、男女とも既婚で『反対』が5割半ばから6割半ばと高いが、未婚では『賛成』が4割半ばと、『反対』よりも1割ほど高くなっている。

年代別でみると、男女とも年齢が高い層で『反対』の割合が高い。女性の20代と40代、男性の30代から50代で『賛成』の割合が4割台となっている。

図表3-28 結婚しないで「子どもを産み育てる」という生き方があってもよい

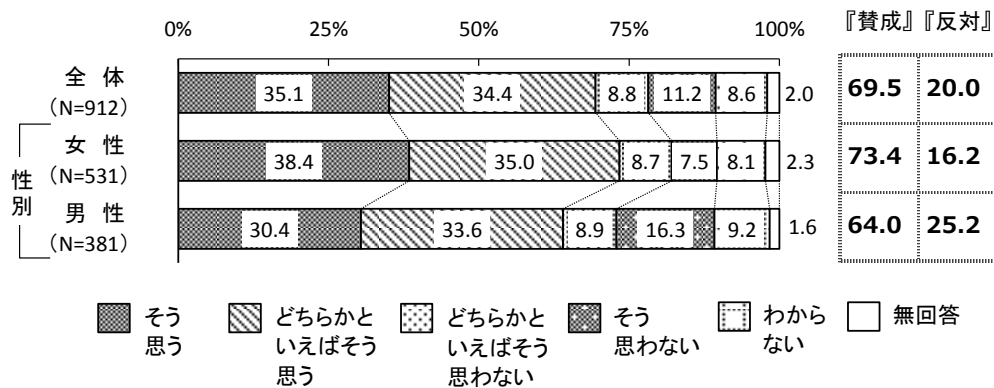
[全体、既未婚別、年代別]

		標本数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思う	そう思わない	わからない	無回答	『賛成』	『反対』
全 体		912	161	146	178	328	77	22	307	506
		100.0	17.7	16.0	19.5	36.0	8.4	2.4	33.7	55.5
既 未 婚 別	女性:既婚	362	19.6	14.6	24.3	32.3	7.5	1.7	34.2	56.6
	女性:未婚	74	18.9	27.0	13.5	23.0	12.2	5.4	45.9	36.5
	女性:離・死別	77	13.0	9.1	18.2	37.7	15.6	6.5	22.1	55.9
	男性:既婚	274	12.8	15.7	17.9	46.0	5.8	1.8	28.5	63.9
	男性:未婚	59	25.4	22.0	16.9	20.3	13.6	1.7	47.4	37.2
	男性:離・死別	32	25.0	18.8	9.4	40.6	3.1	3.1	43.8	50.0
	無回答	34	23.5	11.8	11.8	41.2	11.8	-	35.3	53.0
年 代 別	女性:20代	56	19.6	25.0	19.6	30.4	5.4	-	44.6	50.0
	女性:30代	88	21.6	18.2	23.9	26.1	9.1	1.1	39.8	50.0
	女性:40代	91	31.9	14.3	24.2	17.6	9.9	2.2	46.2	41.8
	女性:50代	101	20.8	17.8	20.8	30.7	8.9	1.0	38.6	51.5
	女性:60代	111	11.7	10.8	24.3	39.6	12.6	0.9	22.5	63.9
	女性:70代以上	71	5.6	12.7	15.5	43.7	8.5	14.1	18.3	59.2
	男性:20代	24	25.0	12.5	25.0	25.0	12.5	-	37.5	50.0
	男性:30代	46	21.7	21.7	17.4	34.8	4.3	-	43.4	52.2
	男性:40代	54	25.9	16.7	14.8	33.3	9.3	-	42.6	48.1
	男性:50代	78	16.7	25.6	17.9	28.2	6.4	5.1	42.3	46.1
	男性:60代	102	12.7	11.8	17.6	52.9	3.9	1.0	24.5	70.5
	男性:70代以上	70	5.7	11.4	11.4	58.6	10.0	2.9	17.1	70.0
	無回答	20	20.0	10.0	15.0	45.0	10.0	-	30.0	60.0

⑥結婚しても夫婦間の愛情や信頼がなくなれば、離婚するのもやむを得ない

図表 3-29 結婚しても夫婦間の愛情や信頼がなくなれば、離婚するのもやむを得ない

[全体、性別]



「結婚しても夫婦間の愛情や信頼がなくなれば、離婚するのもやむを得ない」という考え方については『賛成』が69.5%と6つの考え方の中で最も『賛成』の割合が高かった。

性別でみると、『賛成』は女性で73.4%、男性は64.0%といずれも高いが、女性は強い賛成の「そう思う」が38.4%と男性（30.4%）を8ポイント上回っている。

既未婚別でみると、女性は既婚の『賛成』が74.0%と未婚（68.9%）を上回っているが、男性は未婚が79.7%と既婚（59.5%）を上回っている。

年代別でみると、男女とも年齢が低い層で『賛成』の割合が高い。女性の70代以上や男性の60代以上では『賛成』が『反対』を上回っているというものの5割台と他の年代に比べると低く、離婚には慎重な人がある。

図表 3-30 結婚しても夫婦間の愛情や信頼がなくなれば、離婚するのもやむを得ない

[全体、既未婚別、年代別]

									(%)	
		標本数	そう思う	えど ばち そら うか 思と うい	な い ば ち そ ら う か 思 と わ い	そう 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答	『賛成』	『反対』
全 体		912 100.0	320 35.1	314 34.4	80 8.8	102 11.2	78 8.6	18 2.0	634 69.5	182 20.0
既 未 婚 別	女性:既婚	362	37.3	36.7	9.7	8.3	6.9	1.1	74.0	18.0
	女性:未婚	74	40.5	28.4	8.1	5.4	12.2	5.4	68.9	13.5
	女性:離・死別	77	45.5	31.2	2.6	5.2	10.4	5.2	76.7	7.8
	男性:既婚	274	24.5	35.0	9.9	20.1	8.8	1.8	59.5	30.0
	男性:未婚	59	42.4	37.3	-	5.1	15.3	-	79.7	5.1
	男性:離・死別	32	56.3	21.9	9.4	6.3	3.1	3.1	78.2	15.7
	無回答	34	29.4	32.4	20.6	11.8	5.9	-	61.8	32.4
年 代 別	女性:20代	56	35.7	37.5	8.9	7.1	10.7	-	73.2	16.0
	女性:30代	88	45.5	35.2	5.7	3.4	9.1	1.1	80.7	9.1
	女性:40代	91	45.1	29.7	8.8	4.4	9.9	2.2	74.8	13.2
	女性:50代	101	38.6	41.6	10.9	4.0	4.0	1.0	80.2	14.9
	女性:60代	111	35.1	41.4	7.2	8.1	7.2	0.9	76.5	15.3
	女性:70代以上	71	32.4	23.9	8.5	18.3	7.0	9.9	56.3	26.8
	男性:20代	24	45.8	33.3	-	4.2	16.7	-	79.1	4.2
	男性:30代	46	39.1	37.0	2.2	8.7	13.0	-	76.1	10.9
	男性:40代	54	37.0	35.2	9.3	9.3	9.3	-	72.2	18.6
	男性:50代	78	32.1	33.3	9.0	15.4	6.4	3.8	65.4	24.4
	男性:60代	102	23.5	35.3	11.8	21.6	5.9	2.0	58.8	33.4
	男性:70代以上	70	22.9	27.1	12.9	24.3	11.4	1.4	50.0	37.2
	無回答	20	20.0	25.0	15.0	20.0	20.0	-	45.0	35.0

3. 子どものしつけや教育についての考え方

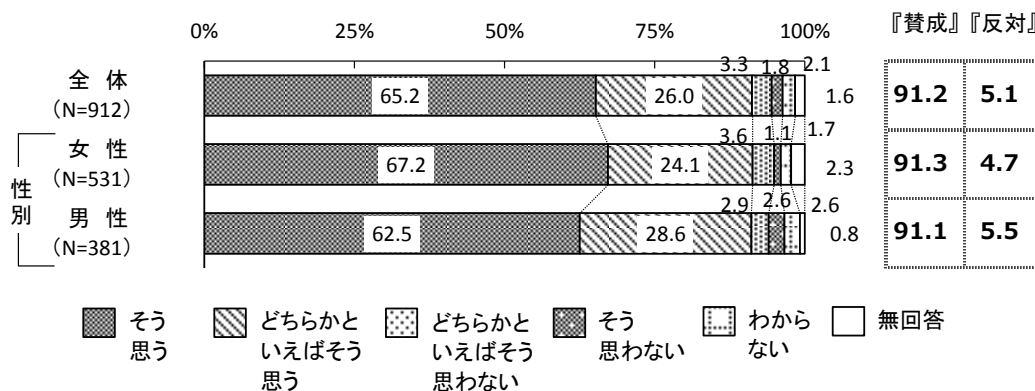
- 「女の子の経済的自立と男の子の生活技術の取得」については『賛成』は約9割であるが、そのうち積極的な賛成は共働きの女性で高い。
- 「女の子らしく、男の子らしく育てる」ことに『賛成』は約6割、『反対』は3割半ば。年齢の低い層の男女、乳幼児や未就学児がいる女性で『反対』の割合が4割台から5割台と高い。

問8 あなたは、現在の子どものしつけや教育について、どのような考え方をお持ちですか。次の①～③までのそれぞれの質問について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

①女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

図表3-31 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

[全体、性別]



「女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」という考え方について「そう思う」が65.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が26.0%で、これらを合わせた『賛成』は91.2%と高率である。

性別でみると、男女とも『賛成』が9割超と同程度あるが、女性は積極的な賛成である「そう思う」が67.2%と男性よりも4.7ポイント高い。

配偶関係別でみると、女性で配偶者・パートナーがいる共働きの『賛成』は95.6%で、共働きでない（91.0%）人よりも4.6ポイント高くなっている。また、配偶者がいない未婚者では『賛成』が77.0%と最も低く、配偶関係の違いによって考え方の違いが出ている。他方、男性の『賛成』は共働き（92.1%）と共働きでない（90.3%）では大差はみられず、未婚者で94.9%と最も高くなっている。未婚者では性別による違いが大きい。

同居家族別でみると、女性で乳幼児や未就学児、小・中学生、高校生など同居している場合ほとんどが『賛成』と回答しているが、男性では小・中学生で97.5%であるが、その他では約9割とやや低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人ほど積極的な賛成の割合が高くなっている。

図表3-32 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ
 [全体、配偶関係別、同居家族別、性別役割分担意識別]

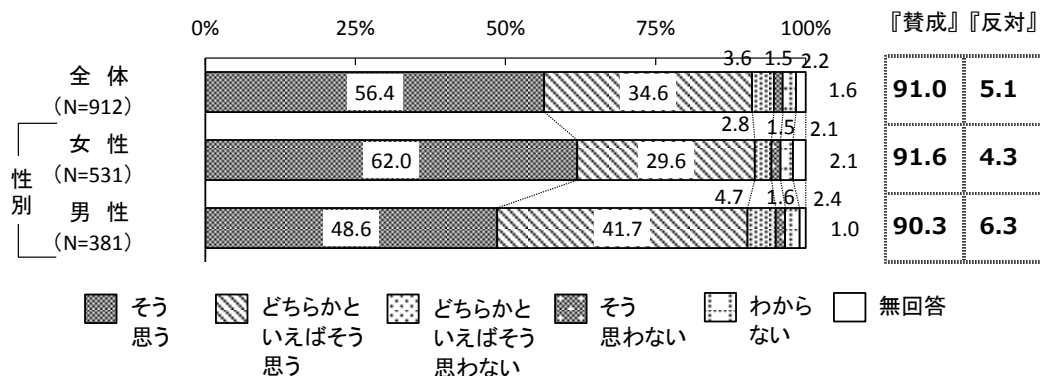
(%)

	標 本 数	そ う 思 う	思 い ど え ち ば ら そ う と	思 い ど え ち ば ら そ う と	い そ う 思 わ な	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 』	『 反 対 』
全 体	912 100.0	595 65.2	237 26.0	30 3.3	16 1.8	19 2.1	15 1.6	832 91.2	46 5.1
配 偶 関 係 別	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	207	73.9	21.7	1.4	1.4	0.5	95.6	2.8
	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	155	65.2	25.8	5.2	1.3	1.3	91.0	6.5
	女性:配偶者はいない(未婚/非婚)	74	48.6	28.4	9.5	1.4	5.4	77.0	10.9
	女性:配偶者と離別した	38	76.3	18.4	2.6	-	2.6	94.7	2.6
	女性:配偶者と死別した	39	59.0	30.8	-	-	10.3	89.8	-
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	140	66.4	25.7	2.9	1.4	1.4	92.1	4.3
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	134	59.0	31.3	3.7	4.5	0.7	90.3	8.2
	男性:配偶者はいない(未婚/非婚)	59	62.7	32.2	-	-	5.1	94.9	-
	男性:配偶者と離別した	23	60.9	21.7	8.7	4.3	-	82.6	13.0
	男性:配偶者と死別した	9	77.8	22.2	-	-	-	100.0	-
	無回答	34	67.6	23.5	-	2.9	5.9	91.1	2.9
同 居 家 族 別	女性:乳幼児	38	71.1	26.3	2.6	-	-	97.4	2.6
	女性:未就学児	40	82.5	17.5	-	-	-	100.0	-
	女性:小・中学生	97	78.4	20.6	-	-	1.0	99.0	-
	女性:高校生	52	69.2	28.8	1.9	-	-	98.0	1.9
	女性:専門学校生	11	72.7	18.2	-	9.1	-	90.9	9.1
	女性:大学・短大生	19	78.9	10.5	-	10.5	-	89.4	10.5
	女性:上記以外の人	530	67.2	24.2	3.6	1.1	2.3	91.4	4.7
	男性:乳幼児	22	63.6	27.3	4.5	4.5	-	90.9	9.0
	男性:未就学児	28	64.3	28.6	3.6	-	3.6	92.9	3.6
	男性:小・中学生	40	67.5	30.0	2.5	-	-	97.5	2.5
	男性:高校生	25	76.0	16.0	4.0	4.0	-	92.0	8.0
	男性:専門学校生	8	62.5	37.5	-	-	-	100.0	-
	男性:大学・短大生	14	57.1	28.6	7.1	7.1	-	85.7	14.2
	男性:上記以外の人	379	62.5	28.5	2.9	2.6	0.8	91.0	5.5
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:そう思う	13	61.5	7.7	23.1	7.7	-	69.2	30.8
	女性:どちらかといえばそう思う	196	58.7	33.7	4.1	1.0	1.0	92.4	5.1
	女性:どちらかといえばそう思わない	145	66.2	24.8	4.1	0.7	1.4	91.0	4.8
	女性:そう思わない	174	77.6	14.4	1.1	1.1	2.3	92.0	2.2
	男性:そう思う	19	42.1	31.6	10.5	10.5	-	73.7	21.0
	男性:どちらかといえばそう思う	132	50.8	37.1	6.8	1.5	3.0	87.9	8.3
	男性:どちらかといえばそう思わない	85	65.9	29.4	-	2.4	2.4	95.3	2.4
	男性:そう思わない	139	74.1	19.4	-	2.9	2.9	93.5	2.9
	無回答	9	77.8	22.2	-	-	-	100.0	-

②男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

図表3-33 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

[全体、性別]



「男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」という考え方について「そう思う」が56.4%と、「どちらかといえばそう思う」が34.6%で、『賛成』は91.0%である。『賛成』の割合は女の子の経済的自立と同程度の割合となっているが、そのうちの積極的な賛成である「そう思う」は56.4%で8.8ポイント低くなっている。

性別でみると、男女とも『賛成』が9割超と同程度あるが、女性は積極的な賛成である「そう思う」が62.0%に対し、男性は48.6%と13.4ポイント低くなっている。

配偶関係別でみると、男女とも『賛成』の割合が共働きの方が共働きでないよりも高くなっている。特に女性の共働きでは積極的な賛成が70.5%と男性（50.0%）よりも20.5ポイント高くなっている。また未婚者では男女とも『賛成』が約9割であるが、そのうち積極的な賛成は男性が59.3%、女性が48.6%と男性の方が10.7ポイント高くなっている。

同居家族別でみると、女性で乳幼児や未就学児、小・中学生、高校生など同居している場合ほとんどが『賛成』と回答し、積極的な賛成も約7割から8割と高率である。対して男性では積極的な賛成は約5割から6割と女性に比べ2割ほど低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人ほど積極的な賛成の割合が高くなっている。

図表 3-34 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

[全体、配偶関係別、同居家族別、性別役割分担意識別]

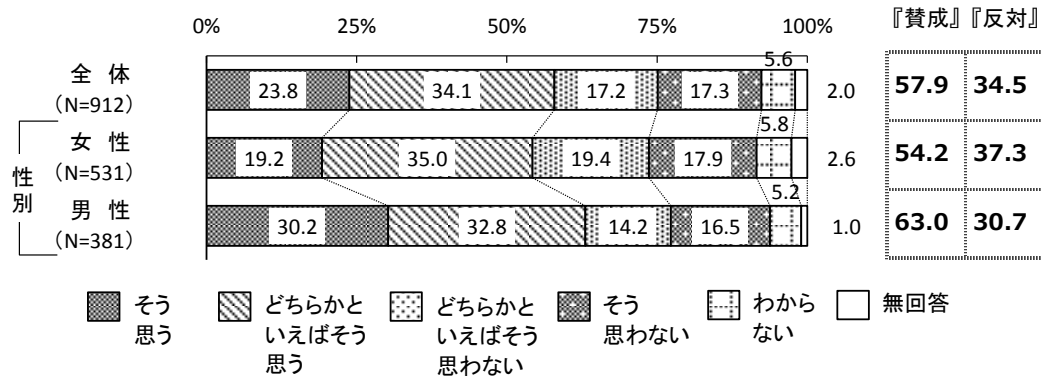
(%)

		標 本 数	そ う 思 う	思 い ど う え ち ら か と	思 い ど わ え ち ら か と	い そ う 思 わ な	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 』	『 反 対 』
全 体		912 100.0	514 56.4	316 34.6	33 3.6	14 1.5	20 2.2	15 1.6	830 91.0	47 5.1
配 偶 関 係 別	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	207	70.5	24.2	1.4	1.9	1.4	0.5	94.7	3.3
	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	155	57.4	29.7	5.8	1.9	2.6	2.6	87.1	7.7
	女性:配偶者はいない(未婚/非婚)	74	48.6	41.9	1.4	1.4	4.1	2.7	90.5	2.8
	女性:配偶者と離別した	38	76.3	21.1	-	-	-	2.6	97.4	-
	女性:配偶者と死別した	39	46.2	38.5	5.1	-	2.6	7.7	84.7	5.1
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	140	50.0	42.9	3.6	-	0.7	2.9	92.9	3.6
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	134	42.5	45.5	5.2	4.5	2.2	-	88.0	9.7
	男性:配偶者はいない(未婚/非婚)	59	59.3	32.2	3.4	-	5.1	-	91.5	3.4
	男性:配偶者と離別した	23	43.5	39.1	17.4	-	-	-	82.6	17.4
	男性:配偶者と死別した	9	66.7	33.3	-	-	-	-	100.0	-
	無回答	34	52.9	41.2	-	-	5.9	-	94.1	-
同 居 家 族 別	女性:乳幼児	38	71.1	26.3	2.6	-	-	-	97.4	2.6
	女性:未就学児	40	82.5	15.0	-	2.5	-	-	97.5	2.5
	女性:小・中学生	97	79.4	18.6	-	1.0	-	1.0	98.0	1.0
	女性:高校生	52	76.9	21.2	-	1.9	-	-	98.1	1.9
	女性:専門学校生	11	54.5	18.2	9.1	9.1	9.1	-	72.7	18.2
	女性:大学・短大生	19	57.9	31.6	-	10.5	-	-	89.5	10.5
	女性:上記以外の人	530	62.1	29.4	2.8	1.5	2.1	2.1	91.5	4.3
	男性:乳幼児	22	59.1	40.9	-	-	-	-	100.0	-
	男性:未就学児	28	50.0	39.3	7.1	-	3.6	-	89.3	7.1
	男性:小・中学生	40	50.0	42.5	5.0	-	2.5	-	92.5	5.0
	男性:高校生	25	72.0	24.0	4.0	-	-	-	96.0	4.0
	男性:専門学校生	8	50.0	50.0	-	-	-	-	100.0	-
	男性:大学・短大生	14	42.9	50.0	7.1	-	-	-	92.9	7.1
	男性:上記以外の人	379	48.8	41.4	4.7	1.6	2.4	1.1	90.2	6.3
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:そう思う	13	46.2	23.1	15.4	7.7	-	7.7	69.3	23.1
	女性:どちらかといえばそう思う	196	51.5	39.3	4.6	1.5	1.5	1.5	90.8	6.1
	女性:どちらかといえばそう思わない	145	62.8	29.7	1.4	1.4	2.1	2.8	92.5	2.8
	女性:そう思わない	174	74.7	19.0	1.1	0.6	2.9	1.7	93.7	1.7
	男性:そう思う	19	26.3	36.8	26.3	-	10.5	-	63.1	26.3
	男性:どちらかといえばそう思う	132	39.4	48.5	6.8	2.3	2.3	0.8	87.9	9.1
	男性:どちらかといえばそう思わない	85	45.9	45.9	3.5	2.4	1.2	1.2	91.8	5.9
	男性:そう思わない	139	62.6	32.4	0.7	0.7	2.2	1.4	95.0	1.4
	無回答	9	33.3	55.6	-	11.1	-	-	88.9	11.1

③女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方が良い

図表3-35 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方が良い

[全体、性別]



「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方が良い」という考え方について、『賛成』が57.9%でその内やや消極的な賛成の「どちらかといえばそう思う」が34.1%と最も高くなっている。『反対』は34.5%である。

性別でみると、『賛成』は女性が54.2%、男性が63.0%で男性の方が8.8ポイント高く、また積極的な賛成も男性は30.2%と女性よりも11ポイント高くなっている。

同居家族別でみると、同居家族に乳幼児、未就学児がいる女性では『反対』が5割を超え、『賛成』の割合を上回っているが、男性は『賛成』の割合が約6割から7割半ばと『反対』を大きく上回っている。また、小・中学生、高校生が同居家族にいる女性では『反対』が4割台であるのに対し、男性は3割台と1割ほど低くなっている。

年代別でみると、男女とも年代が低い層で『反対』の割合が高い傾向にあるが、20代でも『反対』の割合は5割には達していない。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人ほど積極的な反対の割合は高くなっている。

図表3-36 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい

[全体、同居家族別、年代別、性別役割分担意識別]

(%)

		標 本 数	そ う 思 う	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	い そ う 思 わ な	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 』	『 反 対 』
全 体		912 100.0	217 23.8	311 34.1	157 17.2	158 17.3	51 5.6	18 2.0	528 57.9	315 34.5
同居 家 族 別	女性:乳幼児	38	13.2	31.6	26.3	23.7	5.3	-	44.8	50.0
	女性:未就学児	40	12.5	22.5	22.5	35.0	7.5	-	35.0	57.5
	女性:小・中学生	97	20.6	32.0	21.6	19.6	5.2	1.0	52.6	41.2
	女性:高校生	52	13.5	42.3	23.1	21.2	-	-	55.8	44.3
	女性:専門学校生	11	27.3	54.5	9.1	9.1	-	-	81.8	18.2
	女性:大学・短大生	19	31.6	36.8	10.5	15.8	5.3	-	68.4	26.3
	女性:上記以外の人	530	19.1	35.1	19.4	17.9	5.8	2.6	54.2	37.3
	男性:乳幼児	22	31.8	31.8	13.6	18.2	4.5	-	63.6	31.8
	男性:未就学児	28	39.3	35.7	14.3	10.7	-	-	75.0	25.0
	男性:小・中学生	40	22.5	40.0	17.5	17.5	2.5	-	62.5	35.0
	男性:高校生	25	28.0	40.0	8.0	24.0	-	-	68.0	32.0
	男性:専門学校生	8	25.0	62.5	-	12.5	-	-	87.5	12.5
	男性:大学・短大生	14	21.4	14.3	14.3	50.0	-	-	35.7	64.3
	男性:上記以外の人	379	30.1	32.7	14.2	16.6	5.3	1.1	62.8	30.8
年 代 別	女性:20代	56	12.5	37.5	23.2	25.0	1.8	-	50.0	48.2
	女性:30代	88	17.0	28.4	27.3	18.2	8.0	1.1	45.4	45.5
	女性:40代	91	15.4	35.2	18.7	17.6	11.0	2.2	50.6	36.3
	女性:50代	101	14.9	40.6	19.8	16.8	6.9	1.0	55.5	36.6
	女性:60代	111	20.7	38.7	18.9	16.2	4.5	0.9	59.4	35.1
	女性:70代以上	71	31.0	29.6	9.9	15.5	1.4	12.7	60.6	25.4
	男性:20代	24	16.7	37.5	12.5	33.3	-	-	54.2	45.8
	男性:30代	46	26.1	30.4	15.2	15.2	13.0	-	56.5	30.4
	男性:40代	54	25.9	42.6	14.8	13.0	3.7	-	68.5	27.8
	男性:50代	78	23.1	33.3	16.7	23.1	1.3	2.6	56.4	39.8
	男性:60代	102	30.4	33.3	14.7	14.7	4.9	2.0	63.7	29.4
	男性:70代以上	70	44.3	27.1	11.4	10.0	7.1	-	71.4	21.4
	無回答	20	55.0	15.0	5.0	20.0	5.0	-	70.0	25.0
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:そう思う	13	69.2	15.4	-	7.7	-	7.7	84.6	7.7
	女性:どちらかといえばそう思う	196	22.4	47.4	14.3	8.2	6.1	1.5	69.8	22.5
	女性:どちらかといえばそう思わない	145	17.2	31.7	26.2	15.9	6.2	2.8	48.9	42.1
	女性:そう思わない	174	13.2	25.3	20.7	31.6	5.7	3.4	38.5	52.3
	男性:そう思う	19	57.9	31.6	-	5.3	5.3	-	89.5	5.3
	男性:どちらかといえばそう思う	132	31.1	42.4	10.6	10.6	4.5	0.8	73.5	21.2
	男性:どちらかといえばそう思わない	85	22.4	30.6	27.1	14.1	4.7	1.2	53.0	41.2
	男性:そう思わない	139	30.9	23.7	11.5	25.9	6.5	1.4	54.6	37.4
無回答		9	22.2	55.6	22.2	-	-	-	77.8	22.2

第4章 地域活動について

1. 現在参加している地域活動
2. 地域活動での役割分担
3. 地域活動について

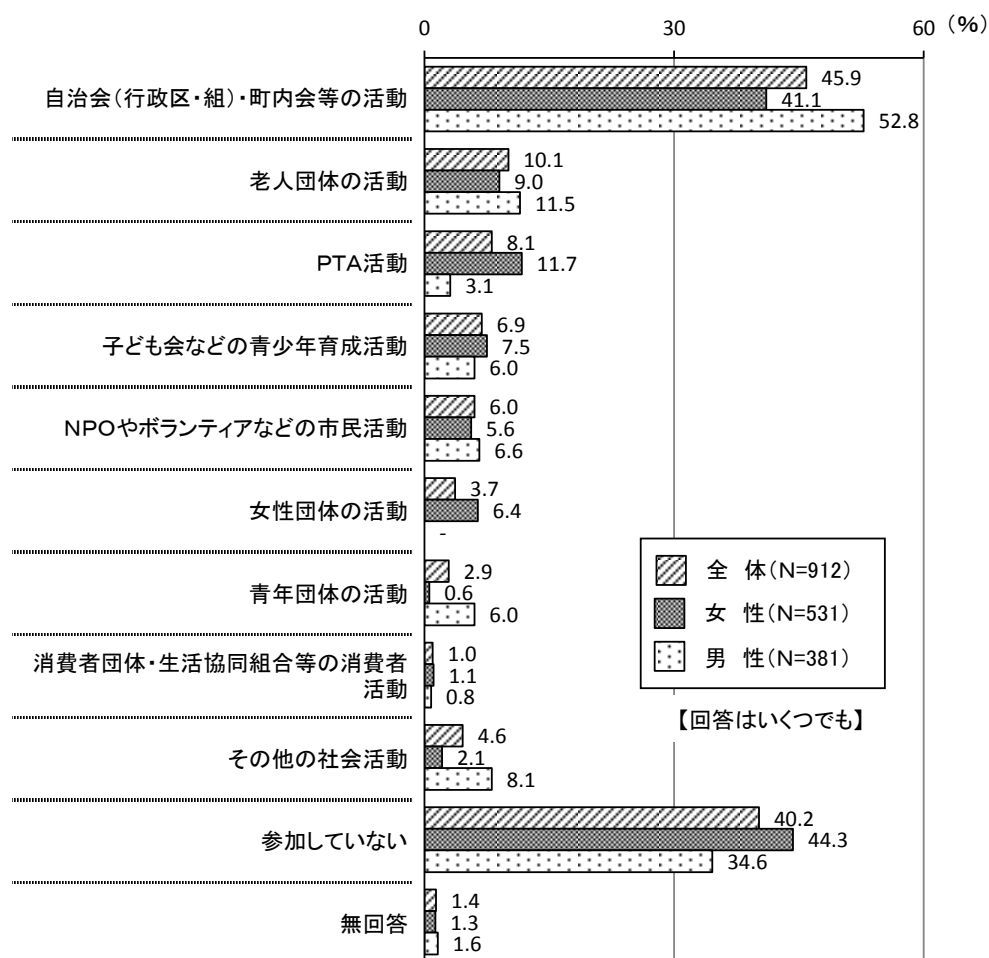
第4章 地域活動について

1. 現在参加している地域活動

- 現在参加している地域活動で最も多いのは「自治会・町内会等の活動」。
- 何らかの地域活動に参加している人は約6割で、男女とも50代の参加が多い。

問9 あなたは、現在どのような地域活動に参加されていますか。(〇はいくつでも)

図表4-1 現在参加している地域活動〔全体、性別〕



現在参加している地域活動は、「自治会（行政区・組）・町内会等の活動」が45.9%と最も高い。次いで「老人団体の活動」が10.1%、「PTA活動」が8.1%、「子ども会などの青少年育成活動」が6.9%などとなっている。「参加していない」は40.2%で何らかの地域活動に参加している人は58.4%となっている。

性別でみると、男性は「自治会（行政区・組）・町内会等の活動」が52.8%と女性（41.1%）を11.7ポイント上回っている。女性は「PTA活動」（11.7%）、「女性団体の活動」（6.4%）が男性よりも参加している割合が高い。「参加していない」は女性が44.3%で男性の34.6%を9.7ポイント上回っており、地域活動への参加は男性の方が多くなっている。

年代別でみると、男女とも 20 代では「参加していない」が 9 割近くと高率で、30 代でも約 5 割が参加していない。参加している人が多いのは男女とも 50 代で何らかの活動に参加している人は女性で 67.3%、男性で 78.2%となっている。「自治会（行政区・組）・町内会等の活動」は女性の 50 代（60.4%）と男性の 50 代（66.7%）、60 代（65.7%）で 6 割を超えて高い。「老人団体の活動」は男女とも 70 代以上で 3 割から 4 割半ば、「PTA 活動」と「子ども会などの青少年育成活動」は女性の 30 代と 40 代での割合が他の年代より高くなっている。

図表 4－2 現在参加している地域活動〔全体、年代別別〕

(%)													
		標 本 数	自治会（行政区・町内会等の活動	P T A 活動	子ども会などの青少年育成活動	青年団体の活動	女性団体の活動	老人団体の活動	消費者団体・生活協同組合等の消費者活動	NPOやボランティアなどの市民活動	その他の社会活動	参加していない	無回答
全 体		912 100.0	419 45.9	74 8.1	63 6.9	26 2.9	34 3.7	92 10.1	9 1.0	55 6.0	42 4.6	367 40.2	13 1.4
年 代 別	女性:20代	56	5.4	3.6	－	1.8	3.6	－	－	1.8	－	87.5	－
	女性:30代	88	31.8	22.7	20.5	1.1	1.1	－	－	2.3	2.3	50.0	1.1
	女性:40代	91	41.8	35.2	18.7	－	2.2	－	1.1	7.7	2.2	39.6	1.1
	女性:50代	101	60.4	6.9	2.0	1.0	6.9	－	2.0	8.9	1.0	31.7	1.0
	女性:60代	111	45.9	－	0.9	－	10.8	12.6	1.8	5.4	4.5	39.6	1.8
	女性:70代以上	71	45.1	－	1.4	－	12.7	45.1	1.4	7.0	1.4	35.2	1.4
	男性:20代	24	8.3	－	－	－	－	－	－	4.2	－	87.5	－
	男性:30代	46	28.3	4.3	6.5	8.7	－	－	－	8.7	8.7	54.3	2.2
	男性:40代	54	46.3	7.4	11.1	7.4	－	－	1.9	3.7	7.4	42.6	－
	男性:50代	78	66.7	5.1	6.4	10.3	－	1.3	1.3	6.4	7.7	21.8	－
	男性:60代	102	65.7	1.0	4.9	6.9	－	19.6	1.0	9.8	12.7	19.6	3.9
	男性:70代以上	70	52.9	1.4	4.3	－	－	30.0	－	4.3	2.9	34.3	1.4
無回答		20	50.0	5.0	10.0	－	5.0	20.0	－	－	10.0	35.0	5.0

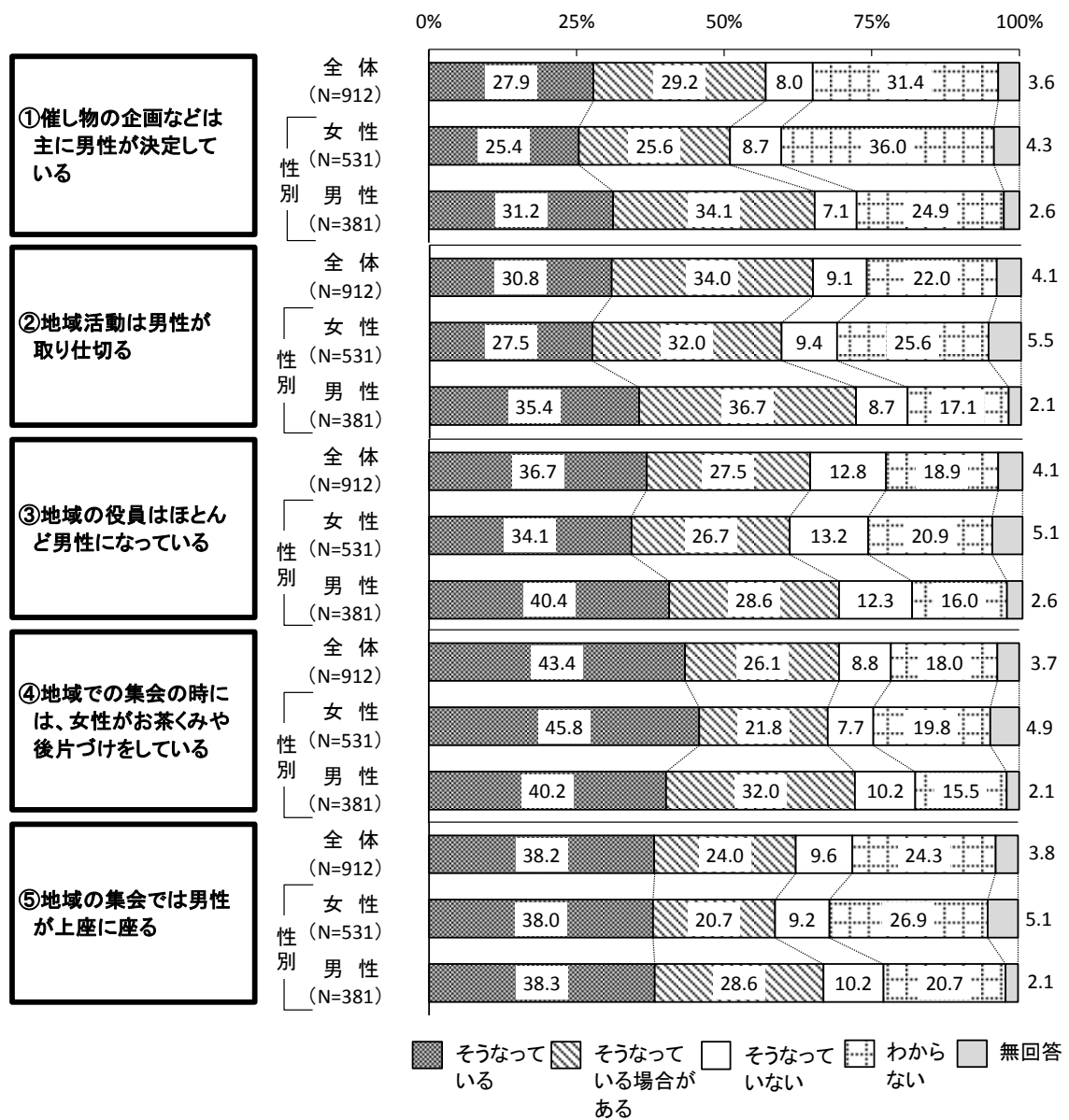
2. 地域活動での役割分担

(1) 現状

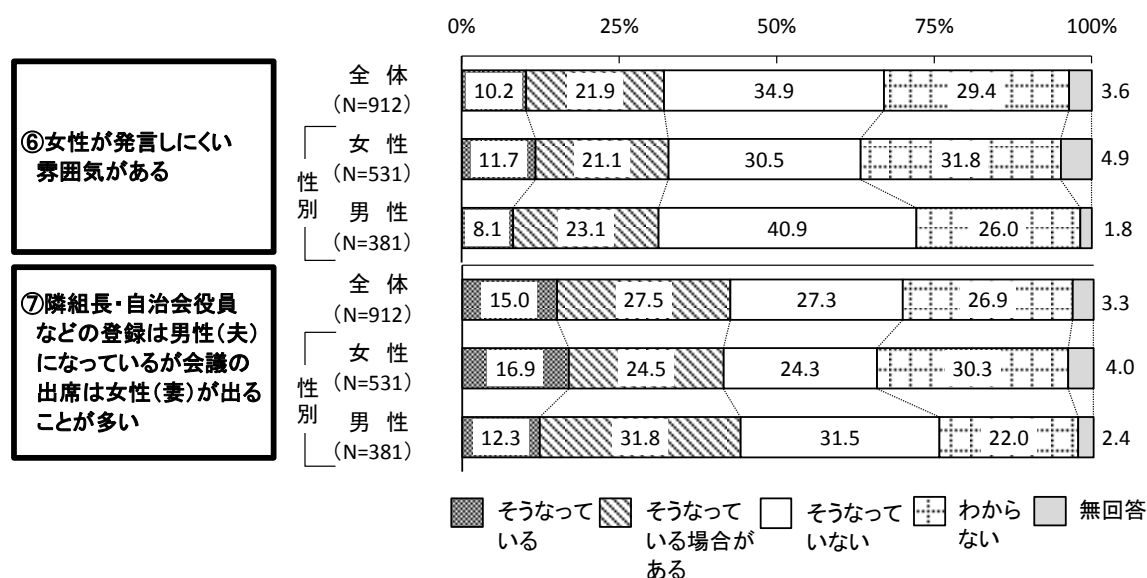
●地域活動で「女性がお茶くみや後片付けをしている」「男性が上座に座る」が「そうになっている」が4割前後と高い。

問 10 地域活動での役割分担についておたずねします。次の①～⑦の項目について、
(A) あなたのお住まいの地域の現状はどうだと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

図表 4-3 (1) 地域活動での役割分担 [全体、性別]



図表 4-3 (2) 地域活動での役割分担 [全体、性別]



地域活動での男女の役割分担の現状をみると、「そうなのている」が最も多いのは「地域での集会の時には、女性がお茶くみや後片づけをしている」で43.4%、次いで「地域の集会では男性が上座に座る」が38.2%で、以下「地域の役員はほとんど男性になっている」36.7%、「地域の活動は男性が取り仕切る」30.8%、「催し物の企画などは主に男性が決定している」27.9%となっている。

「地域の活動は男性が取り仕切る」と「催し物の企画などは主に男性が決定している」は「そうなのている場合がある」も約3割から3割半ばと比較的高く、活動や企画などの内容によっては男性中心となっているようだ。「女性が発言しにくい雰囲気がある」や「隣組長・自治会役員などの登録は男性(夫)になっているが会議の出席は女性(妻)が出ることが多い」などは「そうなのていない」の割合が約3割から3割半ばと他に比べると比較的高くなっている。地域活動への参加が全体の約6割であることからすべての現状において「わからない」が約2割から3割を占めている。

性別でみると、「地域での集会の時には、女性がお茶くみや後片づけをしている」「女性が発言しにくい雰囲気がある」「隣組長・自治会役員などの登録は男性(夫)になっているが会議の出席は女性(妻)が出ることが多い」などは女性の「そうなのている」の割合が男性より高い。他方、「催し物の企画などは主に男性が決定している」「地域の役員はほとんど男性になっている」「地域の活動は男性が取り仕切る」などは男性の「そうなのている」が女性よりも高い。またすべての現状において、男性の「そうなのている場合がある」の割合が女性よりも高く、地域活動への参加が女性よりも多い男性において、そういう場面に直面する機会が多いのかもしれない。

居住地区別でみると、「地域の役員はほとんど男性になっている」で「そうなのている」が合岩小学校区で54.8%、三毛門小学校区や角田小学校区、山田小学校区でも4割台と高い。「地域での集会の時には、女性がお茶くみや後片づけをしている」では黒土小学校区で53.3%、千束小学校区で52.1%と5割を超え、「地域の集会では男性が上座に座る」では合岩小学校区で48.4%、千束小学校区で47.0%と5割近くと高くなっている。また、すべての現状において大村小学校区では「そうなのている場合がある」の割合が3割台から6割台と他の小学校区に比べて高くなっている。

図表4-4 地域活動での役割分担〔全体、居住地区別〕

(%)

		標 本 数	①催し物の企画などは主に男性が 決定している					②地域活動は男性が取り仕切る					③地域の役員はほとんど男性に なっている				
			そ う な っ て い る	場 合 が あ っ て い る	い そ う な っ て い な い	わ か ら な い	無 回 答	そ う な っ て い る	場 合 が あ っ て い る	い そ う な っ て い な い	わ か ら な い	無 回 答	そ う な っ て い る	場 合 が あ っ て い る	い そ う な っ て い な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		912 100.0	254 27.9	266 29.2	73 8.0	286 31.4	33 3.6	281 30.8	310 34.0	83 9.1	201 22.0	37 4.1	335 36.7	251 27.5	117 12.8	172 18.9	37 4.1
居 住 地 区 別	角田小学校区	73	34.2	24.7	11.0	26.0	4.1	37.0	32.9	4.1	16.4	9.6	43.8	20.5	17.8	13.7	4.1
	山田小学校区	73	26.0	27.4	6.8	35.6	4.1	34.2	32.9	11.0	17.8	4.1	42.5	26.0	15.1	12.3	4.1
	大村小学校区	22	22.7	36.4	9.1	31.8	-	18.2	63.6	4.5	13.6	-	13.6	50.0	9.1	27.3	-
	八屋小学校区	132	32.6	26.5	6.1	31.1	3.8	30.3	32.6	9.8	24.2	3.0	34.8	25.0	12.9	23.5	3.8
	宇島小学校区	113	17.7	18.6	17.7	44.2	1.8	20.4	27.4	12.4	35.4	4.4	28.3	24.8	13.3	29.2	4.4
	千束小学校区	117	23.9	34.2	4.3	32.5	5.1	35.0	30.8	10.3	19.7	4.3	31.6	34.2	10.3	17.9	6.0
	黒土小学校区	92	30.4	31.5	6.5	30.4	1.1	32.6	35.9	4.3	25.0	2.2	31.5	32.6	14.1	20.7	1.1
	三毛門小学校区	132	27.3	34.8	6.1	29.5	2.3	28.8	40.2	8.3	20.5	2.3	45.5	23.5	8.3	20.5	2.3
	横武小学校区	62	30.6	37.1	6.5	22.6	3.2	27.4	37.1	12.9	14.5	8.1	30.6	35.5	17.7	9.7	6.5
	合岩小学校区	62	30.6	32.3	4.8	22.6	9.7	37.1	38.7	4.8	14.5	4.8	54.8	22.6	6.5	8.1	8.1
無回答	34	35.3	17.6	11.8	29.4	5.9	38.2	14.7	17.6	29.4	-	35.3	23.5	23.5	14.7	2.9	
		標 本 数	④地域での集会の時には、女性が お茶くみや後片づけをしている					⑤地域の集会では男性が上座に 座る					⑥女性が発言しにくい雰囲気がある				
			そ う な っ て い る	場 合 が あ っ て い る	い そ う な っ て い な い	わ か ら な い	無 回 答	そ う な っ て い る	場 合 が あ っ て い る	い そ う な っ て い な い	わ か ら な い	無 回 答	そ う な っ て い る	場 合 が あ っ て い る	い そ う な っ て い な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		912 100.0	396 43.4	238 26.1	80 8.8	164 18.0	34 3.7	348 38.2	219 24.0	88 9.6	222 24.3	35 3.8	93 10.2	200 21.9	318 34.9	268 29.4	33 3.6
居 住 地 区 別	角田小学校区	73	46.6	24.7	9.6	15.1	4.1	41.1	17.8	12.3	24.7	4.1	9.6	17.8	41.1	27.4	4.1
	山田小学校区	73	47.9	24.7	8.2	13.7	5.5	39.7	19.2	11.0	26.0	4.1	15.1	23.3	32.9	24.7	4.1
	大村小学校区	22	40.9	40.9	4.5	13.6	-	18.2	54.5	13.6	13.6	-	-	31.8	18.2	50.0	-
	八屋小学校区	132	36.4	28.8	11.4	19.7	3.8	31.1	22.0	15.9	27.3	3.8	8.3	20.5	37.9	29.5	3.8
	宇島小学校区	113	38.1	21.2	9.7	27.4	3.5	25.7	19.5	10.6	38.9	5.3	10.6	16.8	28.3	40.7	3.5
	千束小学校区	117	52.1	21.4	6.0	17.1	3.4	47.0	22.2	5.1	21.4	4.3	14.5	18.8	35.9	25.6	5.1
	黒土小学校区	92	53.3	18.5	8.7	15.2	4.3	41.3	29.3	9.8	18.5	1.1	10.9	21.7	42.4	23.9	1.1
	三毛門小学校区	132	44.7	25.0	6.1	22.7	1.5	38.6	28.0	3.8	26.5	3.0	9.1	25.8	31.8	31.1	2.3
	横武小学校区	62	30.6	41.9	12.9	8.1	6.5	38.7	33.9	9.7	12.9	4.8	6.5	22.6	45.2	21.0	4.8
	合岩小学校区	62	41.9	30.6	11.3	9.7	6.5	48.4	21.0	8.1	16.1	6.5	11.3	30.6	22.6	29.0	6.5
無回答	34	38.2	32.4	5.9	23.5	-	50.0	14.7	11.8	20.6	2.9	5.9	23.5	38.2	29.4	2.9	
		標 本 数	⑦隣組長・自治会役員などの登録は 男性(夫)になっているが会議の出席 は女性(妻)が出ることが多い														
			そ う な っ て い る	場 合 が あ っ て い る	い そ う な っ て い な い	わ か ら な い	無 回 答										
全 体		912 100.0	137 15.0	251 27.5	249 27.3	245 26.9	30 3.3										
居 住 地 区 別	角田小学校区	73	24.7	28.8	26.0	17.8	2.7										
	山田小学校区	73	16.4	21.9	30.1	27.4	4.1										
	大村小学校区	22	13.6	40.9	18.2	27.3	-										
	八屋小学校区	132	12.1	28.8	28.8	26.5	3.8										
	宇島小学校区	113	20.4	23.0	15.0	38.1	3.5										
	千束小学校区	117	16.2	29.1	23.1	27.4	4.3										
	黒土小学校区	92	13.0	32.6	31.5	21.7	1.1										
	三毛門小学校区	132	12.1	28.0	24.2	33.3	2.3										
	横武小学校区	62	11.3	30.6	33.9	21.0	3.2										
	合岩小学校区	62	11.3	16.1	45.2	19.4	8.1										
無回答	34	11.8	32.4	35.3	20.6	-											

(2) 今後

●地域の活動で「女性が発言しにくい雰囲気がある」場合、「改善すべき」は7割半ば、「登録は男性(夫)、会議への出席は女性(妻)」の場合は約5割となっている。その他の役割分担では「そうになっている」場合、「改善すべき」は3割半ばから4割半ば、「現状のままでいい」も3割半ばから4割程度ある。

問 10 地域活動での役割分担についておたずねします。次の①～⑦の項目について、
(B) 今後はどうしたいですか。(〇はそれぞれ1つ)

図表 4-5 (1) 地域活動での役割分担・今後〔全体、現状別〕

(%)

		標 本 数	【今後】①催し物の企画などは 主に男性が決定している			
			ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答
全 体		912 100.0	301 33.0	218 23.9	289 31.7	104 11.4
【現状】①催し物の 企画などは主に男 性が決定している	そうになっている	254	39.8	39.8	11.0	9.4
	そうになっている場合がある	266	44.0	29.7	14.7	11.7
	そうになっていない	73	65.8	15.1	9.6	9.6
	わからない	286	11.5	9.4	74.1	4.9
	無回答	33	6.1	-	9.1	84.8

(%)

		標 本 数	【今後】②地域活動は男性が 取り仕切る			
			ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答
全 体		912 100.0	301 33.0	262 28.7	238 26.1	111 12.2
【現状】②地域活動 は男性が取り仕切る	そうになっている	281	35.9	42.0	11.7	10.3
	そうになっている場合がある	310	40.3	34.5	14.5	10.6
	そうになっていない	83	57.8	20.5	10.8	10.8
	わからない	201	11.9	9.5	73.6	5.0
	無回答	37	8.1	2.7	8.1	81.1

(%)

		標 本 数	【今後】③地域の役員は ほとんど男性になっている			
			ま現 で状 いの いま	き改 善 す べ	いわ から な	無 回 答
全 体		912 100.0	306 33.6	266 29.2	227 24.9	113 12.4
【現状】③地域の 役員はほとんど 男性になっている	そうになっている	335	34.0	41.8	13.7	10.4
	そうになっている場合がある	251	41.4	35.9	12.0	10.8
	そうになっていない	117	63.2	15.4	11.1	10.3
	わからない	172	7.0	9.9	78.5	4.7
	無回答	37	5.4	2.7	8.1	83.8

図表4-5 (2) 地域活動での役割分担・今後〔全体、現状別〕

		標 本 数	【今後】④地域での集会の時には、 女性がお茶くみや後片づけを している			
			ま 現 で 状 い の い ま	き 改 善 す べ	い わ か ら な	無 回 答
全 体		912 100.0	306 33.6	292 32.0	203 22.3	111 12.2
【現状】④地域での 集会の時には、 女性がお茶くみや 後片づけをしている	そうになっている	396	34.6	44.7	11.9	8.8
	そうになっている場合がある	238	38.7	37.4	10.9	13.0
	そうになっていない	80	73.8	8.8	7.5	10.0
	わからない	164	9.8	11.0	73.8	5.5
	無回答	34	5.9	2.9	8.8	82.4
(%)						
		標 本 数	【今後】⑤地域の集会では男性が 上座に座る			
			ま 現 で 状 い の い ま	き 改 善 す べ	い わ か ら な	無 回 答
全 体		912 100.0	319 35.0	212 23.2	269 29.5	112 12.3
【現状】⑤地域の 集会では男性が 上座に座る	そうになっている	348	40.8	34.2	14.4	10.6
	そうになっている場合がある	219	42.9	29.2	17.8	10.0
	そうになっていない	88	72.7	4.5	8.0	14.8
	わからない	222	8.6	10.8	76.1	4.5
	無回答	35	-	2.9	11.4	85.7
(%)						
		標 本 数	【今後】⑥女性が発言しにくい 雰囲気がある			
			ま 現 で 状 い の い ま	き 改 善 す べ	い わ か ら な	無 回 答
全 体		912 100.0	274 30.0	270 29.6	256 28.1	112 12.3
【現状】⑥女性が 発言しにくい 雰囲気がある	そうになっている	93	2.2	76.3	14.0	7.5
	そうになっている場合がある	200	8.5	71.0	8.5	12.0
	そうになっていない	318	73.9	7.5	5.7	12.9
	わからない	268	7.5	11.9	76.1	4.5
	無回答	33	-	3.0	12.1	84.8
(%)						
		標 本 数	【今後】⑦隣組長・自治会役員など の登録は男性（夫）になっている が会議の出席は女性（妻）が出る ことが多い			
			ま 現 で 状 い の い ま	き 改 善 す べ	い わ か ら な	無 回 答
全 体		912 100.0	297 32.6	220 24.1	286 31.4	109 12.0
【現状】⑦隣組長・自 治会役員などの登 録は男性(夫)に なっているが会議の 出席は女性(妻)が 出ることが多い	そうになっている	137	25.5	51.8	13.1	9.5
	そうになっている場合がある	251	30.7	40.2	13.9	15.1
	そうになっていない	249	65.1	10.0	14.9	10.0
	わからない	245	9.4	9.4	78.0	3.3
	無回答	30	-	-	16.7	83.3

では今後、地域活動の役割分担をどうしたいかを現状別にみると、「そうっていない」場合は「現状のままでいい」の割合がすべての現状において約6割から7割半ばと高率である。

一方、「そうになっている」場合、「改善すべき」の割合が最も高いのは「女性が発言しにくい雰囲気がある」で76.3%、これは「そうになっている場合がある」でも71.0%と高くなっている。次いで「隣組長・自治会役員などの登録は男性（夫）になっているが会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」であるが割合は51.8%と女性の発言に比べ24.5ポイントも低くなっている。

その他の現状においても「改善すべき」は「地域での集会の時には、女性がお茶くみや後片づけをしている」で44.7%（「現状のままでいい」34.6%）、「地域の活動は男性が取り仕切る」で42.0%（同35.9%）、「地域の役員はほとんど男性になっている」で41.8%（同34.0%）、「催し物の企画などは主に男性が決定している」で39.8%（同39.8%）、「地域の集会では男性が上座に座る」で34.2%（同40.8%）と3割半ばから4割半ばとあまり高くはなく、「現状のままでいい」が3割半ばから4割みられる。「催し物の企画などは主に男性が決定している」では「改善すべき」と「現状のままで」が同率、「地域の集会では男性が上座に座る」に至っては「現状のままでいい」が「改善すべき」を上回る結果となっている。

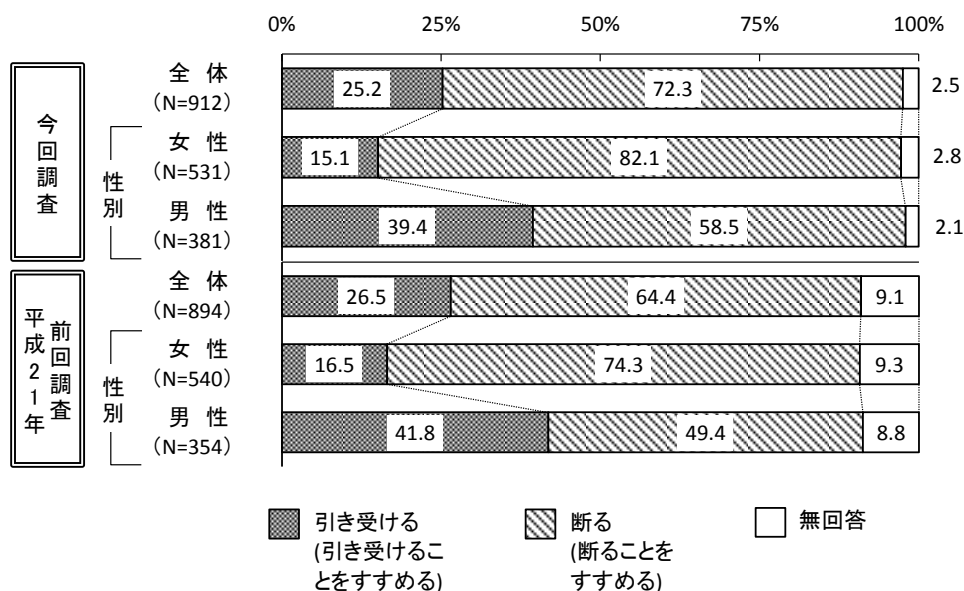
3. 地域活動について

(1) 地域の役職に女性が推薦された場合の対処

●地域の役職に推薦された場合、女性は「引き受ける」が約15%、男性は「引き受けることをすすめる」が約4割。女性が地域の役職につくことには女性の方が消極的である。

問 11 自治会長や区長、公民館長、PTA会長などの地域の役職について、おたずねします。回答者が女性の場合、もし、あなたが推薦されたら引き受けますか。回答者が男性の場合、妻などの身近な女性が推薦されたとしたら引き受けることをすすめますか。
(〇は1つ)

図表4-6 地域の役職に女性が推薦された場合の対処〔全体、性別〕（前回調査比較）



地域の役職に女性では自分が、男性では妻や身近な女性が推薦された場合に引き受けるかどうかについて、「引き受ける（引き受けることをすすめる）」は25.2%、「断る（断ることをすすめる）」は72.3%と地域の役職につくことには消極的な人が多い。

性別でみると、女性は「断る」が82.1%と圧倒的に多く、「引き受ける」は15.1%である。男性の「引き受けることをすすめる」は39.4%と女性の態度と比べると積極的ではあるが、それでも「断ることをすすめる」が58.5%と約6割は女性が地域の役職につくことには消極的である。

前回調査と比較すると、「引き受ける（引き受けることをすすめる）」は男女ともやや減少し、「断る（断ることをすすめる）」は、前回では「無回答」が約1割あるものの増えている。前回調査と比べると男女ともやや消極的になっている。

年代別でみると、女性の70代以上で「引き受ける」が21.1%と女性の中で唯一2割を超える。次いで女性の40代で17.6%となっており、その他の年代では「断る」が8割以上を占めている。男性では40代で「引き受けることをすすめる」が50.0%と最も高くなっている。

図表４－７ 地域の役職に女性が推薦された場合の対処〔全体、年代別〕

(%)

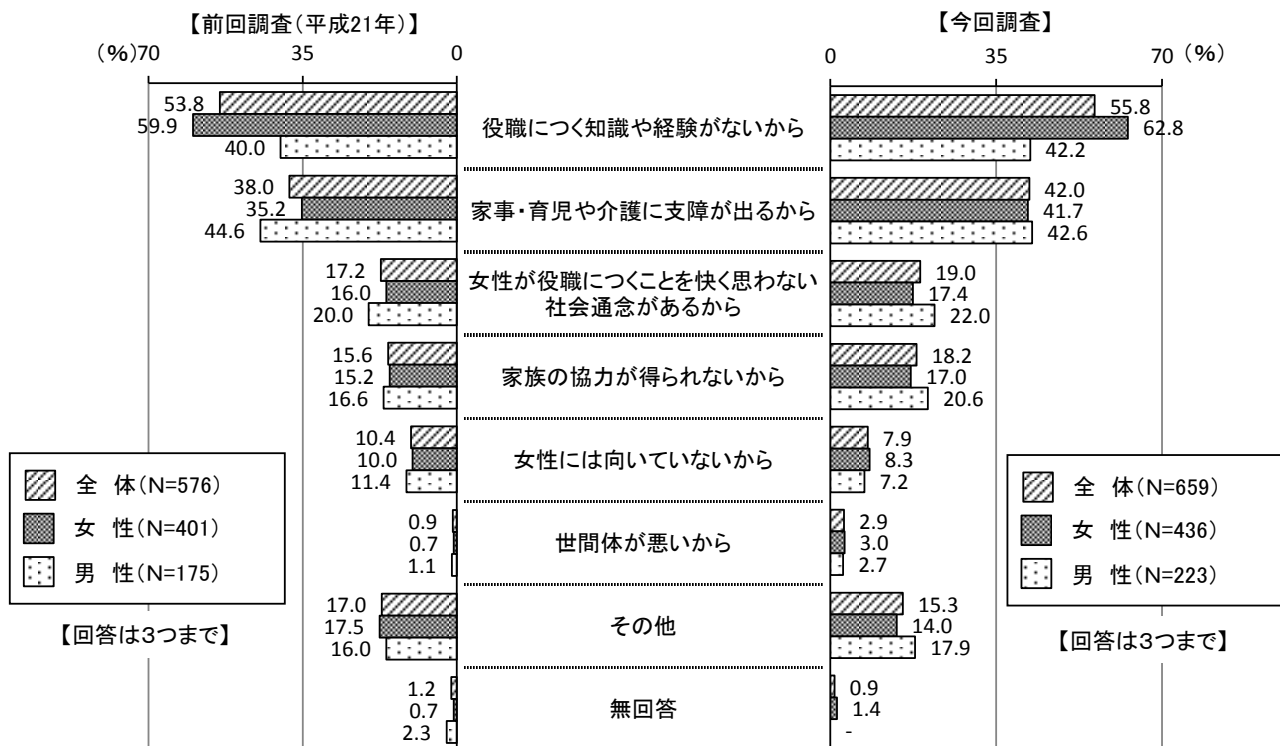
		標 本 数	する（引 めこ引き めるとき る）を受け すすける	めこ断 るとる（ ）を（断 すする	無 回 答
全 体		912 100.0	230 25.2	659 72.3	23 2.5
年 代 別	女性:20代	56	14.3	83.9	1.8
	女性:30代	88	15.9	83.0	1.1
	女性:40代	91	17.6	78.0	4.4
	女性:50代	101	11.9	87.1	1.0
	女性:60代	111	11.7	87.4	0.9
	女性:70代以上	71	21.1	69.0	9.9
	男性:20代	24	41.7	58.3	－
	男性:30代	46	28.3	69.6	2.2
	男性:40代	54	50.0	50.0	－
	男性:50代	78	35.9	61.5	2.6
	男性:60代	102	35.3	61.8	2.9
	男性:70代以上	70	42.9	54.3	2.9
	無回答	20	40.0	60.0	－

(2) 断る（断ることをすすめる）理由

●地域の役職を断る（断ることをすすめる）理由は「役職につく知識や経験がないから」が最も高く、特に女性で約6割と男性の割合を約20ポイント上回っている。

問11SQ1（問11で「2 断る（断ることをすすめる）」と回答した方に）
その理由は何ですか。最も近いものを選んでください。（〇は3つまで）

図表4-8 断る（断ることをすすめる）理由〔全体、性別〕（前回調査比較）



地域の役職に推薦された場合「断る（断ることをすすめる）」その理由は「役職につく知識や経験がないから」が55.8%で最も高く、次いで「家事・育児や介護に支障が出るから」が42.0%となっている。以下、「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」が19.0%、「家族の協力が得られないから」が18.2%となっている。「女性には向いていないから」は7.9%と1割に満たない。

性別でみると、女性は「役職につく知識や経験がないから」が62.8%で、男性の42.2%を20.6ポイントも上回り第1位の理由となっている。男性は「家事・育児や介護に支障が出るから」が42.6%で第1位であるが、第2位の「役職につく知識や経験がないから」（42.2%）とほぼ同率となっている。また男性は「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」や「家族の協力が得られないから」などが約2割と女性よりもやや高くなっている。

前回調査と比較すると、女性で「役職につく知識や経験がないから」が2.9ポイントであるが増えており、また「家事・育児や介護に支障が出るから」も6.5ポイント増えている。「女性には向いていないから」は男女ともわずかながら減っている。

年代別でみると、「役職につく知識や経験がないから」は女性の50代と60代で約7割、20代でも63.8%と高率である。男性は60代以上で5割を超えている。「家事・育児や介護に支障が出るから」は女性の30代や50代、男性の30代と40代で5割を超えている。「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」は男性の60代以上で3割を超え、また「家族の協力が得られないから」は男性の20代と60代で3割を超えている。

図表4-9 断る（断ることをすすめる）理由〔全体、年代別別〕

		標本数	い家族の協力が得られないから	念が快く思われない社会通念があるから	障が事出・育児や介護に支障が出るから	が役職につく知識や経験がないから	か女性には向いていないから	世間体が悪いから	その他	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全 体		659 100.0	120 18.2	125 19.0	277 42.0	368 55.8	52 7.9	19 2.9	101 15.3	6 0.9
年 代 別	女性:20代	47	19.1	10.6	46.8	63.8	6.4	10.6	23.4	-
	女性:30代	73	15.1	16.4	56.2	56.2	5.5	2.7	9.6	1.4
	女性:40代	71	21.1	12.7	38.0	50.7	1.4	1.4	18.3	1.4
	女性:50代	88	14.8	18.2	53.4	71.6	5.7	2.3	14.8	1.1
	女性:60代	97	15.5	23.7	28.9	70.1	16.5	-	7.2	-
	女性:70代以上	49	18.4	14.3	26.5	59.2	8.2	6.1	16.3	6.1
	男性:20代	14	35.7	7.1	42.9	35.7	-	-	21.4	-
	男性:30代	32	9.4	6.3	56.3	28.1	6.3	-	18.8	-
	男性:40代	27	22.2	11.1	59.3	25.9	-	-	18.5	-
	男性:50代	48	16.7	18.8	37.5	35.4	6.3	4.2	22.9	-
	男性:60代	63	31.7	33.3	42.9	58.7	7.9	1.6	9.5	-
	男性:70代以上	38	10.5	34.2	26.3	50.0	15.8	5.3	23.7	-
無回答		12	16.7	33.3	33.3	58.3	25.0	8.3	16.7	-

第5章 暴力・セクハラについて

1. 暴力について
2. 相談の有無
3. 相談しなかった理由
4. セクハラの経験
5. セクハラを受けた内容

第5章 暴力・セクハラについて

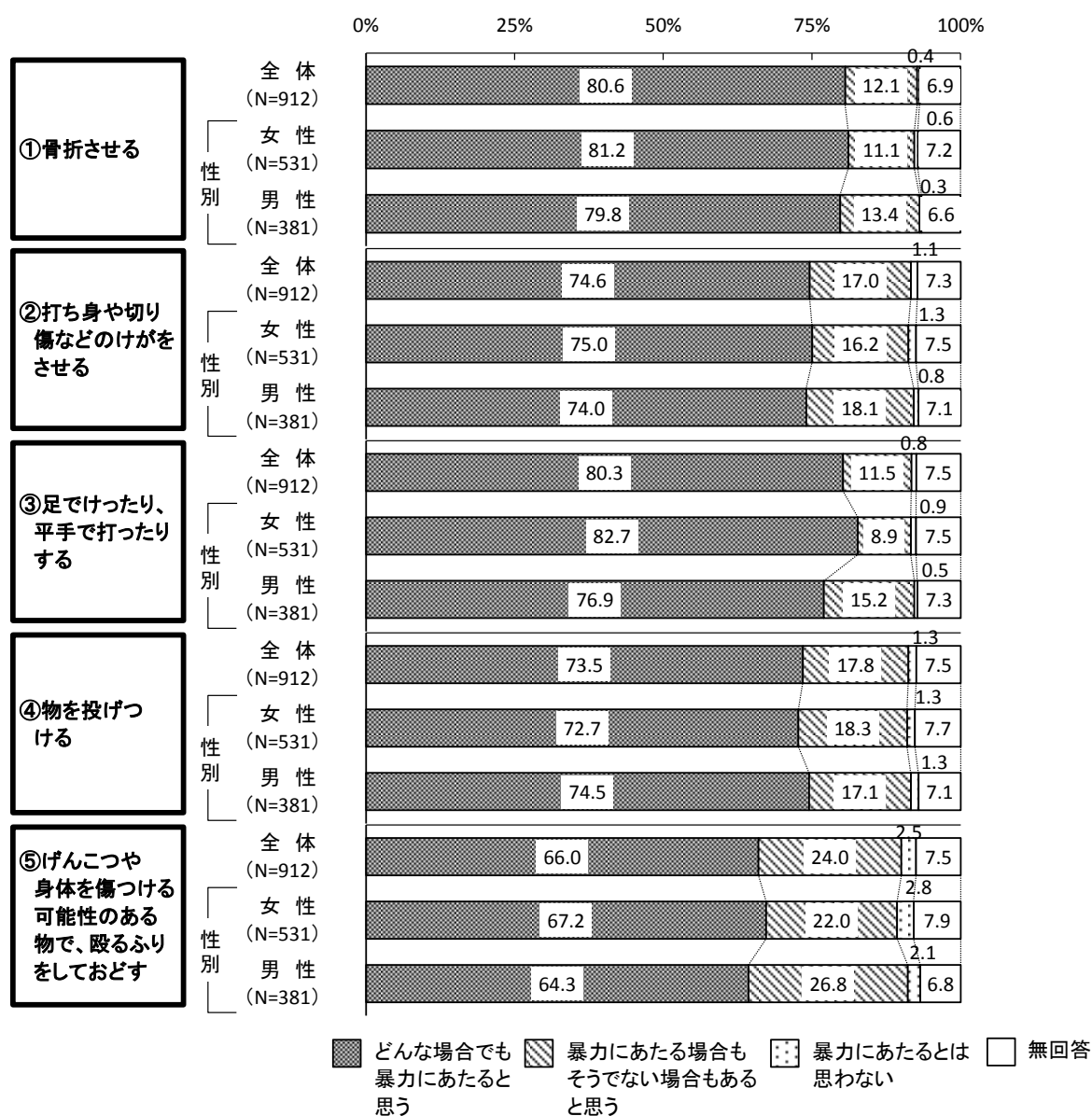
1. 暴力について

(1) 暴力の認識

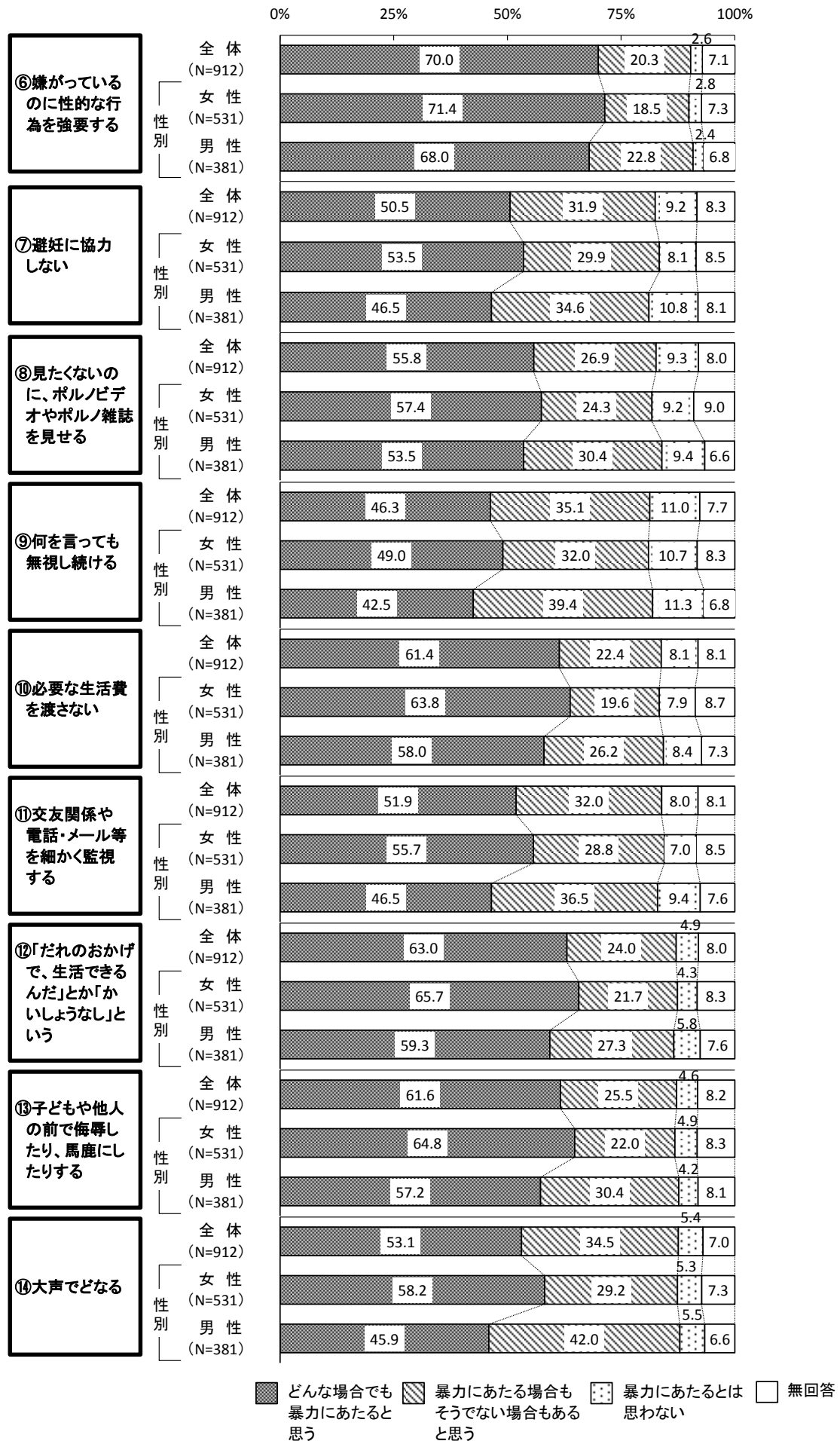
- 『精神的暴力』『性的暴力』『経済的暴力』では「どんな場合も暴力である」との認識が低い傾向がある。
- 『身体的暴力』でも「暴力にあたらな場合もある」が1割から2割ほどみられる。

問 12 (A) あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

図表 5-1 (1) 暴力の認識 [全体、性別]



図表 5-1 (2) 暴力の認識 [全体、性別]



14 項目の行為について、配偶者・パートナー間で行われた場合暴力と思うかどうかたずねた。「どんな場合も暴力にあたると思う」が高いのは「骨折させる」(80.6%)、「足でけったり、平手で打ったりする」(80.3%)、「打ち身や切り傷などのけがをさせる」(74.6%)、「物を投げつける」(73.5%)、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」(70.0%)などで7割から8割となっている。

反対に割合が低いのは「何を言っても無視し続ける」(46.3%)、「避妊に協力しない」(50.5%)、「交友関係や電話・メール等を細かく監視する」(51.9%)、「大声でどなる」(53.1%)、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(55.8%)などで4割から5割台となっている。これらの行為では「暴力にあたるとは思わない」も1割前後みられる。

14 項目の行為はすべて暴力行為であるが、「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が高かった行為でも「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が約1割から2割みられる。

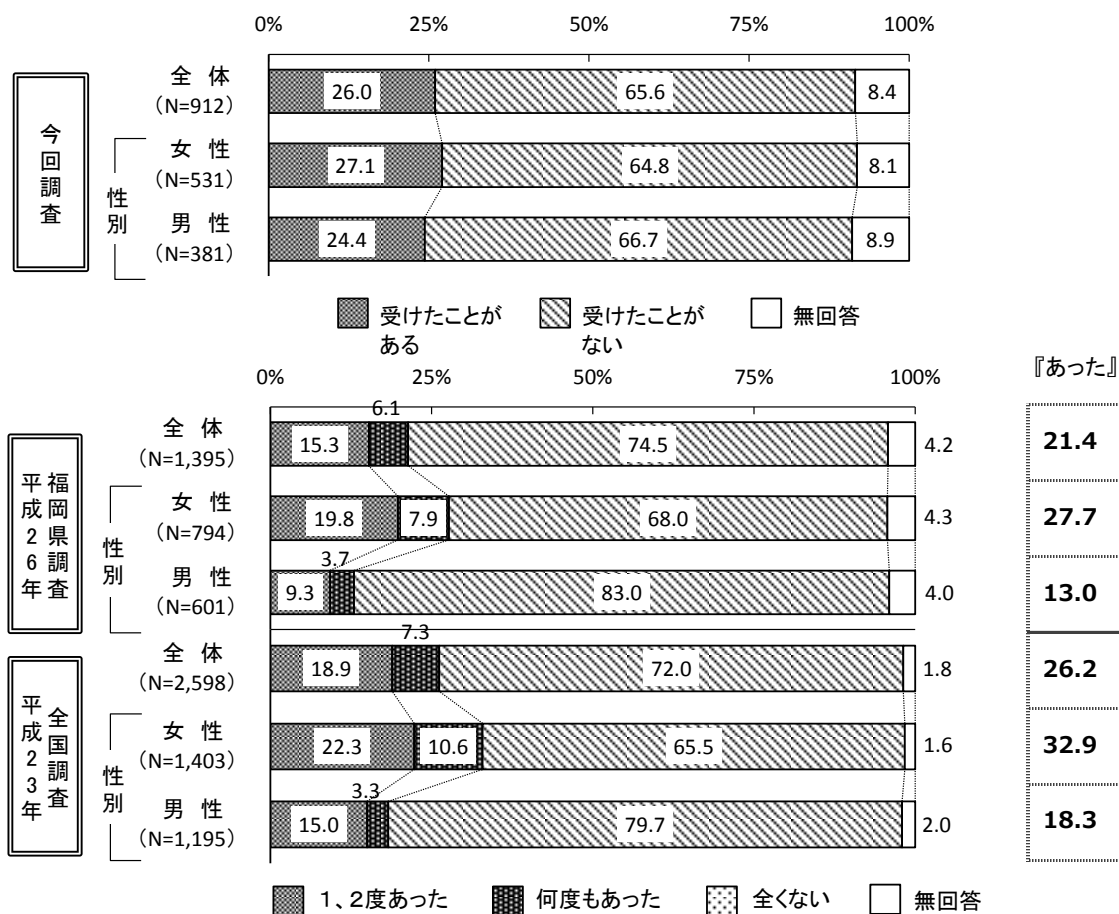
性別でみると、「骨折させる」「打ち身や切り傷などのけがをさせる」「物を投げつける」などの行為では男女差はあまりみられないが、その他の暴力行為では「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合は女性の方が男性よりも高くなっている。「足でけったり、平手で打ったりする」は女性では82.7%であるが、男性では76.9%と5.8ポイントの差がある。その他差が大きなものは「大声でどなる」で12.3ポイント、「交友関係や電話・メール等を細かく監視する」で9.2ポイント、「子どもや他人の前で侮辱したり、馬鹿にしたりする」で7.6ポイント、「避妊に協力しない」で7ポイントなど、性別による認識の違いがみられる。

(2) 暴力の経験

- 女性の暴力の経験は約3割。男性は2割半ば。
- 暴力の経験は女性の40代で約4割と最も高い。

問12 (B) また、あなたはここ3年ぐらいの間にあなたの配偶者・パートナーや恋人関係にある(あった)人から次のようなことをされたことがありますか。
(○はそれぞれ1つ)

図表5-2 暴力の経験[全体、性別](福岡県・全国調査比較)



14項目の暴力行為についてここ3年ぐらいの間の経験をたずね、その中で一つでも「何度もあった」「1、2度あった」に回答があった人は26.0%と全体の約4分の1を占めている。

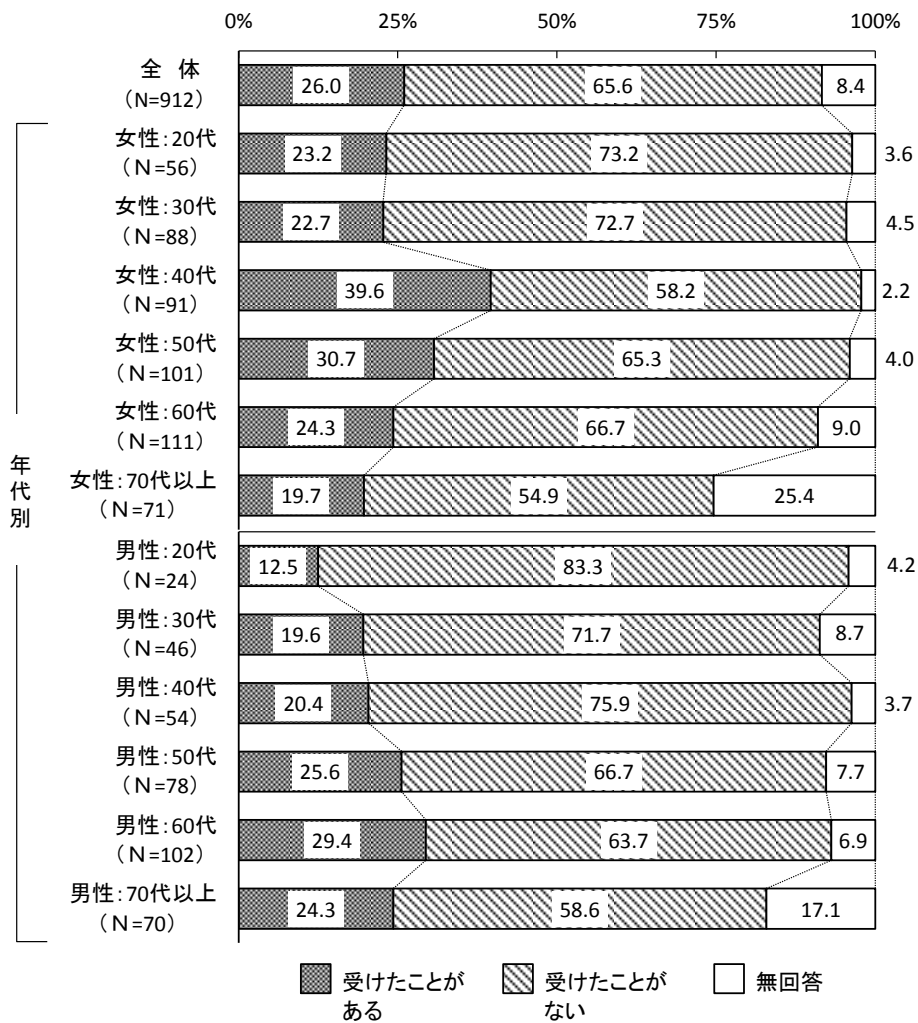
性別でみると、女性の「受けたことがある」は27.1%で約3割となっている。男性は24.4%である。

福岡県調査と比較すると、女性の暴力の経験者は同程度、男性は11.4ポイント今回調査の方が高くなっている。

平成23年に実施された内閣府「男女間における暴力に関する調査」(以下、全国調査という)と比較すると、女性では今回調査の方が暴力の経験者は5.8ポイント低くなっている。

年代別でみると、女性の40代で暴力の経験が39.6%と約4割で最も高くなっている。次いで女性の50代で30.7%、男性の60代で29.4%と約3割となっている。

図表5－3 暴力の経験〔全体、年代別〕

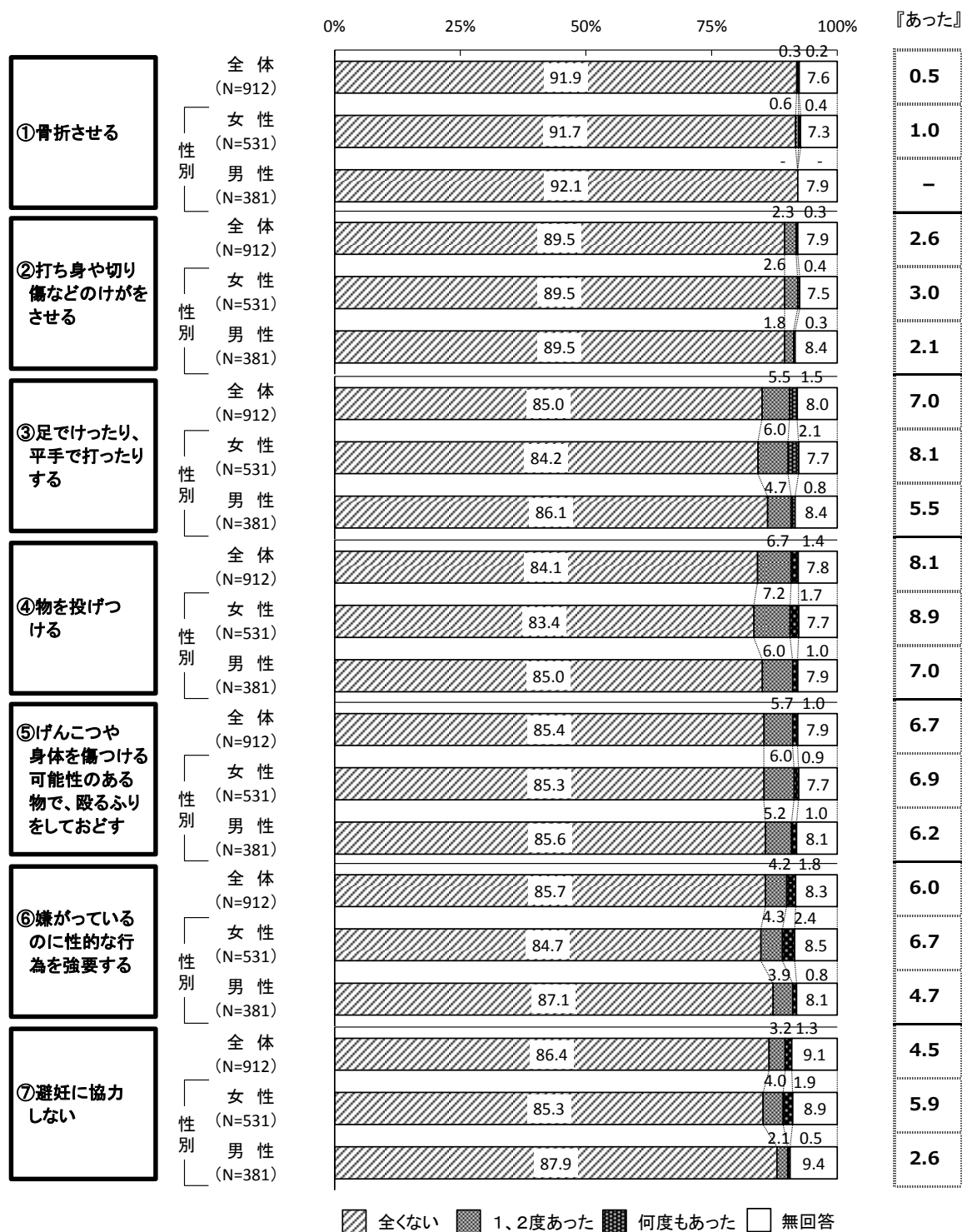


- ここ3年ぐらいの暴力の経験は男性よりも女性の方が多い。
- 「大声でどなる」は約2割、「何を言っても無視し続ける」「侮辱したり、馬鹿にしたりする」は約1割が経験している。

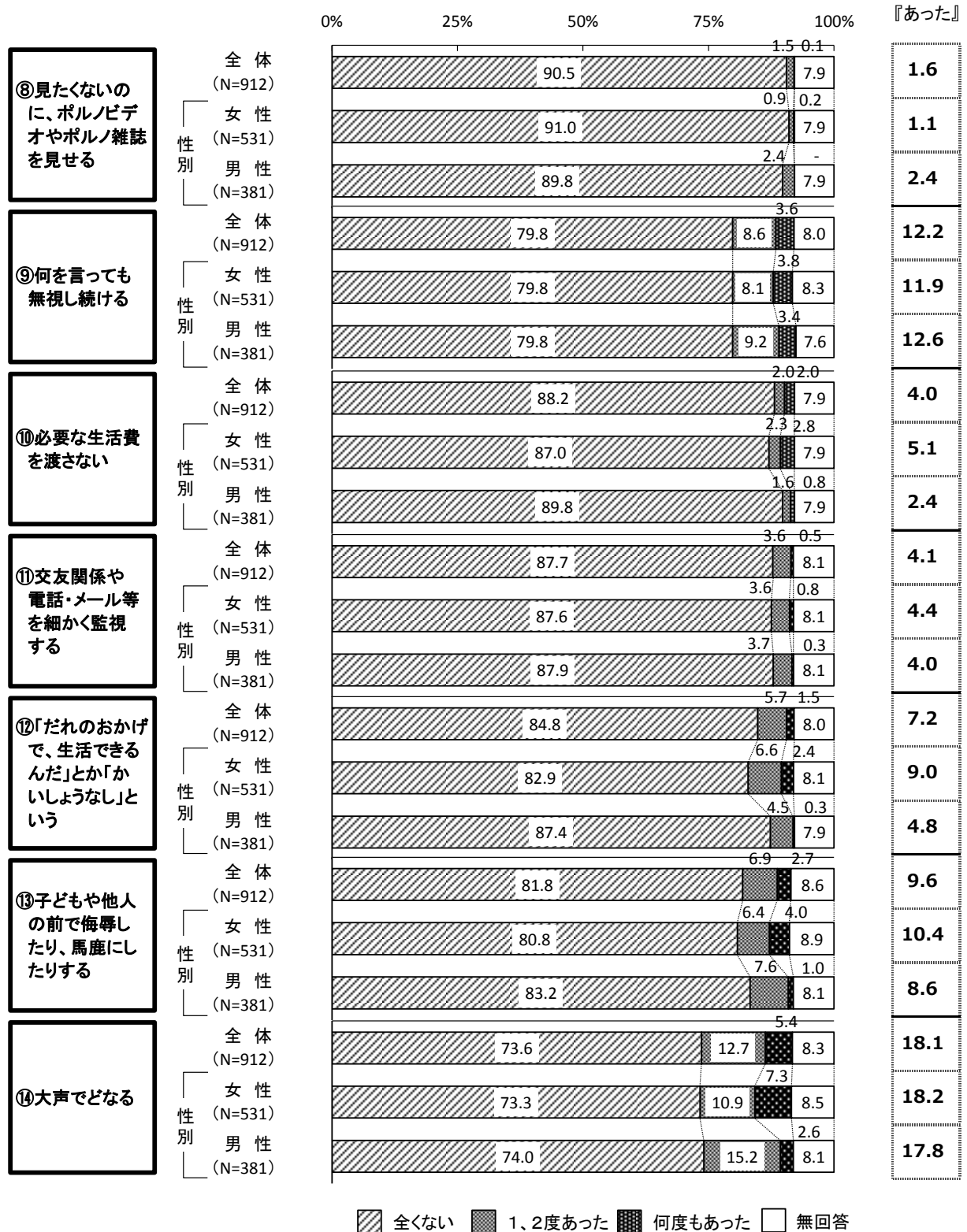
問12 (B) また、あなたはここ3年ぐらいの間にあなたの配偶者・パートナーや恋人関係にある(あった)人から次のようなことをされたことがありますか。

(○はそれぞれ1つ)

図表5-4(1) 暴力の経験[全体、性別]



図表5-4(1) 暴力の経験[全体、性別]



14項目の暴力行為についてここ3年ぐらいの間の経験については、いずれの暴力でも「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた暴力の経験が『あった』の割合がみられる。その中で「大声でどなる」(18.1%)が約2割、「何を言っても無視し続ける」(12.2%)、「子どもや他人の前で侮辱したり、馬鹿にしたりする」(9.6%)などが約1割、「物を投げつける」(8.1%)、「足でけったり、平手で打ったりする」(7.0%)なども1割近くと少なくない割合となっている。

性別でみると、「何を言っても無視し続ける」と「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」以外の項目は女性の方が『あった』の割合が男性よりも高く、暴力の経験は女性に多いことがわかる。特に「だれのおかげで、生活できるんだ」とか「かいしょうなし」という」は4.2ポイント、「避妊に協力しない」は3.3ポイント、「必要な生活費を渡さない」は2.7ポイント、「足でけったり、平手で打ったりする」は2.6ポイントと差が大きい。

図表5-5(1) 暴力の経験[全体、年代別、既未婚別]

		標 本 数	①骨折させる					②打ち身や切り傷などの けがをさせる					③足でけったり、平手で 打ったりする					④物を投げつける				
			全 く な い	あ っ た 、 2 度	た 何 度 も あ っ た	無 回 答	『 あ っ た 』	全 く な い	あ っ た 、 2 度	た 何 度 も あ っ た	無 回 答	『 あ っ た 』	全 く な い	あ っ た 、 2 度	た 何 度 も あ っ た	無 回 答	『 あ っ た 』	全 く な い	あ っ た 、 2 度	た 何 度 も あ っ た	無 回 答	『 あ っ た 』
全 体		912 100.0	838 91.9	3 0.3	2 0.2	69 7.6	5 0.5	816 89.5	21 2.3	3 0.3	72 7.9	24 2.6	775 85.0	50 5.5	14 1.5	73 8.0	64 7.0	767 84.1	61 6.7	13 1.4	71 7.8	74 8.1
年 代 別	女性:20代	56	94.6	1.8	-	3.6	1.8	92.9	3.6	-	3.6	3.6	87.5	7.1	1.8	3.6	8.9	89.3	5.4	1.8	3.6	7.2
	女性:30代	88	95.5	-	-	4.5	-	93.2	1.1	-	5.7	1.1	86.4	6.8	1.1	5.7	7.9	86.4	9.1	-	4.5	9.1
	女性:40代	91	96.7	1.1	1.1	1.1	2.2	92.3	5.5	1.1	1.1	6.6	90.1	4.4	4.4	1.1	8.8	87.9	6.6	3.3	2.2	9.9
	女性:50代	101	95.0	-	-	5.0	-	92.1	3.0	1.0	4.0	4.0	82.2	9.9	3.0	5.0	12.9	80.2	11.9	3.0	5.0	14.9
	女性:60代	111	89.2	0.9	0.9	9.0	1.8	88.3	2.7	-	9.0	2.7	83.8	6.3	0.9	9.0	7.2	83.8	6.3	0.9	9.0	7.2
	女性:70代以上	71	80.3	-	-	19.7	-	78.9	-	-	21.1	-	76.1	1.4	1.4	21.1	2.8	74.6	2.8	1.4	21.1	4.2
	男性:20代	24	95.8	-	-	4.2	-	91.7	-	4.2	4.2	4.2	87.5	-	8.3	4.2	8.3	91.7	4.2	-	4.2	4.2
	男性:30代	46	91.3	-	-	8.7	-	91.3	-	-	8.7	-	89.1	2.2	-	8.7	2.2	89.1	2.2	-	8.7	2.2
	男性:40代	54	98.1	-	-	1.9	-	92.6	5.6	-	1.9	5.6	88.9	7.4	-	3.7	7.4	92.6	5.6	-	1.9	5.6
	男性:50代	78	93.6	-	-	6.4	-	91.0	1.3	-	7.7	1.3	88.5	5.1	-	6.4	5.1	82.1	7.7	2.6	7.7	10.3
男性:60代	102	94.1	-	-	5.9	-	92.2	2.0	-	5.9	2.0	87.3	4.9	1.0	6.9	5.9	85.3	7.8	2.0	4.9	9.8	
男性:70代以上	70	84.3	-	-	15.7	-	82.9	1.4	-	15.7	1.4	80.0	4.3	-	15.7	4.3	81.4	2.9	-	15.7	2.9	
無回答	20	75.0	-	-	25.0	-	70.0	-	-	30.0	-	70.0	5.0	-	25.0	5.0	65.0	10.0	-	25.0	10.0	
既 未 婚 別	女性:既婚	362	94.2	0.3	0.3	5.2	0.6	91.2	3.0	-	5.8	3.0	85.1	6.6	1.9	6.4	8.5	84.0	8.8	1.7	5.5	10.5
	女性:未婚	74	90.5	1.4	-	8.1	1.4	91.9	-	-	8.1	-	90.5	2.7	-	6.8	2.7	91.9	-	-	8.1	-
	女性:離・死別	77	80.5	1.3	1.3	16.9	2.6	77.9	3.9	2.6	15.6	6.5	71.4	7.8	5.2	15.6	13.0	71.4	6.5	3.9	18.2	10.4
	男性:既婚	274	93.8	-	-	6.2	-	90.9	1.8	0.4	6.9	2.2	87.2	5.1	1.1	6.6	6.2	85.8	6.9	1.1	6.2	8.0
	男性:未婚	59	88.1	-	-	11.9	-	88.1	-	-	11.9	-	86.4	-	-	13.6	9.4	86.4	1.7	-	11.9	1.7
男性:離・死別	32	93.8	-	-	6.3	-	90.6	3.1	-	6.3	3.1	84.4	9.4	-	6.3	9.4	87.5	6.3	-	6.3	6.3	
無回答	34	85.3	-	-	14.7	-	82.4	2.9	-	14.7	2.9	82.4	2.9	-	14.7	2.9	76.5	5.9	2.9	14.7	8.8	
		標 本 数	⑤げんこつや身体を傷つける 可能性のある物で、殴るふりを しておどす					⑥嫌がっているのに性的な行為を 強要する					⑦避妊に協力しない									
			全 く な い	あ っ た 、 2 度	た 何 度 も あ っ た	無 回 答	『 あ っ た 』	全 く な い	あ っ た 、 2 度	た 何 度 も あ っ た	無 回 答	『 あ っ た 』	全 く な い	あ っ た 、 2 度	た 何 度 も あ っ た	無 回 答	『 あ っ た 』					
全 体		912 100.0	779 85.4	52 5.7	9 1.0	72 7.9	6.1 6.7	782 85.7	38 4.2	16 1.8	76 8.3	54 6.0	788 86.4	29 3.2	12 1.3	83 9.1	4.1 4.5					
年 代 別	女性:20代	56	92.9	3.6	-	3.6	3.6	87.5	5.4	3.6	3.6	9.0	85.7	5.4	5.4	3.6	10.8					
	女性:30代	88	88.6	6.8	-	4.5	6.8	90.9	3.4	1.1	4.5	4.5	88.6	4.5	2.3	4.5	6.8					
	女性:40代	91	89.0	6.6	3.3	1.1	9.9	87.9	3.3	6.6	2.2	9.9	92.3	5.5	1.1	1.1	6.6					
	女性:50代	101	84.2	8.9	1.0	5.9	9.9	88.1	5.0	1.0	5.9	6.0	88.1	3.0	3.0	5.9	6.0					
	女性:60代	111	86.5	3.6	0.9	9.0	4.5	83.8	4.5	2.7	9.0	7.2	86.5	2.7	-	10.8	2.7					
	女性:70代以上	71	73.2	5.6	-	21.1	5.6	70.4	4.2	-	25.4	4.2	69.0	4.2	-	26.8	4.2					
	男性:20代	24	95.8	-	-	4.2	-	95.8	-	-	4.2	-	95.8	-	-	4.2	-					
	男性:30代	46	87.0	4.3	-	8.7	4.3	91.3	-	-	8.7	-	89.1	-	2.2	8.7	2.2					
	男性:40代	54	92.6	5.6	-	1.9	5.6	92.6	3.7	1.9	1.9	5.6	94.4	3.7	-	1.9	3.7					
	男性:50代	78	88.5	3.8	1.3	6.4	5.1	89.7	3.8	-	6.4	3.8	92.3	-	-	7.7	-					
男性:60代	102	83.3	6.9	2.9	6.9	9.8	86.3	4.9	2.0	6.9	6.9	87.3	3.9	-	8.8	3.9						
男性:70代以上	70	80.0	4.3	-	15.7	4.3	80.0	4.3	-	15.7	4.3	78.6	2.9	-	18.6	2.9						
無回答	20	60.0	15.0	-	25.0	15.0	60.0	15.0	-	25.0	15.0	65.0	-	10.0	25.0	10.0						
既 未 婚 別	女性:既婚	362	86.2	7.5	0.8	5.5	8.3	86.7	4.4	2.8	6.1	7.2	87.8	3.3	1.9	6.9	5.2					
	女性:未婚	74	90.5	1.4	-	8.1	1.4	89.2	1.4	1.4	8.1	2.8	87.8	2.7	1.4	8.1	4.1					
	女性:離・死別	77	74.0	5.2	2.6	18.2	7.8	70.1	6.5	2.6	20.8	9.1	70.1	7.8	2.6	19.5	10.4					
	男性:既婚	274	86.1	6.2	1.1	6.6	7.3	88.7	4.0	0.7	6.6	4.7	89.1	2.2	0.7	8.0	2.9					
	男性:未婚	59	86.4	1.7	-	11.9	1.7	88.1	-	-	11.9	-	86.4	1.7	-	11.9	1.7					
	男性:離・死別	32	87.5	6.3	-	6.3	6.3	81.3	9.4	3.1	6.3	12.5	90.6	3.1	-	6.3	3.1					
無回答	34	82.4	-	2.9	14.7	2.9	79.4	5.9	-	14.7	5.9	79.4	2.9	-	17.6	2.9						

図表5-5(2) 暴力の経験[全体、年代別、既未婚別]

(%)

		標本数	⑧見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる					⑨何を言っても無視し続ける					⑩必要な生活費を渡さない					⑪交友関係や電話・メール等を細かく監視する				
			全くない	あつた、2度	た何度もあつ	無回答	『あつた』	全くない	あつた、2度	た何度もあつ	無回答	『あつた』	全くない	あつた、2度	た何度もあつ	無回答	『あつた』	全くない	あつた、2度	た何度もあつ	無回答	『あつた』
全 体		912 100.0	825 90.5	14 1.5	1 0.1	72 7.9	15 1.6	728 79.8	78 8.6	33 3.6	73 8.0	111 12.2	804 88.2	18 2.0	18 2.0	72 7.9	36 4.0	800 87.7	33 3.6	5 0.5	74 8.1	38 4.1
年代別	女性:20代	56	94.6	1.8	-	3.6	1.8	85.7	8.9	1.8	3.6	10.7	91.1	3.6	1.8	3.6	5.4	87.5	5.4	3.6	3.6	9.0
	女性:30代	88	96.6	-	-	3.4	-	86.4	6.8	2.3	4.5	9.1	94.3	-	1.1	4.5	1.1	92.0	3.4	-	4.5	3.4
	女性:40代	91	96.7	1.1	1.1	1.1	2.2	83.5	4.4	9.9	2.2	14.3	92.3	3.3	2.2	2.2	5.5	90.1	7.7	1.1	1.1	8.8
	女性:50代	101	93.1	1.0	-	5.9	1.0	80.2	8.9	5.0	5.9	13.9	86.1	1.0	7.9	5.0	8.9	91.1	3.0	-	5.9	3.0
	女性:60代	111	89.2	1.8	-	9.0	1.8	80.2	10.8	-	9.0	10.8	86.5	3.6	0.9	9.0	4.5	88.3	1.8	0.9	9.0	2.7
	女性:70代以上	71	77.5	-	-	22.5	-	66.2	7.0	2.8	23.9	9.8	74.6	1.4	1.4	22.5	2.8	76.1	-	-	23.9	-
	男性:20代	24	95.8	-	-	4.2	-	91.7	-	4.2	4.2	4.2	95.8	-	-	4.2	-	83.3	12.5	-	4.2	12.5
	男性:30代	46	91.3	-	-	8.7	-	82.6	6.5	2.2	8.7	8.7	91.3	-	-	8.7	-	87.0	4.3	-	8.7	4.3
	男性:40代	54	94.4	3.7	-	1.9	3.7	87.0	5.6	5.6	1.9	11.2	94.4	1.9	1.9	1.9	3.8	94.4	3.7	-	1.9	3.7
	男性:50代	78	92.3	1.3	-	6.4	1.3	78.2	12.8	3.8	5.1	16.6	93.6	-	-	6.4	-	91.0	2.6	-	6.4	2.6
既未婚別	女性:既婚	362	93.4	0.6	-	6.1	0.6	80.4	9.4	3.9	6.4	13.3	90.3	2.2	1.4	6.1	3.6	89.8	3.3	0.8	6.1	4.1
	女性:未婚	74	93.2	-	-	6.8	-	89.2	2.7	-	8.1	2.7	89.2	1.4	1.4	8.1	2.8	89.2	2.7	-	8.1	2.7
	女性:離・死別	77	76.6	3.9	1.3	18.2	5.2	68.8	6.5	6.5	18.2	13.0	70.1	1.3	11.7	16.9	13.0	74.0	6.5	1.3	18.2	7.8
	男性:既婚	274	91.2	2.6	-	6.2	2.6	79.2	11.3	3.6	5.8	14.9	91.2	1.5	1.1	6.2	2.6	89.8	3.3	0.4	6.6	3.7
	男性:未婚	59	86.4	1.7	-	11.9	1.7	88.1	-	-	11.9	-	88.1	-	-	11.9	-	84.7	3.4	-	11.9	3.4
	男性:離・死別	32	90.6	3.1	-	6.3	3.1	81.3	9.4	3.1	6.3	12.5	87.5	6.3	-	6.3	6.3	87.5	6.3	-	6.3	6.3
	無回答	34	85.3	-	-	14.7	-	67.6	8.8	8.8	14.7	17.6	79.4	5.9	-	14.7	5.9	82.4	2.9	-	14.7	2.9

年代別でみると、女性の40代と50代では「何を言っても無視し続ける」「だれのおかげで、生活できるんだ」とか「かいしようなし」という「子どもや他人の前で侮辱したり、馬鹿にしたりする」「大声でどなる」の経験が1割半ばから2割半ばと高く、また50代では「足でけったり、平手で打ったりする」「物を投げつける」も1割半ばと他の年代と比べて高くなっている。また女性の20代では「避妊に協力しない」(10.8%)、男性の20代で「交友関係や電話・メール等を細かく監視する」(12.5%)の経験も他と比べると高い。

既未婚別でみると、男女とも未婚よりも既婚や離・死別で暴力の経験の割合が高く、女性の離・死別では既婚に比べ身体的や性的暴力、「必要な生活費を渡さない」の経験が高くなっている。

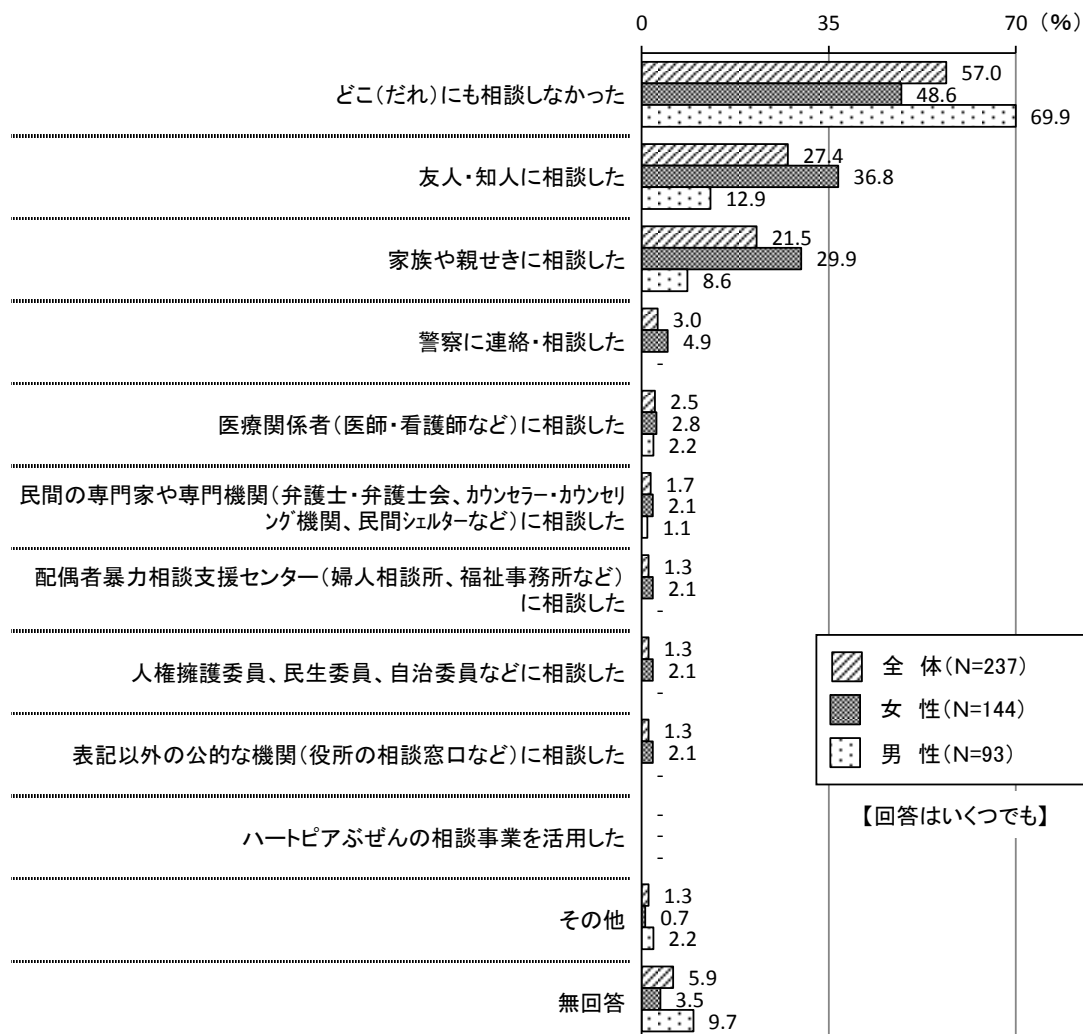
2. 相談の有無

- 暴力を受けたことについて「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性で約 7 割、女性で約 5 割。「友人・知人」「家族や親せき」など身近な人への相談が女性で 3 割前後、男性で 1 割前後。

問 12SQ1（問 12（B）経験で「何度もあった」「1、2度あった」に1つでも○をつけた方に）

あなたは、あなたの配偶者・パートナーや恋人関係にある（あった）人から受けたそのような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）

図表 5－6 相談の有無〔全体、性別〕



暴力を受けた経験のある人（237 人）に、そのことについて誰かに打ち明けたり、相談したりしたかたずねたところ、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 57.0%と最も高くなっていた。相談した人の中では「友人・知人に相談した」が 27.4%、「家族や親せきに相談した」が 21.5%と身近な人への相談が上位となっている。「警察に連絡・相談した」は 3.0%、「医療関係者（医師・看護師など）に相談した」は 2.5%、「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した」は 1.7%など専門機関や行政窓口の利用は低く、「ハートピアぶぜんの相談事業を活用した」は該当者がいなかった。

性別でみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性が 69.9%と女性（48.6%）を 21.3 ポイントも上回っていた。女性は「友人・知人に相談した」が 36.8%（男性 12.9%）、「家族や親せきに相談した」が 29.9%（男性 8.6%）と男性よりも 20 ポイント以上高くなっている。また、女性では警察や医療関係者、専門機関や行政への相談がみられた。

年代別でみると、女性の 20 代では「友人・知人に相談した」が 76.9%と最も高いが、その一方で「警察に連絡・相談した」（15.4%）、「配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所、福祉事務所など）に相談した」「公的な機関（役所の相談窓口など）に相談した」「医療関係者（意思・看護師など）に相談した」（同率 7.7%）などへの相談もみられた。また、暴力の経験が高かった女性の 40 代と 50 代では上記以外の他に「人権擁護委員、民生委員、自治委員などに相談した」「民間の専門家や専門機関（弁護士、弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した」などの専門機関への相談もみられた。また「どこ（だれ）にも相談しなかった」は女性では年齢の高い層、男性では年齢が低い層での割合が高くなっている。

図表 5－7 相談の有無〔全体、年代別〕

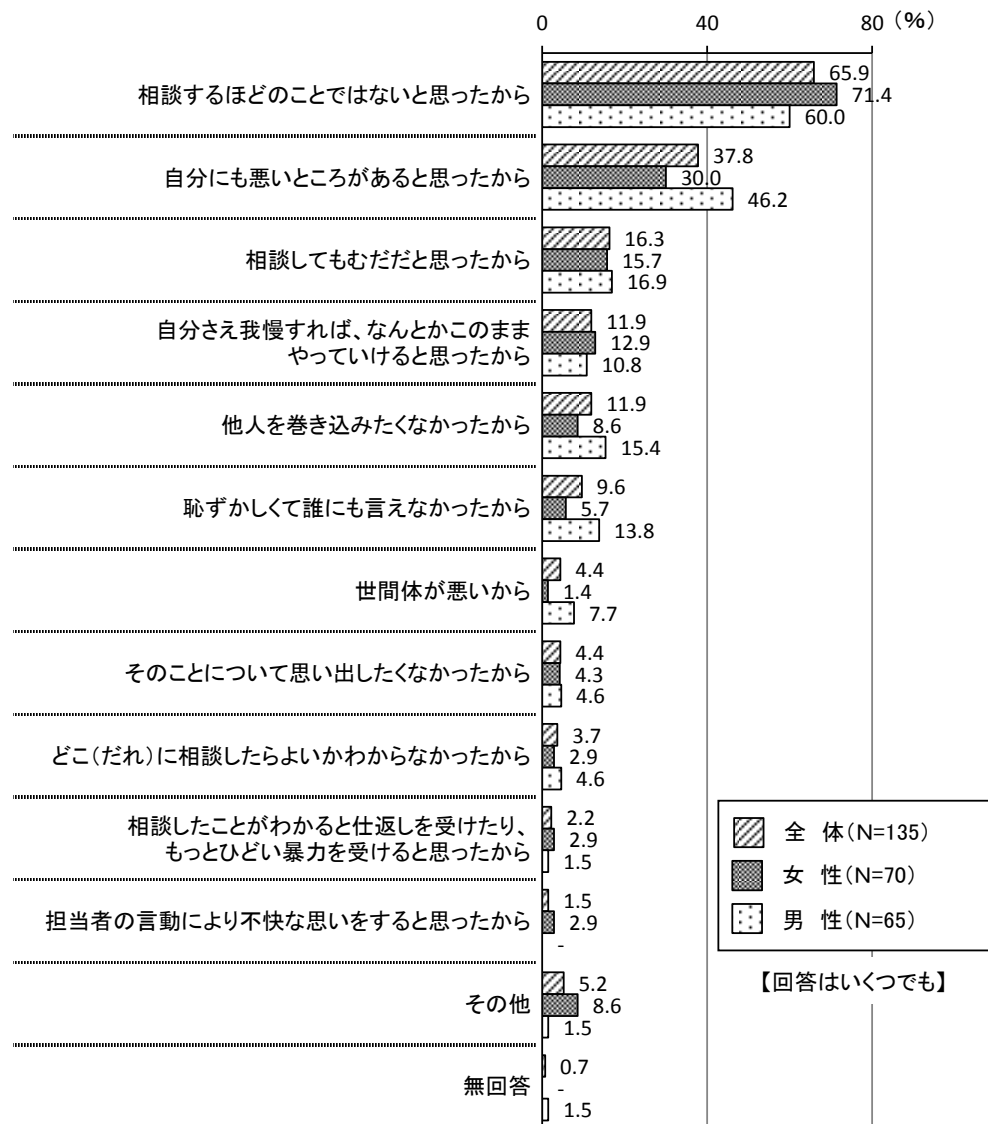
(%)														
		標本数	警察に連絡・相談した	配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所、福祉事務所など）に相談した	人権擁護委員、民生委員、自治委員などに相談した	ハートピアぶぜんの相談事業を活用した	表記以外の公的な機関（役所の相談窓口など）に相談した	民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した	医療関係者（医師・看護師など）に相談した	家族や親せきに相談した	友人・知人に相談した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答
全 体		237 100.0	7 3.0	3 1.3	3 1.3	- -	3 1.3	4 1.7	6 2.5	51 21.5	65 27.4	3 1.3	135 57.0	14 5.9
年 代 別	女性:20代	13	15.4	7.7	-	-	7.7	-	7.7	46.2	76.9	-	23.1	-
	女性:30代	20	-	-	-	-	-	-	-	45.0	40.0	-	40.0	5.0
	女性:40代	36	8.3	5.6	5.6	-	5.6	5.6	5.6	33.3	47.2	2.8	38.9	-
	女性:50代	31	3.2	-	3.2	-	-	3.2	-	25.8	32.3	-	54.8	3.2
	女性:60代	27	3.7	-	-	-	-	-	-	29.6	22.2	-	55.6	7.4
	女性:70代以上	14	-	-	-	-	-	-	7.1	-	7.1	-	78.6	7.1
	男性:20代	3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	66.7	-
	男性:30代	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	男性:40代	11	-	-	-	-	-	-	-	9.1	9.1	-	72.7	18.2
	男性:50代	20	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0	5.0	80.0	5.0
	男性:60代	30	-	-	-	-	-	-	-	13.3	20.0	-	63.3	10.0
	男性:70代以上	17	-	-	-	-	-	5.9	11.8	5.9	17.6	5.9	58.8	11.8
無回答		6	-	-	-	-	-	-	-	16.7	16.7	-	50.0	16.7

3. 相談しなかった理由

●相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が約 6 割半ば、「自分にも悪いところがあると思ったから」が約 4 割。

問 12SQ2（問 12SQ1 で「11 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方に）
相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

図表 5－8 相談しなかった理由〔全体、性別〕



「どこ（だれ）にも相談しなかった」理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が 65.9%と最も高い。次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 37.8%となっている。以下、「相談してもむだだと思ったから」16.3%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「他人を巻き込みたくなかったから」同率 11.9%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」9.6%などとなっている。

性別でみると、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」が71.4%で男性(60.0%)よりも11.4ポイント高く、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が46.2%で女性(30.0%)よりも16.2ポイント高くなっている。その他、男性では「他人を巻き込みたくなかったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「世間体が悪いから」などの割合が女性よりも高くなっていた。

年代別でみると、女性の40代と60代以上で「相談してもむだだと思ったから」、50代以上で「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」などが約2割から3割となっている。

図表5-9 相談しなかった理由〔全体、年代別〕

(%)

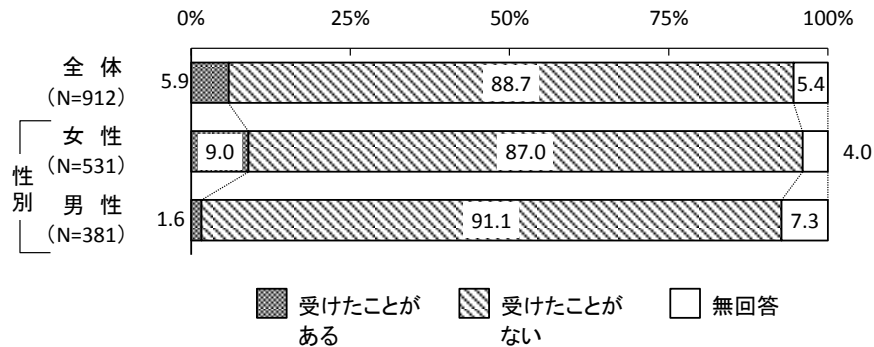
		標 本 数	ど こ （ だ れ ） に 相 談 し た ら よ い か わ か ら な か つ た か ら	恥 ず か し く て 誰 に も 言 え な か つ た か ら	相 談 し て も む だ だ と 思 っ た か ら	相 談 し た こ と が わ か る と 仕 返 し を 受 け た り 、 も っ と ひ ど い 暴 力 を 受 け る と 思 っ た か ら	担 当 者 の 言 動 に よ り 不 快 な 思 い を す る と 思 っ た か ら	自 分 さ え 我 慢 す れ ば 、 な ん と か こ の ま ま や っ て い け る と 思 っ た か ら	世 間 体 が 悪 い か ら	他 人 を 巻 き 込 み た く な か つ た か ら	そ の こ と に つ い て 思 い 出 し た く な か つ た か ら	自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ る と 思 っ た か ら	相 談 す る ほ ど の こ と で は な い と 思 っ た か ら	そ の 他	無 回 答
全 体		135 100.0	5 3.7	13 9.6	22 16.3	3 2.2	2 1.5	16 11.9	6 4.4	16 11.9	6 4.4	51 37.8	89 65.9	7 5.2	1 0.7
年 代 別	女性:20代	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	100.0	-	-
	女性:30代	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37.5	75.0	12.5	-
	女性:40代	14	7.1	7.1	28.6	-	7.1	7.1	-	7.1	7.1	28.6	64.3	35.7	-
	女性:50代	17	5.9	11.8	11.8	5.9	5.9	17.6	5.9	11.8	5.9	11.8	58.8	-	-
	女性:60代	15	-	6.7	20.0	-	-	20.0	-	6.7	6.7	40.0	80.0	-	-
	女性:70代以上	11	-	-	18.2	9.1	-	18.2	-	18.2	-	36.4	72.7	-	-
	男性:20代	2	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	100.0	100.0	-	-
	男性:30代	9	-	-	-	11.1	-	11.1	-	22.2	11.1	55.6	55.6	-	-
	男性:40代	8	12.5	12.5	25.0	-	-	12.5	-	25.0	-	50.0	25.0	-	-
	男性:50代	16	-	25.0	18.8	-	-	12.5	12.5	6.3	-	25.0	68.8	6.3	-
	男性:60代	19	5.3	21.1	26.3	-	-	10.5	10.5	10.5	-	47.4	63.2	-	-
	男性:70代以上	10	-	-	10.0	-	-	-	10.0	10.0	10.0	60.0	70.0	-	10.0
無回答		3	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3	66.7	-	-

4. セクハラの実験

- セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある人は、女性で約1割と男性よりも多い。
- 女性の20代から40代で1割を超え、50代でも1割近くがセクハラの実験者。

問13 あなたは、ここ3年ぐらいの間にセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動等）を受けたことがありますか。

図表5-10 セクハラの実験 [全体、性別]

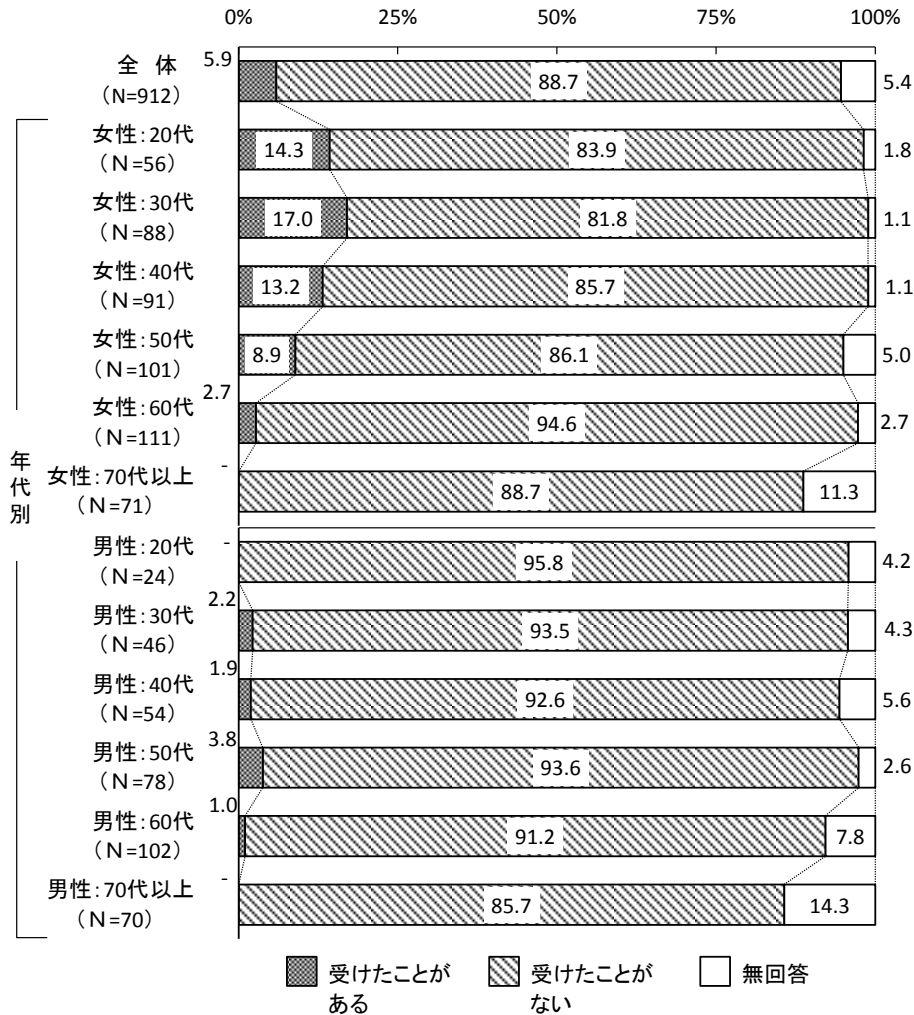


セクシュアル・ハラスメントを受けたことがあるかどうかたずねたところ、「受けたことがある」は5.9%、「受けたことがない」が88.7%となっている。

性別でみると、女性で「受けたことがある」が9.0%と約1割で、男性は1.6%であった。

年代別でみると、セクハラを「受けたことがある」のは、女性では30代が17.0%と最も高く、20代で14.3%、40代で13.2%とその前後の年代でも1割を超え、50代でも8.9%である。男性では50代での3.8%が最も高くなっている。

図表5-11 セクハラの経験〔全体、年代別〕

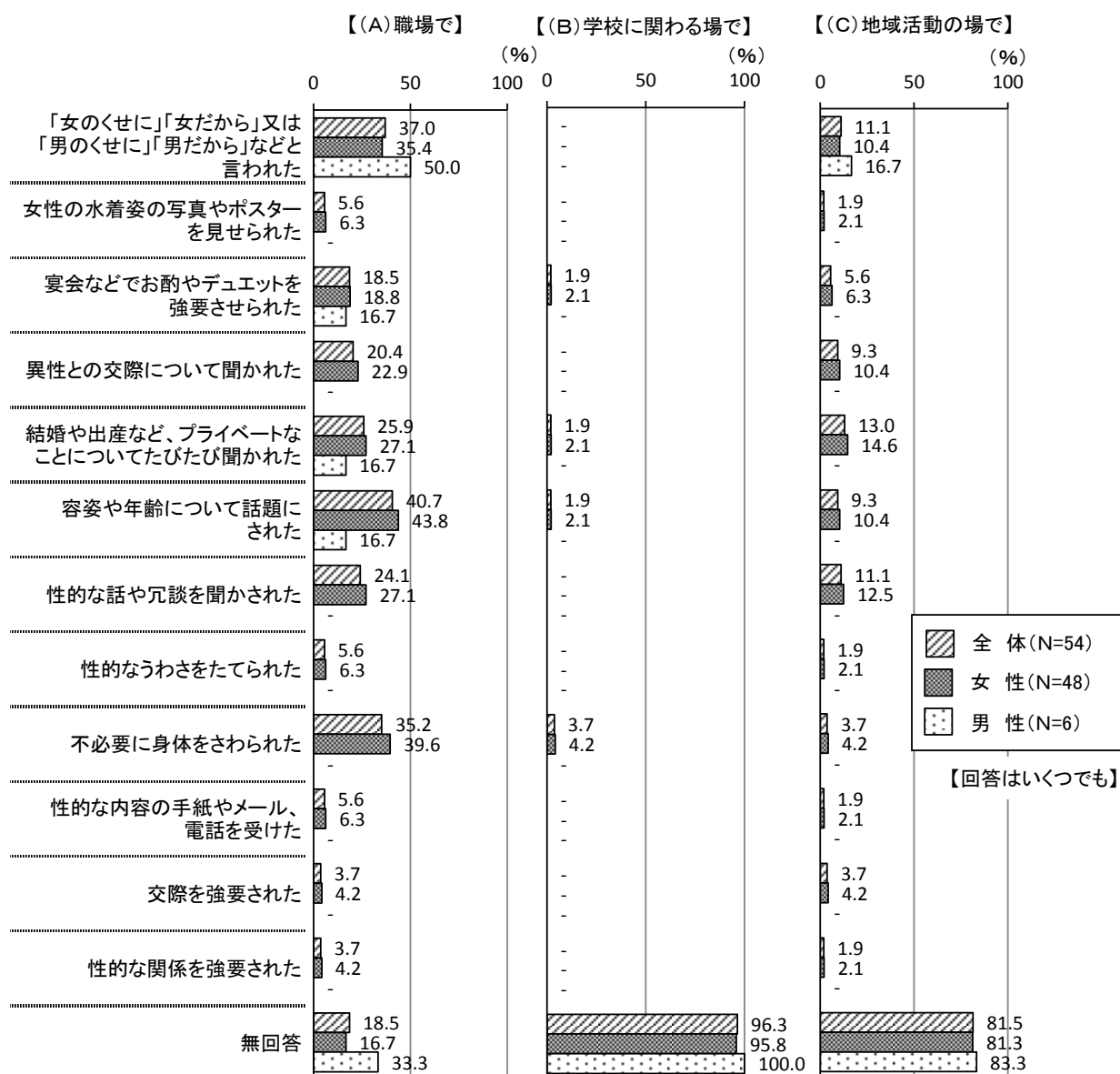


5. セクハラを受けた内容

- 「職場」でセクシュアル・ハラスメントを受ける割合が高い。
- セクハラの内容の上位は「女のくせに」「女だから」「男のくせに」「男だから」といわれた」「容姿や年齢を話題にされた」「不必要にさわられた」「結婚・出産などたびたび聞かれた」「性的な話や冗談を聞かされた」など多岐にわたる。

問 13SQ1（問 13 で「1 受けたことがある」と答えた方に）（A）職場、（B）学校に関わる場、（C）地域活動の場で次のようなセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。（〇はそれぞれいくつでも）

図表 5-12 セクハラを受けた内容〔全体、性別〕



セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある人に、「職場」「学校に関わる場」「地域活動の場」において受けたセクシュアル・ハラスメントの内容をたずねた。

「職場」では「容姿や年齢について話題にされた」が 40.7%、「女のくせに」「女だから」又は「男のくせに」「男だから」などと言われた」が 37.0%、「不必要に身体をさわられた」が 35.2%、「結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた」が 25.9%、「性的な話や冗談を聞かされた」が 24.1%など多岐にわたっており、3つの場面の中でセクハラを受ける割合が最も多い。

性別でみると、「女のくせに」「女だから」又は「男のくせに」「男だから」などと言われた」は女性が 35.4%、男性が 50.0%で男性の方が 14.6 ポイント高かった。女性は「容姿や年齢について話題にされた」(43.8%)、「不必要に身体をさわられた」(39.6%)、「性的な話や冗談を聞かされた」(27.1%)「結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた」(27.1%)、「異性との交際について聞かれた」(22.9%) などすべての項目で被害がみられ、割合も「女のくせに」「女だから」又は「男のくせに」「男だから」などと言われた」以外は女性の方が高くなっていた。

年代別でみると、20代では「異性との交際について聞かれた」「結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた」「宴会などでお酌やデュエットを強要させられた」、30代や40代では「不必要に身体をさわられた」、また40代や50代では「容姿や年齢について話題にされた」などの割合が高く、年代によって受けたセクハラの内容が違っている。

図表5-13 セクハラを受けた内容・職場〔全体、年代別〕

(%)

		標本数	(A)職場で												
			「女のくせに」「女だから」などと言われた	「女のくせに」「女だから」などと言われた	女性の水着姿の写真やボストアを見せられた	宴会などでお酌やデュエツトを強要させられた	異性との交際について聞かれた	結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた	容姿や年齢について話題にされた	性的な話や冗談を聞かされた	性的なうわさをたてられた	不必要に身体をさわられた	性的な内容の手紙やメール、電話を受けた	交際を強要された	性的な関係を強要された
全 体		54 100.0	20 37.0	3 5.6	10 18.5	11 20.4	14 25.9	22 40.7	13 24.1	3 5.6	19 35.2	3 5.6	2 3.7	2 3.7	10 18.5
年 代 別	女性:20代	8	25.0	12.5	25.0	50.0	50.0	37.5	25.0	12.5	25.0	-	-	-	25.0
	女性:30代	15	33.3	6.7	20.0	33.3	33.3	33.3	26.7	13.3	53.3	6.7	-	6.7	13.3
	女性:40代	12	33.3	-	16.7	8.3	16.7	50.0	33.3	-	41.7	8.3	8.3	-	8.3
	女性:50代	9	44.4	11.1	11.1	-	11.1	55.6	22.2	-	22.2	11.1	-	-	22.2
	女性:60代	3	33.3	-	-	-	-	33.3	-	-	33.3	-	-	-	33.3
	女性:70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	1	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	男性:40代	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:50代	3	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
	男性:60代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	男性:70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答		1	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-	100.0	100.0	-

「学校に関わる場」では、3つの場面の中でセクハラを受けた割合が最も低く、該当者は女性のみとなっている。内容は「不必要に身体をさわられた」(4.2%)、「宴会などでお酌やデュエットを強要させられた」「結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた」「容姿や年齢について話題にされた」(同率 2.1%)などがあげられている。

年代別では女性の20代と40代で該当者がみられる。

図表5-14 セクハラを受けた内容・学校に関わる場〔全体、年代別〕

(%)

		標 本 数	(B)学校に関わる場で												
			「女にくせに」「女だから」 又は「男にくせに」「男だから」 などと言われた	女性の水着姿の写真やボス ターを見せられた	宴会などでお酌やデュエツ トを強要させられた	異性との交際について聞か れた	結婚や出産など、ブライ ベイトなことについてた び聞かれた	容姿や年齢について話題に された	性的な話や冗談を聞かされ た	性的なうわさをたてられた	不必要に身体をさわられた	性的な内容の手紙やメー ル、電話を受けた	交際を強要された	性的な関係を強要された	無回 答
全 体		54 100.0	- -	- -	1 1.9	- -	1 1.9	1 1.9	- -	- -	2 3.7	- -	- -	- -	52 96.3
年 代 別	女性:20代	8	-	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	87.5
	女性:30代	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	女性:40代	12	-	-	8.3	-	8.3	8.3	-	-	8.3	-	-	-	91.7
	女性:50代	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	女性:60代	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	女性:70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	男性:40代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	男性:50代	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	男性:60代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	男性:70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

「地域活動の場」では、割合は高くはないが「職場」と同様に多岐にわたってあげられており女性はずべての項目で該当者がいる。女性で最も高いのは「結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた」(14.6%)、「性的な話や冗談を聞かされた」(12.5%)、「女にくせに」「女だから」又は「男にくせに」「男だから」などと言われた」「異性との交際について聞かれた」「容姿や年齢について話題にされた」(同率 10.4%)などで1割を超えている。男性は「女にくせに」「女だから」又は「男にくせに」「男だから」などと言われた」が16.7%である。

年代別では、女性の20代ですべての項目に該当者がいる。

図表5-15 セクハラを受けた内容・地域活動の場〔全体、年代別〕

(%)

		標 本 数	(C)地域活動の場で												
			「女にくせに」「女だから」又は「男にくせに」「男だから」などと言われた	女性の水着姿の写真やボスターを見せられた	宴会などでお酌やデュエツトを強要させられた	異性との交際について聞かれた	結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた	容姿や年齢について話題にされた	性的な話や冗談を聞かされた	性的なうわさをたてられた	不必要に身体をさわられた	性的な内容の手紙やメール、電話を受けた	交際を強要された	性的な関係を強要された	無回答
全 体		54 100.0	6 11.1	1 1.9	3 5.6	5 9.3	7 13.0	5 9.3	6 11.1	1 1.9	2 3.7	1 1.9	2 3.7	1 1.9	44 81.5
年 代 別	女性:20代	8	25.0	12.5	12.5	25.0	37.5	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	62.5
	女性:30代	15	6.7	-	6.7	-	13.3	-	13.3	-	-	-	-	-	86.7
	女性:40代	12	-	-	-	-	-	8.3	-	-	-	-	-	-	91.7
	女性:50代	9	11.1	-	-	22.2	11.1	11.1	11.1	-	-	-	11.1	-	77.8
	女性:60代	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	女性:70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	男性:40代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	男性:50代	3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7
	男性:60代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	男性:70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答		1	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-

